

国立国語研究所学術情報リポジトリ

少年と新聞：小学生・中学生の新聞への接近と理解

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-06-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所, The National Language Research Institute メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001220

国立国語研究所報告 6

少年と新聞

——小学生・中学生の新聞への接近と理解——

国立国語研究所

1954

国立国語研究所報告 6

少年と新聞

—小学生・中学生の新聞への接近と理解—

国立国語研究所

1954

刊 行 の こ と ば

新聞がわれわれの社会生活に欠くことの出来ないものであることは言うまでもない。その新聞が、青少年たちにはどのように利用され、理解されているか、青少年たちはどのようにして新聞を読むようになるか、そういうことの実状は十分明かとは言えない。

そこで日本新聞協会と共同して、昭和二十七年末から二十八年の初めにかけて、主として小学生・中学生を対象として実状調査を試みた。都市の青少年と、農村地帯の青少年との間にはかなりの差のあることを予想して、調査地点としては、東京都内のほかに、千葉県下の二地点を選んで調査を実施した。

本書はその調査の結果の一部を整理したものである。調査には、研究所からは興水実、高橋一夫、森岡健二、芦沢節が参加し、新聞協会からは調査課長三宅東洲氏、亀井一綱氏その他の方々が参加された。なお、この報告書の作成には主として亀井一綱氏と森岡健二の両人が分担執筆し、これを興水実がまとめた。そしてこの報告書は、日本新聞協会の了解を得て、国立国語研究所の報告として刊行することとなった。

調査地点の方々が寄せて下さった理解と厚情に対しても、心から御礼申上げる。

1954 年 2 月 17 日

国立国語研究所長

西 尾 実

目 次

刊行のことば

はじめに..... 1

Ⅰ 新聞への接近 3

A 新聞にどう触れるか 3

1 いつから読み始めるか..... 3

2 どんな記事から読み始めるか..... 5

3 新聞を読み始めたわけ..... 7

4 新聞を毎日読むか、ときどき読むか..... 10

5 一日に何分読むか..... 11

6 新聞を読む場所..... 14

7 どんな新聞を読んでいるか..... 15

B 記事をどう読むか.....18

1 写 真..... 18

2 社 会 記 事..... 25

3 広 告..... 27

4 運 動 記 事..... 27

5 思い出す記事..... 32

6 読む記事，読まない記事..... 38

Ⅱ 新聞への接近と環境.....41

A 新聞への接近の測定 41

1 新聞距離点数..... 41

2 各記事への関心の度合い..... 43

B 距離と関心とを規定するもの 45

1 学 年..... 45

2	地 域	47
3	関心記事と学年および地域	49
4	性 別	55
5	居 住 歴	58
6	読 書	60
7	マス・メディアへの接触度	62
Ⅲ	新聞への接近と国語能力	64
A	学校の国語の成績	64
B	漢字および語彙の能力	65
C	読 書 速 度	69
Ⅳ	記事の理解	72
A	記事理解力はどのようにして測られたか	72
B	記事理解力の発達	73
C	どの記事が理解しやすいか	76
D	記事理解力と環境	77
1	地 域	77
2	性 別	79
3	居 住 歴	80
4	読 書	80
E	記事理解力と国語能力	82
1	学校の国語の成績	82
2	漢字および語彙の知識	82
F	記事理解力と新聞距離点数	86
V	マス・コミュニケーションの生活	90
A	事件をどのようにして知るか	90

B	小・中学生のための新聞	93
1	小・中学生新聞を読んでいるか	93
2	いつ頃(何年生)から小・中学生新聞を読み出したか	94
3	小・中学生新聞をどうして読み始めたか	95
4	どんな所が面白いのか	96
5	普通の新聞と較べて, どう思いますか	96
C	学校新聞・学級新聞	97
1	学校・学級新聞を読みますか	97
2	学校・学級新聞のどこが面白いのか	98
3	学校・学級新聞を読んでためになると思うか	99
4	新聞をつくるのを進んで手伝った人について	100
D	ラジオの利用	103
E	映画の利用	109
F	読書生活	114
結	び	124
A	この調査を通して, わかったこと	124
B	この調査から希望されること	125
C	調査への反省	126
参 考	この問題に関する今までの研究	127
附 録	調査実施のあらまし	132
A	調査地点・対象・期日	132
B	調査参加者	134
C	調査表の構成	135
1	新聞調査	135
2	新聞理解度と国語能力とに関する調査	142
3	生活環境調査	153

は　じ　め　に

国立国語研究所と日本新聞協会とで共同して、昭和二十七年十二月から二十八年一月にかけて、

- (1) 小学校四年生から中学校三年生までの青少年は、どのような経過で、おとなの新聞に近づくか
- (2) 何新聞のどこを多く読んでいるか
- (3) どういう記事に興味を持っているか
- (4) どの程度に理解しているか
- (5) それによってどんな影響を受けているか
- (6) 一般にマス・コミュニケーション(新聞・ラジオ・映画・雑誌・書籍による)の効果をもどのように受けとっているか

等の問題について、東京都と千葉県香取郡^{こうぎき}神崎村・印旛郡^{やちまた}八街町とで調査をした。

この調査は、元来、新聞の効果に関するもっと大きな調査の一部として、準備調査として計画され、実施されたものである。対象もはじめは小学校・中学校の児童・生徒に限っていなかった。むしろ、義務教育を終了しただけで実務についている国民の大多数が、マス・コミュニケーションの影響をどれだけ受けているか、どのような新聞の読み方をしているか、現代の新聞を正しく読んで理解して行く上にどのような障害が横たわっているかについて調査をするというのが、当初の目標であった。しかし今回の調査では小・中学生に主力を注いだ。

調査地点を千葉県と東京都に求めたのは、調査員の出張の都合上東京に近いところで、まだ十分に文化化されていない、閉鎖的な環境にある青少年にとって、マス・コミュニケーションにどんな役割りを果し、そこにどんな障害があるかを究めたいと考えたからである。ところが、実施してみると、調査地点として選ばれた神崎および八街町は、千葉県を代表してはいるが、わ

れわれのこの問題設定に対しては、やや文化都市的であり、かなり開放された地域であるように感じられた。したがって、閉ざされた地域と開放された地域（東京都の中央）とを比較するという当初の志向について十分な資料が得られたとはいえないが、それでも、都市的と農村的という二つの傾向が認められないわけではない。

調査の方法としては、次の五つを採用した。

- (1) 新聞への接近の程度や方法は、質問紙法および面接法によった。
- (2) 新聞記事の理解についてはペーパー・テストによった。
- (3) 被調査者の国語能力を知るために、学校成績を参考にし、特に、読字力・語い力・読書力についてペーパー・テストを行った。
- (4) 被調査者の生活環境を知るため、面接調査、質問紙による調査、教師に依頼しての調査などを行った。

調査の実施には、国立国語研究所員および日本新聞協会関係者があたった。調査担当者、調査の項目、問題、その他、実施のあらましについては、本書の最後に掲げてある。

この調査は、右に述べたように、はじめに準備の調査として企画したために、質問やテストの事項を非常に多くふくんでおり、中には大した成果の得られなかったものもある、そこで、その中から、目標を、

- (1) 新聞への正しい接近に有利な条件は何か
- (2) 不利な条件は何か
- (3) どうすればその不利を除くことができるか

の解明ということにしぼって、まとまるだけまとめ、他は次の機会にゆずることにした。

（研究第二部長 興水 実）

I 新聞への接近

A 新聞にどう触れるか

1 いつから読み始めるか

子供達はどんなふうに新聞に接近して行くだろうか。

4・5才位になると、毎日配達されてくる新聞の漫画を家の人にせがんで読んでもらうものである。しかし、ひらがながなんとか読めるようになると、家の人の新聞をとり上げて声を立てて漫画を読み、新聞をまいにち心待ちにするというふうに、初めは漫画を、日常的な身振的なものとして理解することから、国語能力の増大によって主体的に漫画をそれに附加された文字と関連してみるという段階をたどるのである。

新聞を「よむ」前に「みる」段階があるということは、漫画ばかりでなく写真からも言えることであるが、新聞に接近する手始めが漫画であるということは多くの子供について言えることであって、子供向きの漫画をのせている新聞には子供がなんということなしに親しさを感じ、ほかの記事も理解しと思うというふうな傾向がありはしまいか。

新聞漫画がどうあるべきであるかということは、今後の問題であるが、それへの橋渡しは一般の絵本や漫画本であって、それがかなりの段階までに到達していることは確かである。

そこで、ともかく少しでも、新聞の紙面（漫画をふくむ）に触れ始めると認められるのは、全体的に小学4年生からである。これは最初に読み始めに学年の累積率をみると明らかに認められる。

	小						中		
学 年	1	2	3	4	5	6	1	2	3
累積率	2.3	10.2	31.7	55.4	75.5	87.8	94.3	95.6	95.8

ところが「新聞のどこが面白いか」という質問で、小学5年になると漫画を面白いとする割合が、東京、神崎、八街各地域を通じ激減しているということには注意しなければならない。

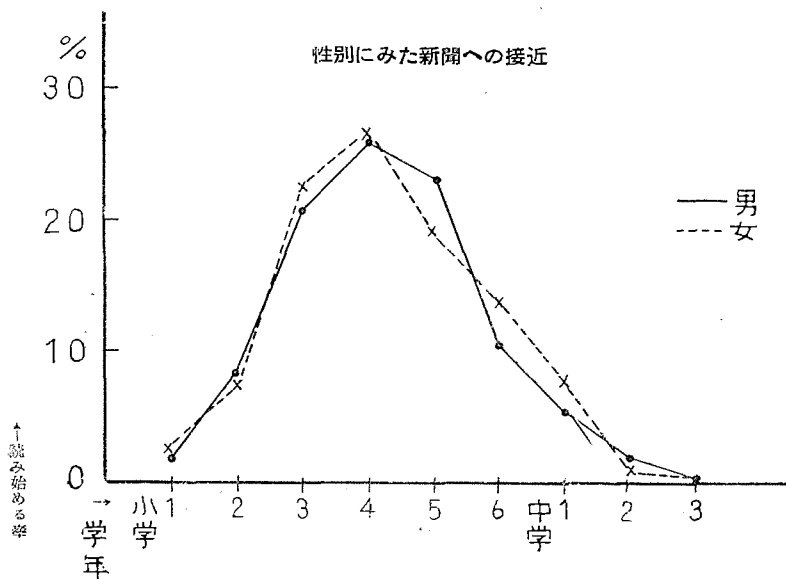
新聞のどこが面白いか（漫画について）

地域	小4	5
東 京	45.8	33.9
神 崎	61.2	37.8
八 街	51.9	30.4

注 各項総数を100%とする。

なお、この新聞接近の累積率を地域別にみると、小学4年で東京64%、神崎52%、八街51%であり、小学6年になると東京92%、神崎85%、八街84%である。

このように文化的圧力の高い東京では子供達に新聞への接近をより早くもたらしことが認められた（神崎と八街ではその差はきわめて僅かであり、しかも神崎の方がむしろ接近の度合いが高い）。（図表参照）



性別では、小学4年までは概して女の方が早く新聞を読み始める傾向がうかがわれるが、男では6年までに90%が読みの習慣を身につけるのに対して女は83%で7%も低く、男より一応の完成が延びているように思われる。

また、親の職業から神崎の小・中学生について検討すると、より知能要求度の高く社会的接触の高い職業とみられるサラリーマンの家庭の子供の方が

親の職業—家庭の文化的状況からみた新聞接近度合
(読み始めた率)



農家の子供よりも新聞への接近が早く、小学5年が34%と最も高率を占めている。これに対して農家では小学6年以上が43%となって最も高い。

このように、少年の新聞への接近の要因としては地域の文化的圧力が第一であり、その次には家庭の文化的状況が有力な要因となっていることがうかがわれた。

2 どんな記事から読み始めるか

子供達がどんなふうに新聞へ接近するか。その媒体として、漫画が家庭の絵本から社会の新聞への橋渡しであることを述べたが、一体それからどんな経路をとって新聞全体を読むようになるのだろうか。

新聞の記事で全く読まないものの状況をみると、次表のごとくである。

新聞記事で全く読まないものの率

(小学4年について)

記事別	地域別 性別	東京		神崎		八街	
		男	女	男	女	男	女
漫 画		4.0	0	0	0	0	0
ラジオ番組		29.2	36.0	28.2	31.6	55.6	80.0
運 動		16.7	56.0	18.0	35.3	38.9	88.5
広 告		30.0	20.0	35.0	29.4	50.0	59.3
社会記事		27.3	32.0	55.6	55.6	50.0	80.0
外国記事		66.7	75.0	88.9	70.6	91.3	100.0
子 供 欄		28.6	56.0	55.6	47.1	68.8	88.0

これから逆に、地域の如何を問わず、漫画から読み始めていることは明白で、運動がこれに次ぎ、広告、子供欄、社会記事、ラジオ番組の順に読まれていることが認められた。

更に「新聞を始めて見みたり読みだしたのはどこですか」についての答えをみると、次表のごとくである。

新聞を始めて見たり読みだしたのはどこですか

(各項回答総数をそれぞれ100としてみた%)

項 目	地域別 性別	東京				神崎				八街			
		小学		中学		小学		中学		小学		中学	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
漫 画		28.5	28.8	22.9	28.8	44.1	54.5	31.6	33.8	69.3	62.8	42.0	42.2
写 真		18.5	20.7	14.5	15.2	14.7	17.3	18.4	24.7	8.0	17.0	16.0	12.9
運 動		14.0	7.7	12.3	4.6	9.8	1.8	25.0	3.2	3.4	1.1	17.0	3.4
広 告		11.0	10.4	6.1	7.1	9.8	13.6	10.3	12.3	8.0	8.5	5.0	9.5
子 供 欄		10.0	13.1	4.5	8.1	0.7	1.8	0	2.6	1.1	1.1	2.0	4.3
社会記事		2.0	2.7	5.6	6.8	1.4	0.9	2.2	3.9	3.4	1.1	0	5.2
外国記事		2.5	0.4	2.2	3.0	1.4	0	1.5	0.6	1.1	0	5.0	2.6
社 説		0.5	1.4	0.6	0.5	1.4	0.9	0	0	0	2.1	0	1.7

これによっても圧倒的に漫画から新聞を見だすことが認められ、記事項目にはあげられてはいないが、写真がこれに次ぎ、運動または広告、子供欄、社会記事の順であることがみとめられた。

以上の事から、新聞を充分に内容的に理解する国語能力の素地がない場合

は、新聞で、人目を引く新聞紙面を地とすると、その図柄になるもの即ち漫画、写真、広告が子供の目にはっきりと捕捉され、然る後子供の生活に直接的な関聯のある運動とか家の中または学校その他で話題になる社会記事、子供向けの子供欄が目をつけられる対象になるようである。

この傾向は性、地域の如何を問わずみとめられるが、漫画からどの記事に向って行くかは性、地域、家庭の状況により異なるのであって、同じ4年でも文化的圧力の高い東京では漫画の段階を脱しているのに、文化的圧力の低い八街などはまだその段階に止まっているということも、こゝにみられるようである。

したがって性別でも、運動記事などは各地域を通じ男は女より直接的なものとして読んではいるが、女はさほどでもないという著しい差を示しているし、同じ4年でも子供の行動は家に招来する（色々の手伝をさせられる等）状況の低度な地域程そのよみ方が高度となっていることが見受けられた。

3 新聞を読み始めたわけ

では、どんなふうにして新聞を読みだしたかが問題となってくる。

漫画を読みだす（見だす）場合にしても、自分から進んで漫画本や絵本の延長として新聞の漫画を大人の見ている新聞に見出す場合と、大人から漫画を家庭教育の一端として読んで聞かせて貰うことから新聞を読み出す場合とがあるわけであり、更に学校で先生から新聞の社会的機能を説明されて訳もわからず、とにかく読み始める場合もある。

どんな読み始めをしているかについてみると、次表のごとくである。

これよりして、新聞への接近はとにかく毎日自分の家に新聞が配達されるとか、新聞が子供にとって容易に物理的に接近できる状態にある場合は、大した抵抗もなく子供に受け入れられる、即ち子供が自発的に新聞を漫画を通じてよむようになることが、各地域を通じて「自分から進んで」が67%以上になっていることからみとめられ、「家人のすすめ」が次に大きな要因と

地域 学年	東 京						神 崎					
	小4	5	6	中1	2	3	小4	5	6	中1	2	3
1. 自分から進んで	81.8	100.0	96.3	90.2	88.2	91.7	87.2	72.3	78.7	88.9	86.4	93.9
2. 父、母、家の人に進められて	18.2	8.3	9.3	7.8	9.8	0	7.7	21.3	19.1	17.8	9.1	6.1
3. 先生に進められて	4.5	0	0	9.8	5.9	2.5	5.1	6.4	0	2.2	0	2.0
4. そ の 他	0	0	0	3.9	3.9	12.5	0	2.1	2.1	0	4.5	2.0
回 答 者 数	44	43	54	51	51	48	39	47	47	45	44	49

地域 学年	八 街					
	小4	5	6	中1	2	3
1. 自分から進んで	66.7	64.0	82.2	91.1	95.8	90.0
2. 父、母、家の人に進められて	33.3	22.0	8.9	6.7	6.3	7.5
3. 先生に進められて	0	12.0	4.4	6.7	2.1	2.5
4. そ の 他	0	4.0	8.9	4.4	0	2.5
回 答 者 数	45	50	45	45	43	40

（回答者総数をそれぞれ100%とする。同一人で二重の答をしているので合計は100%以上になっているところがある。）

なっていることが認められる。

「学校の先生」の場合は先生個人の在り方で大分異ってくるのではっきりしたことは言えないようである。

東京のような文化的圧力の高い地域でに中学の高学年ほど他の地域に於けるより一層その他の方向から新聞を読むようになることも注意してよいことである。

そこで、ではどんな動機で読むようになるかが問題となる。自分から読み始める場合にも、いろいろの動機があるわけである。読みはじめた方向性とその動機は次表のごとくである。

大人の場合なぜ新聞を読むかときかされると、大概の人は世の中の出来事を知るためという一般的社会関心が高率を示すものである。

新聞を読み始めたわけ

() 内は回答者総数を100としてみたた%

学 年 別		4年	5年	6年	1年	2年	3年	男	女
人 数	総 数	150	150	148	149	148	141	440	446
	回答者数	128	145	146	141	143	137	420	420
1 自分から進んで	A 一般的社会関心	11 (8.6)	8 (5.5)	34 (23.0)	19 (13.5)	23 (16.1)	34 (24.8)	66 (15.7)	63 (15.0)
	B 一般の興味	55 (43.0)	75 (51.7)	69 (47.3)	75 (53.2)	79 (55.2)	61 (44.5)	220 (52.4)	194 (46.2)
	C 特殊の関心	14 (10.9)	15 (10.3)	13 (8.9)	17 (12.1)	10 (7.0)	11 (8.0)	38 (9.0)	42 (10.0)
	D そ の 他	20 (15.6)	17 (11.7)	10 (6.8)	16 (11.3)	17 (11.9)	20 (14.6)	39 (9.3)	61 (14.5)
2 父、母、家の人に進められて	A 一般の関心	4 (3.1)	4 (2.8)	4 (2.7)	4 (1.4)	6 (4.2)	1 (0.7)	8 (1.9)	13 (3.1)
	B 特殊の関心	5 (3.9)	6 (4.1)	4 (2.7)	4 (2.8)	3 (2.1)	3 (1.5)	8 (1.9)	16 (3.8)
	C そ の 他	17 (13.3)	15 (10.3)	10 (6.8)	9 (6.4)	3 (2.1)	3 (2.2)	26 (6.2)	31 (7.4)
3 先生に進められて	A 一般の関心	1 (0.8)	3 (2.1)	1 (0.7)	2 (1.4)	1 (0.7)	0	6 (1.4)	2 (0.5)
	B 特殊の関心	1 (0.8)	0	0	5 (3.5)	1 (0.7)	2 (1.5)	4 (1.0)	5 (1.2)
	C そ の 他	2 (1.6)	6 (4.1)	1 (0.7)	2 (1.4)	2 (1.4)	1 (0.7)	8 (1.9)	6 (1.4)
4 そのほか	A 一般の関心	0	0	0	2 (1.4)	1 (0.7)	1 (0.7)	3 (0.7)	1 (0.2)
	B 特殊の関心	0	0	0	0	0	0	0	0
	C そ の 他	0 (2.1)	3 (2.1)	5 (3.4)	2 (1.4)	3 (2.1)	7 (5.1)	14 (3.3)	6 (1.4)
記入なし		22	5	2	8	5	4	20	26

子供の場合では、面白い漫画（日常性をもつ）とか、出来事の写真とか広告とか一般に興味をひくからというのがなんといっても一番で、特殊の関心がこれに次いでいる。

これは各地域を通じ40%以上と極めて高くなっている。しかし学年別にみると、特殊の関心もさりながら、一般的社会関心からの割合が高学年になるにつれて上昇していることは、子供から大人への橋渡しといういみで、興味深い。

4 新聞を毎日読むか、ときどき読むか

これまで、どんな経路で新聞が子供に接近するかをみたが、それではどんなふうを受取っているか受け取り方を見てみよう。

こゝでは新聞を全体的に毎日読んでいるか、ときどき読んでいるか、読まないかについて検討してみた。

全体的には高学年のものほど閲読習慣が高くなってきている。小学4年では毎日読むものは26%だが、同5年では36%、同6年では48%、中学年で55%、同2年では72%と一応中学2年になればもう新聞を読む受け入れの態勢が成熟したと考えられる（次表参照）。

新聞閲読率

（無記入は除く）

	毎日よむ	ときどきよむ	よまない
学 小学4年	25.8	65.5	5.3
年 5 "	35.7	60.3	3.3
6 "	47.6	49.6	0
別 中学1年	55.0	42.2	0
2 "	72.3	26.3	1.3
3 "	70.3	28.3	0.7
地 東京	32.0	58.0	6.0
域 神崎	28.0	66.0	2.0
別 八街	18.0	72.0	8.0
性 男	55.1	41.4	2.2
別 女	47.2	50.0	1.6

地域別に小学4年でいつも読むものについてみると、東京32%、神崎28%、八街19%となつて、読み始める学年と同様に地域の文化的圧力による著しい相異を示しているが、中学1年になると東京55%、神崎54%、八街49%と一応読みの内容はともかく、新聞閲読習慣性は殆んど変らなくなってくる。

性別では、全体的にみるといつ

注 各項総人数それぞれを100としてみた%

も読むもの男55%、女47%とかなりな差がみられるが、なお東京では、小学4年で女より男が12%読む率が高く、神崎では19.6%、八街では21.3%男が女より高くなっており、文化的圧力の高い地域ほど男女の差は減少している。

なお日本新聞協会では昭和28年4月東京都第一区で実施の調査結果の新聞閲読習慣をみると、全体的にいつも読むものの率が小学卒47.8%、高小卒

(新中卒) 76.3%、中学卒(新高卒) 83.5%、高専卒以上 97% となっているが、本調査結果の小6年 47.6%、中3年 70.3% と比較すると、小学卒だけのものは社会経験がその後附加されても新聞の受けとり方に全く影響を与えないようであるが、中学(旧高小)卒となれば殆んど社会的に一度の読み方をしている上に社会経験の附加により読み方が上昇する余裕をもっていることがみとめられたことは面白いことである。

5 一日に何分読むか(読みの速さも含む)

新聞を子供達は漫画から始まり身近な社会の出来事を自分から気楽に読んでゆくようであるが、全体的な新聞の受取り方の内容を深めて行くのには新聞を読む時間がある程度長くなることが必要となってくる。

だから、もし漫画だけしか見ないとしたらほんの2、3分だけで充分こと足りるが、新聞を始めから終りまで、とばさないで理解しようとしたら大人だって何時間かかるかわからない。しかし大人にしても、新聞をそんなにまでして読む時間が第1ないのだから、時間的余裕によって、自分の関心記事と、ともかく社会的接触に恥をかかない程度には政経記事などを無理しても読んでおくということになっているようである。

そんなわけで、社会的に広く色々の事を知らなければ困る職業の人は色々の新聞を読んで、必要な記事を切り抜いてスクラップにしたりするわけで、そうなると新聞を読むことが「暇つぶし」どころか大事な仕事の一部分となってきたら、1日の中で2時間以上も新聞を読むことに使っている人もある。しかし普通の人にはラジオで聞いたり、人からの話だけでは忘れてしまったり、社会の出来事を満遍なく知ることができないので、新聞によって主に一般的知識を得て、それに自分の趣味だとかちよっと覚えておかなくてはという特殊的なものを補う意味から、30~60分位新聞を読むことで一応すましているわけである。

では、子供達は一日の中で一体何分ぐらい新聞を読む時間に使っているだ

ろう。

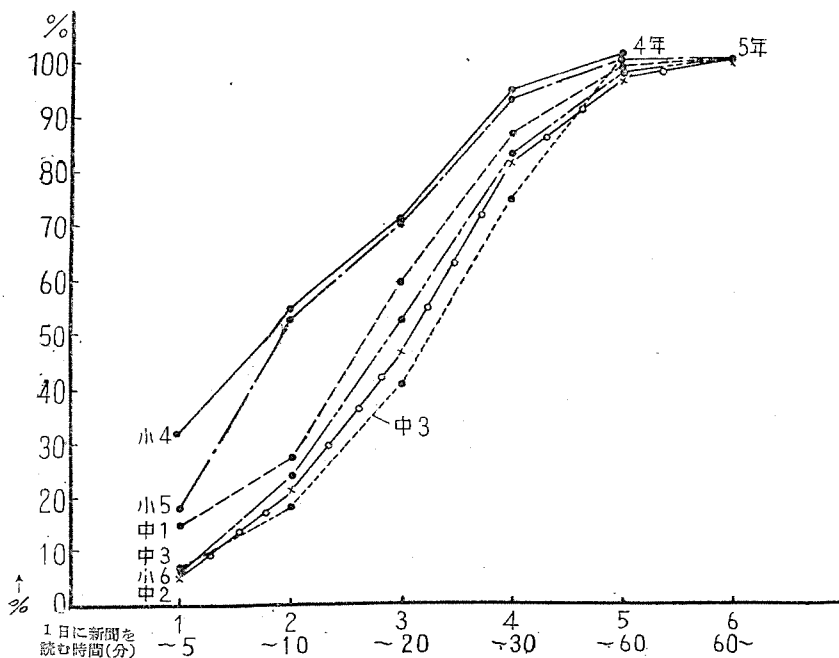
まず、学年別にみると、次表のごとく、高学年ほど新聞をよむ時間は増大している。

すなわち、累積率で10分未満をみると、小学4年55%、同5年53%、同6年24%、中学1年28%、同2年20%、同3年19%となっている。

学年別	小			中		
	4	5	6	1	2	3
時間(分)	16.8	18.7	25.8	26.2	26.6	29.7

なおまた、新聞を読む時間の平均でも、左表のごとくになって、小学6年で一応の固定を示し、中

新 聞 を 読 む 時 間 (累積曲線)



学3年で大体大人の読み方に近くなっていることが窺われる。

地域別では、次表のごとくである。新聞を読む時間5分未満をみると、東

新聞を読む時間		(地域別)				京11%、神崎12%、八街19%と
	東京	神崎	八街	全体		なっており、また30分以上をみ
～5分	11.4%	12.2%	19.2%	14.1%		ると東京16%、神崎15%、八街
～10	19.6	13.9	22.8	18.7		13%と、地域の文化的圧力の高い
～20	21.9	28.8	19.4	23.4		ほどよまれ方も概して長くなって
～30	31.6	29.9	25.1	29.0		いることが見受けられる。
～60	14.2	13.4	12.1	13.3		性別では下表のごとくで、全体
60分以上	1.3	1.8	1.1	1.5		的にはやはり男の方が女よりもや
計	(100%) 291名	(100%) 274名	(100%) 267名	832名		
平均時間	24.2分	21.5分	24.0分			

や長くなっていることは平均時間でも、30分以上読むものの率でもみとめられよう。

	平均時間(分)	読む時間					
		5分未満	10分未満	20分未満	30分未満	60分未満	60分以上
男	23.4分	14.9	20.6	20.4	27.7	14.3	2.1
女	23.0分	13.3	16.9	26.6	30.2	12.3	0.7

(男女総数をそれぞれ100としてみた%)

そこで次に新聞を読む時間と新聞を読む深さとの関聯を八街を例にとって詳細に検討してみよう。

まず、読む時間が長ければそれに比例して一応あれこれと新聞の記事を多く読むようになるわけで、新聞距離点数(ⅡA「新聞への接近の測定」で詳述)によって表わされる新聞の読み方や読みの深さの度合が高度となっていくわけである。

その結果をみると次表のごとくで、各学年について以上の在り方が明らかに認められ、全体的に5分未満では新聞距離3.3、10分未満4.1、20分未満4.6、30分未満6.0、60分未満7.3、60分以上12.0となっていることから、少なくとも小学4年から中学3年までの社会的適応の準備段階の時期では読む時間の長いほど新聞を深く読んでいることがみとめられる。

新聞を読む時間と読み方（八街）
（新聞距離点数）

学年 時間	小学4	5	6	中学1	2	3	平均 点
～5分	1.6	1.8	2.5	4.3	4.8	5.2	3.3
～10〃	2.1	3.1	3.7	4.6	5.0	6.0	4.1
～20〃	2.3	3.7	3.8	5.2	5.8	7.4	4.6
～30〃	3.1	5.0	5.3	7.1	7.3	8.2	6.0
～60〃	5.0	6.8	7.2	7.4	7.5	9.7	7.3
60分以上	—	—	—	—	9.0	15.0	12.0

次にみとめられることは、
この表にみられるように、
閲読習慣がつくに從って読
みのスピード（読書速度）
が速くなることである。同
じ時間でも高学年になれば
なるほど読み方が深くなっ

ていることである。

すなわち、5分未満についてみても、小学4年で新聞距離 1.6、同5年 1.8、同6年 2.5、中学1年 4.3、同2年 4.8、同3年 5.2となっており、この傾向はその他の時間についても同様にみとめられる。

6 新聞を読む場所

新聞は新しいニュースを載せて各家庭に毎日配布されるものだが、駅街頭での立売も全体の三割近くはある。それで、夕方の電車を見渡すと、大半の人々が夕刊を手に行しているのが見受けられる。

新聞はどこで読まれるかという、大人には主に家庭で読まれるわけだが、職業によっては勤務先で読んだり、通勤途次で読んだりすることが主になるということもある。

では、子供達ではどうだろう。

次表のごとく、大人と違って生活環境がまだ家庭に局限されているためか、圧倒的に（地域の如何を問わず 96 % の者が）家庭で新聞を読んでいる。

この傾向は学年別にみても、性別にみても同様であるが、たとえ東京のように文化的圧力の高い所では家庭の文化度が高いためもあって、その他の場所で新聞を読む必要が割に少いの、神崎、八街などの文化的圧力の比較的低い所では学校が家庭での文化度を補う意味もあってか、学校で新聞を読む割合が高くなっている。すなわち全体的に学校で新聞を読む割合が東京 1.3 %、

新聞を読む場所		() 内は回答者数を 100 としてみた %					
地 域 別	東 京	神 崎	八 街				
性 別	男	女	男	女	男	女	
人 数	151	156	144	143	146	143	
総 人 数	149	152	132	142	138	131	
回答者数							
1 自 分 の 家	147(98.7)	152(100.0)	127(96.2)	140(98.6)	132(95.7)	129(98.5)	
2 電 車	0 (0)	1 (0.7)	0 (0)	1 (0.7)	1 (0.7)	1 (0.8)	
2 学 校	3 (2.0)	1 (0.7)	11 (8.3)	14 (9.0)	16(11.6)	9 (6.9)	
4 駅	1 (0.6)	1 (0.7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
5 そ の 他	2 (1.3)	2 (1.3)	2 (1.3)	2 (1.4)	5 (3.6)	1 (0.8)	
記入なし	2	4	12	6	8	12	

神崎 9.1%、八街 9.8% となっていることは注目してよいことである。

7 どんな新聞を読んでいるか

まず全体として、地域別にどんな新聞を家ですべて読んでいるかをみると、次表のごとくで、三全国紙（朝日・毎日・読売）が各地域を通じる割合を占めている。

東京では夕刊としての東京新聞、経済紙をはじめとし各種類の新聞が広く家庭でとられているのに対し、千葉では東京新聞の代りに地元紙（千葉新聞小地方紙）が大体同じ割合（10%）でとられ、農業紙がこれに次ぎ、経済紙その他となっている。

これを一家庭当り新聞部数でみると、東京 1.96、神崎 1.61、八街 1.72 となっている。

さて、子供達はどんな新聞を読んでいるかをみると、次表のごとくである。まず、第一番目に家ですべて読んでいる新聞に接するが、これへの接近が容易でない場合は家ですべて読んでいる新聞の割合と子供が読む新聞の割合とが相異してくるわけである。

そこで子供の読む新聞の比率を基準として、家ですべて読んでいる新聞との比較を十または一で表わせば、十は子供にとってより接近しやすい事を、一はその逆を意味すると一応巨視的に考えられよう。この差を便宜的に接近差率と呼ぶ。

どんな新聞を読んでいるか

() 内は各地域総員を100としてみた%

新聞名	家でとる新聞			子供が読む新聞		
	東京	神崎	八街	東京	神崎	八街
1 朝日	98 (15.6)	112 (23.1)	25 (4.7)	89 (16.6)	118 (27.6)	33 (6.6)
2 毎日	103 (16.5)	86 (17.6)	167 (32.4)	93 (17.4)	89 (20.8)	170 (34.0)
3 読売	129 (20.5)	102 (21.1)	84 (16.3)	127 (23.6)	107 (24.9)	88 (17.6)
4 産業経済	54 (8.5)	12 (2.4)	31 (6.0)	42 (7.8)	7 (1.6)	31 (6.2)
5 日本経済	26 (4.1)	50 (6.1)	20 (3.8)	10 (1.9)	16 (3.7)	10 (2.0)
6 報知	3 (0.5)	1 (0.2)	2 (0.4)	5 (0.9)	1 (0.2)	1 (0.2)
7 時事新報	21 (3.0)	3 (0.6)	3 (0.6)	11 (2.1)	1 (0.2)	3 (0.6)
8 日本タイムス	2 (0.3)	4 (0.8)	1 (0.1)	2 (0.4)	0 (0)	1 (0.2)
9 新夕刊	8 (1.1)	0 (0)	4 (0.8)	2 (0.4)	0 (0)	1 (0.2)
10 サン写真	11 (1.8)	3 (0.6)	7 (1.3)	11 (2.1)	3 (0.7)	9 (1.8)
11 東京日日	13 (2.1)	4 (0.8)	4 (0.8)	6 (1.1)	0 (0)	3 (0.6)
12 東京タイムス	21 (3.4)	3 (0.6)	1 (0.1)	24 (4.5)	2 (0.5)	0 (0)
13 英文毎日	3 (0.5)	1 (0.2)	3 (0.6)	3 (0.6)	0 (0)	1 (0.2)
14 日刊スポーツ	33 (5.3)	4 (0.8)	6 (1.2)	32 (6.0)	7 (1.6)	13 (2.6)
15 東京	87 (13.8)	6 (1.2)	3 (0.6)	54 (10.1)	5 (1.2)	3 (0.6)
16 千葉	0 (0)	18 (3.6)	48 (9.2)	0 (0)	20 (4.6)	42 (8.4)
17 農村	0 (0)	22 (4.4)	0 (0)	0 (0)	14 (3.2)	1 (0.2)
18 農業	0 (0)	11 (2.3)	9 (1.7)	0 (0)	5 (1.2)	2 (0.4)
19 その他	13 (2.1)	62 (12.6)	95 (16.4)	10 (1.9)	23 (5.4)	70 (14.0)
20 無記入	4 (0.6)	5 (1.0)	8 (1.5)	14 (2.6)	0 (0)	0 (0)
21 取っていない	2 (0.3)	8 (1.6)	8 (1.5)	0 (0)	11 (2.6)	18 (3.6)
合計	631(100.0)	496(100.0)	529(100.0)	555(100.0)	429(100.0)	500(100.0)
一家庭当部数	1.96	1.61	1.72			

全体的に読売、毎日、朝日の三全国紙、東京タイムス、サン写真、日刊スポーツ等は各地域を通じ接近差率が十となっている。

これはなんといっても子供の関心をより生起しやすい記事が多いとか、又は理解しやすい記事があるとか何かしら子供に接近しやすい要因を持っていると考えられよう。

なお、これを東京について学年別に各新聞を検討すると、全体的と全く同様な傾向が次表のごとく明らかにみられ、小学4年の接近差率は読売が最も

ど ん な 新 聞 を 読 ん で い る か

学 年 別 { 上記は家でとる新聞の比率 ()は接近差率
 { 下記は自分で読む " }

(東 京)

		小 学 校			中 学 校			総合評価
		4	5	6	1	2	3	
1 朝	日	22.7 20.6(-2.1)	15.7 17.3(+2.4)	10.1 12.0(+1.9)	9.7 10.3(+0.6)	19.0 18.2(-0.8)	20.7 18.5(-2.2)	(-0.2)
2 毎	日	18.6 19.4(+1.2)	19.6 20.9(+1.3)	10.8 12.0(+1.2)	23.9 18.9(-4.9)	18.2 18.3(+0.3)	19.6 21.8(+2.2)	(+4.3)
3 読	売	36.9 43.2(+6.3)	22.9 26.8(+3.9)	24.2 27.1(+2.9)	13.3 17.9(+4.6)	17.5 14.5(-3.0)	22.2 22.4(+0.2)	(+14.9)
4 産 業 経 済		4.6 8.9(+4.3)	9.6 5.8(-3.8)	7.3 8.3(+1.0)	16.8 7.3(-9.5)	8.9 7.8(-1.1)	6.9 8.6(+1.5)	(-7.6)
5 日 本 経 済		4.1 1.3(-2.8)	1.9 1.1(-0.8)	7.1 3.6(-3.5)	4.6 0.9(-3.7)	1.5 0.9(-0.6)	5.7 2.3(-3.4)	(-14.8)
6 報 知		0 0 (0)	0 1.2(-1.2)	2.4 2.5(+0.1)	0 0 (0)	0 0 (0)	1.1 2.0(+0.9)	(-0.2)
7 時 事 新 報		0 0 (0)	0 0 (0)	1.6 1.2(-0.4)	5.6 3.8(-2.2)	8.7 4.9(-3.8)	2.3 1.0(-1.3)	(-7.7)
8 日 本 タイムス		0 0 (0)	1.1 1.1 (0)	1.2 1.2 (0)	0 0 (0)	0 0 (0)	0 0 (0)	(0)
9 新 夕 刊		0 0 (0)	1.9 0 (-1.9)	2.0 0.7(-1.3)	0.9 0 (-0.9)	1.5 0.9(-0.6)	0 0 (0)	(-4.7)
10 サ ン 字 真		1.1 1.3(+0.2)	2.8 3.4(+0.6)	2.9 3.7(+0.8)	0.9 0 (-0.9)	0.8 0 (-0.8)	1.1 2.0(+0.9)	+0.8)
11 東 京 日 日		1.1 2.6(+1.5)	1.1 2.3(+1.2)	3.8 3.6(-0.2)	1.8 0 (-1.8)	1.9 0 (-1.9)	2.6 0 (-2.6)	(-6.4)
12 東 京 タイムス		1.1 2.6(+1.5)	4.6 6.9(+2.3)	4.1 4.7(+0.6)	3.6 4.7(+1.1)	2.4 1.9(-0.5)	3.4 5.8(+2.4)	(+7.4)
13 英 文 毎 日		1.1 0 (-1.1)	0 1.1(+1.1)	1.6 0.9(-0.7)	0 0 (0)	0 0.9(+0.9)	0 0 (0)	(+0.2)
14 日 刊 スポーツ		2.2 1.3(-0.9)	2.9 4.8(+1.9)	7.1 6.5(-0.6)	9.5 16.8(+7.3)	6.0 4.8(-1.2)	2.1 4.6(+2.5)	(+9.0)
15 東 京		4.2 1.3(-1.9)	29.6 27.8(-1.8)	11.6 11.1(-0.5)	15.3 18.7(+3.4)	14.3 8.7(-5.6)	11.6 10.2(-1.4)	(-7.8)

高く+6.3、産経+4.3、東京タイムス+1.5、毎日+1.2、の順であるが、6年になると読売+2.9、朝日+1.9、毎日+1.2、産経+1.0、東京タイムス+0.6と変化しているのは要するに身心の発達に伴い新聞を読む態度が変化するためと考えられる。

同様のことが日刊スポーツなど特殊的なものにもみられ、小学4年-0.9、同5年、1.9、同6年-0.6、中1年+7.3となっている。

なお、性別に接近差率をみると、男はスポーツ紙に+2.3であるのに、女は-0.6と可成りの差を示しているが、読売に対しては男+3.4、女+4.0と大体同じ度合を示し、この傾向はその他の全国紙、東タイ等にみられ、一の場合も日本経済には男-2.5、女-1.9となって時事新報、東京日日、東京

新聞でも同様な一の傾向を示している。

また面白いことは、東京と神崎とについて三全国紙についての小学4年から中学3年までの接近差率合計をみると次表のごとくで、地域の文化的圧力

地域	東京	神崎	
新聞			の高い東京ではいずれの新聞についてみても、文
朝日	+4.6	+40.0	化的圧力の低い神崎より接近差率合計が低くなっ
毎日	+9.9	+20.8	
読売	+19.3	+30.0	ていることは文化的圧力の高い地域では新聞以外

のマス・コミュニケーションの媒体がそうでない地域より一層高度に利用できるのに、文化的圧力の低い地域では印刷材として新聞以外に容易に利用できるものがあまりなく、せいぜい学校のものを利用するぐらいという実状によるのではないだろうか。また東京、神崎を通じて、読売が極めて高いことは新聞購入決定者である家の人と子供とが読売に対しての接近が逆の関係にある、即ち大人はやゝ一方向に、子供は十方向にある一という事実によるものではないかと考えられる。

B 記事をどう読むか

1 写真

漫画について写真が子供を新聞へ接近させる大きな要因であることは、すでに新聞をみたりよみ出したりする動機の調査に於て、漫画に次いで写真が高率を示していることから明らかである。大人が疲労しているとき字の一ぱい羅列してある普通道の新開よりも写真の一ぱいのっかっている新聞をとりあげたくなることからこのことは窺われる。

a. 新聞の写真を全部みるか

新聞には政治家の写真を始め、事件の写真、風景の写真等が色々とのせられてゐるが、子供達ほどの程度みるだろうか。

その結果は次表の如くで、ともかく7割のものがのせてある写真の半分以上をみており、学年別には高学年ほど写真を記事との関連においてみてい

る。各学年の回答者を100%とした場合、東京では小学4年48%、同5年61%、同6年84%のものが全部写真を一進度みると答えていることがこれを裏づけている。

新聞の写真を全部読みますか () 内は回答総数を100としてみた%

性 別 入 数	東京小		東京中		神崎小		神崎中		八街小		八街中	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
1 全 部	72 (51.4)	81 (48.1)	77 (61.0)	75 (57.3)	77 (31.2)	68 (23.5)	63 (46.0)	79 (44.3)	74 (29.7)	72 (15.3)	71 (46.5)	68 (55.9)
2 半 分 位	12 (16.7)	12 (14.8)	12 (16.2)	12 (16.0)	31 (40.3)	30 (44.1)	20 (31.7)	26 (32.9)	18 (24.3)	27 (37.5)	16 (22.5)	14 (20.6)
3 少 し	4 (5.6)	5 (6.2)	6 (7.8)	8 (10.7)	16 (20.8)	21 (30.9)	9 (14.3)	14 (17.7)	26 (35.1)	28 (38.9)	11 (15.5)	8 (11.8)
4 少しもみな い	0 (1.2)	1 (1.3)	1 (1.3)	0	0	0	0	0	2 (2.7)	4 (5.6)	0	0
5 記入なし	19	24	11	12	6	1	5	4	6	2	11	8

性別には、東京、神崎を通じ男の方が写真を全部みる度合が次表のごとく高くなっている。

	東京		神崎	
	小学	中学	小学	中学
男	71.2	71.4	34.2	50.3
女	68.3	68.5	24.3	46.2

注 (無記入を除く、回答者総数を夫々100%とする)

b. 新聞の写真はどんな感じを与えたか

(1) 面白かった写真はどんなものですか。

(でしたか。)

(2) つまらない写真はどんなものですか。

(でしたか。)

(3) いやな感じの写真はどんなものですか。

について

(でしたか。)

新聞の写真が記事についてと同様倫理化が云々されている現況よりして、心あたたまる感じを与えるものと新聞本来の報道的なものとがどの程度にのせられるべきかは新聞紙面作成者にとっても、また読者にとっても大きな問題である。

新聞の写真をまず人物、風物、出来事、運動、その他に五大別して比較検討してみる(21~24頁の表参照)。

また写真をみる受取り手にとって、面白い(よい)もの(以下A)は積極的な愉快感(+)を与えるものであり、つまらないもの(以下B)は中性感

(0) 感を与えるものであり、いやなもの(以下C)は積極的な不愉快感
(一) 感を与えるものと考えられよう。

全体的には、なんといっても子供達には出来事が58%の+感をその他のものより高度に与えてはいるが、同時に-感84%を与えている。これは更にC 2表でみると、きらわれた最大の原因が殺人現場などの人工的事件にあることが明らかとなってくる。

次に+感の高いのは1表のごとく運動で43%を占め、-感は1.4%にすぎない。これはA 2表に見るごとく男には+62%だが、女には+23%と性別に著しい差を示してはいるものの、ともかくだれにも受け入れられる写真の一つであろう。

+感第三番目は風物で+23%を示し、-感は4%にすぎない。地域別でも1表の如くで東京の+感は少しくその他の地域より低く、性別では女+33%に対し男+13%と著しい差を示し、学年別でも2表の如く小学4年+15%、同5年+23%、同6年+24%、中学2年+31%と高学年ほど漸高の傾向を示している点から、新聞以外に風物の写真をみる余裕のある人達は概して少い以上、新聞の風物写真は心あたたまる感じを子供にもう与えているものと考えられる。

最後は人物で全体的に+10%を示してはいるが、0感49%、-20%を示しているのはどうしたことだろう。

この傾向はC 2表でわかるように、エロ的なものに対する嫌悪感と同時に人物に対する中性感から生起するようである。

しかしB 2表にみられる如く、高学年ほど0感が減少するようで、0感は小学4年54%、中学1年49%、同2年33%、同3年21%となっているのは、人物を新聞の記事との関連においてみるようになるからではないかと考えられる。

なお出来事の中の社会的威光とは社会的出来事が自分に何等かの權威性を

1表

新聞の写真はどんな感じを与えたか

(全体、性別、地域別)

写真種別	全 体			性 別			地 域		
	A	B	C	男	女	別	東 京	神 崎	別 八 街
1. 人 物	9.9	49.2	19.6	A 7.4	B 50.3	C 24.7	A 16.4	B 58.7	C 16.6
2. 風 物	22.9	10.3	4.2	A 12.9	B 12.4	C 4.3	A 25.9	B 8.4	C 3.1
3. 出 来 事	52.9	17.3	83.7	A 59.3	B 17.3	C 73.4	A 69.3	B 15.9	C 82.0
4. 運 動	42.5	12.6	1.4	A 62.1	B 9.2	C 2.5	A 24.8	B 7.5	C 0
5. そ の 他	5.0	21.2	14.2	A 3.6	B 21.1	C 17.3	A 4.2	B 22.4	C 6.1
回答者総数	590	358	343	309	185	162	189	107	132

注 Aは面白かった、Bはつまらない、Cはいやだと思った写真の(回答者各総数に対する)割合

2表

新聞の写真はどんな感じを与えたか

(学 年 別)

写真種別	小学4年			5 年			6 年			中学1年			2 年			3 年		
	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
1. 人 物	13.0	56.7	18.7	12.3	54.3	13.2	14.8	60.0	18.5	6.5	51.3	22.6	2.3	35.3	21.1	7.4	20.6	26.5
2. 風 物	14.8	1.5	2.1	22.9	7.1	7.5	24.4	10.0	2.9	14.0	11.9	1.4	31.1	13.7	7.7	32.3	25.7	6.1
3. 出 来 事	55.6	11.9	60.5	51.5	11.4	62.9	45.3	15.0	98.5	41.2	21.1	65.0	48.4	29.4	69.1	44.4	17.6	61.3
4. 運 動	45.3	16.4	2.1	44.8	14.3	1.9	52.2	11.7	2.9	32.7	5.3	1.4	50.6	15.7	0	29.4	14.7	0
5. そ の 他	3.7	20.9	22.9	4.8	18.6	18.9	9.6	21.7	62.9	6.5	18.4	19.7	2.3	19.6	11.5	0	35.3	14.3
回答総人数	108	67	48	105	70	53	115	60	70	107	76	71	87	51	52	68	34	49

注 Aは面白かった(よかった)、Bはつまらない、Cはいやな写真の(回答者各総数に対する)割合

A 2 表

おもしろかった写真はどんなものですか

(愉快感=十感)

() 内は回答者数を 100 としてみた%

学 年	4 年	5 年	6 年	1 年	2 年	3 年	男	女
人 数	総人数	149	146	145	147	141	434	443
	回答者数	108	105	107	87	68	309	281
1. 人物写真	通	14(13.0)	13(12.3)	17(14.8)	7 (6.5)	2 (2.3)	23 (7.4)	35(12.5)
エロ的なもの								
2. 風物	一般景色	2 (3.7)	9 (8.6)	3 (2.6)	8 (7.5)	5 (5.7)	14 (4.5)	23 (8.2)
	動物	3 (2.8)	5 (4.8)	5 (4.3)	1 (0.9)	1 (1.2)	9 (2.9)	10 (3.6)
	静物	3 (2.8)	2 (1.9)	6 (5.2)	1 (0.9)	1 (1.2)	4 (1.3)	11 (3.9)
	動物(映画演劇等)	6 (5.6)	8 (7.6)	14(12.2)	5 (4.7)	20(23.0)	13 (4.2)	48(17.1)
	皇室関係	19(17.6)	7 (6.7)	17(14.8)	10 (9.3)	16(18.4)	26 (8.4)	55(19.6)
	社会的感	4 (3.7)	4 (3.8)	4 (3.5)	1 (0.9)	3 (3.4)	9 (2.9)	8 (2.9)
	運動性をもつ物	12(11.1)	10 (9.5)	5 (4.3)	5 (4.7)	5 (5.7)	38(12.3)	6 (2.1)
	運動性をもつ者	1 (0.9)	1 (1.0)	2 (1.7)	3 (2.8)	3 (3.4)	7 (2.3)	3 (1.1)
3. 出来事	紹介記事	6 (5.6)	7 (6.7)	6 (5.2)	9 (8.4)	6 (6.9)	14 (4.5)	23 (8.2)
	事件(天災的)	0	0	1 (0.8)	0	0	1 (0.3)	0
	学術事件(人工的)	12(11.1)	19(18.1)	15(13.0)	16(15.0)	6 (6.9)	41(13.3)	32(11.4)
	学術的	3 (2.8)	1 (1.0)	0	0	2 (2.3)	6 (1.9)	2 (0.7)
	戦争	3 (2.8)	3 (2.9)	2 (1.7)	0	1 (1.2)	8 (2.5)	1 (0.4)
	血なまぐさい(グロウ的)	1 (0.9)	2 (1.9)	0	2 (1.9)	0	3 (0.9)	2 (0.7)
4. 運動		50(46.3)	47(44.8)	60(52.2)	35(32.7)	44(50.6)	192(62.1)	64(22.8)
5. その別		4 (3.7)	5 (4.8)	11 (9.6)	7 (6.5)	2 (2.3)	11 (3.6)	18 (6.4)
6. 記入なし		41	44	31	38	60	125	162

B2表

つまらない写真はどうなのですか (中性感=0感)

() 内は回答者数を100としてみた%

学 年	4 年	5 年	6 年	1 年	2 年	3 年	男	女
人 数	149	149	146	145	147	141	434	443
総人数	67	70	60	76	51	34	185	173
回答者数	36(53.7)	38(54.3)	36(60.0)	37(48.7)	17(33.3)	7(20.6)	89(48.1)	82(45.1)
1. 人物写真	2 (3.0)	2 (2.9)	2 (3.3)	2 (2.6)	1 (2.0)	2 (5.9)	4 (2.2)	1 (0.6)
余情的なもの				6 (7.9)	1 (2.0)		7 (3.8)	6 (3.5)
2. 風物								
一般景色								
動物								
静物								
動物(映画演劇等)	1 (1.5)	3 (4.3)	3 (5.0)	3 (3.9)	5 (9.8)	6 (17.6)	13 (7.0)	8 (4.6)
皇室関係								
社会的威光								
運動性をもつ物	1 (1.5)		2 (3.3)		1 (2.0)	1 (2.9)	2 (1.1)	1 (0.6)
運動性をもつ者	1 (1.5)	1 (1.4)			2 (3.9)	1 (2.9)	3 (1.6)	2 (1.2)
3. 出来事	1 (1.5)		2 (3.3)	2 (2.6)	6 (11.8)		9 (4.9)	2 (1.2)
紹介記事								
事件(天災的)								
学術的	3 (4.5)	5 (7.1)	5 (8.3)	14 (18.4)	6 (11.8)	4 (11.8)	14 (7.6)	23 (13.3)
戦争	2 (3.0)	2 (2.9)					2 (1.1)	2 (1.2)
戦なまぐさい(プロ的)								
4. 運動	11 (16.4)	10 (14.3)	7 (11.7)	4 (5.3)	8 (15.7)	5 (14.7)	17 (9.2)	28 (16.0)
5. その他	14 (20.9)	13 (18.6)	13 (21.7)	14 (18.4)	10 (19.6)	12 (35.3)	39 (21.1)	37 (21.4)
記入なし	82	79	86	69	96	107	249	270

C2表

いやな写真はどうなものですか

(不愉快感=一感)

() 内は回答者数を100としてみた%

学 年	4 年	5 年	6 年	1 年	2 年	3 年	男	女
人 数	149	141	146	145	147	141	434	443
総 回 答 者 数	48	53	70	71	52	49	162	181
1.人物写真 { 普 通	5(10.4)	4 (7.5)	5 (7.1)	7 (9.9)	2 (3.8)	3 (6.1)	17(10.5)	9 (5.0)
{ エロ的なもの	4 (8.3)	3 (5.7)	8(11.4)	9(12.7)	9(17.3)	10(20.4)	23(14.2)	20(11.0)
余情的なもの { 一般 動 物								
色 物								
静 物								
動物 (映画演劇等)	1 (2.1)	4 (7.5)	2 (2.9)	1 (1.4)	3 (5.8)	2 (4.1)	5 (3.1)	8 (4.4)
皇室関係			1 (1.4)					
社会的威光								
運動性をもつ物		1 (1.9)						
運動性をもつ者	1 (2.1)		4 (5.7)	1 (1.4)	1 (1.9)	2 (4.1)	4 (2.5)	5 (2.8)
紹介記事		1 (1.9)			1 (1.9)		1 (0.6)	1 (0.6)
事件 { 天災的	22(45.8)	32(60.4)	58(82.9)	41(57.7)	32(61.5)	24(49.0)	101(62.3)	108(59.7)
学 術 的		1 (1.9)						1 (0.6)
戦争	5(10.4)	1 (1.9)	3 (4.3)	3 (4.2)	2 (3.8)	3 (6.1)	7 (4.3)	10 (5.5)
血なまぐさい (ゴロ的)	1 (2.1)		3 (4.3)	1 (1.4)		1 (2.0)	5 (3.1)	1 (0.6)
1 (2.1)	1 (1.9)	2 (2.9)	1 (1.4)				4 (2.5)	1 (0.6)
11(22.9)	10(18.9)	2 (2.9)	14(19.7)	6(11.5)	7(14.3)	27(17.3)	23(12.7)	
101	96	76	74	95	92	272	262	
4.運動								
5.その他								
記入なし								

感ぜしめる一表彰式とか権威ある会合とかのようなものを一意味する。

2 社会記事

漫画から始まって、小学4年でも社会記事を5割はともかくよんでいるが、ではその中でどんなものが面白く、どんなものがよんでいやな感じを受け、どんなものがよんでためになったと子供達は思うのだろうか。

(1) 面白いと思うのはやはり興味的なものであり、(2) ためになったと思うのは学習的なものであり、(3) いやな気持(感じ)というのは嫌悪感情的なものであるとすれば、次表のごとき全体的状態がみられる。

		(1) 興 味 的					(2) 学 習 的					(3) 嫌 悪 情 的				
		犯 罪 1	関 係 2	事 故 3	社 会 的 件 4	そ の 他 5	美 談 的 1	教 育 的 2	そ の 他 3	回 答 者 数 人	総 数 人	不 道 徳 1	恐 ろ しい 2	嫌 悪 的 3	そ の 他 4	回 答 者 数 人
全 体		49.5	3.6	38.3	29.5	531	52.5	14.4	42.2	437		75.0	44.5	17.8	656	
性 別	男	60.9	3.8	28.5	27.8	263	46.5	17.1	50.3	187		77.0	38.2	17.5	309	
	女	38.8	3.4	47.8	31.3	268	57.2	12.4	45.2	250		73.2	50.1	17.6	349	
地域別	東京	61.7	1.1	30.7	33.2	192	47.5	19.0	55.7	158		86.6	39.2	16.8	237	
	神崎	41.5	4.9	42.7	33.5	164	53.7	16.3	28.5	132		73.5	53.3	16.7	227	
	八街	51.3	5.1	42.2	20.5	175	49.5	17.6	50.2	147		67.1	40.5	20.3	192	
学年別	小4	18.5	9.3	25.9	51.8	54	55.1	2.0	55.1	49		75.0	29.0	17.0	100	
	5	49.3	4.0	36.0	22.7	75	40.0	11.7	58.3	60		78.4	44.3	18.2	88	
	6	78.9	3.5	26.1	16.7	114	68.6	8.6	35.2	105		77.4	51.8	19.7	137	
	中1	39.8	0	47.0	32.6	98	47.9	18.3	47.9	71		75.2	45.0	13.7	109	
	2	53.0	6.0	32.0	42.0	100	53.4	16.4	42.5	73		70.9	52.1	22.2	117	
	3	38.9	1.1	67.8	21.1	90	43.0	26.6	54.4	79		73.3	46.0	15.2	105	

(各項回答総数を100としてみた%)。

この調査では、面白いと思うものはどんなものですかの問に対して、こんな事というふうに回答させたのを整理したので、本来は具体的な色々の種類の記事について同一条件にして実験しなければほんとうの実態は把握できないわけで、それは今後の問題として残されている。

さて (1) 興味的なもの (面白いもの)、では、全体的にみると、なんといい

ても犯罪関係が第1で50%、次に社会事件の報道38%となっており、事故の報道は4%にすぎない。これは子供が好戦的だということでもないのに戦争ごっこが好きだということと同様である。もちろん男では犯罪等に興味を持つもの61%だが、女では39%と著しく異って、女はその代りに社会的事件の報道を48%（男29%）とより好んでいる。地域的には犯罪を面白いとする割合は東京の方が62%と、その他の地域（神崎42%、八街51%）より、かなり高いのは都会の人が何かしら刺激を求めているということの一つの現われとも思われる。

たゞ注目すべきことは、学年別にみて、社会的事件の報道を面白いとする率が小学4年26%、中学1年47%、同3年68%と高学年ほど上昇を示していることである。

第二に学習的なもの（ためになる）では、全体的に美談的なもの53%が、最も高く、第二は学習その他に役に立つ教育的なもの14%となっている。

性別にみて、美談的なものをためになるとする割合は男が47%で女（57%）より低い、教育的なものでは男の方が17%で女（12%）より、高くなっている。

地域別では東京の子供が教育的なものを学習的なものとする割合は19%とその他の地域（神崎16%、八街18%）よりやや高く、美談的なものは48%と全体平均（52%）より低度となっている。

学年別では、美談的なものをためになるとする割合は殆んど変化をみないが、教育的なものをためになるとする割合は高学年ほど上昇し、小学4年2%、同6年9%、中学1年18%、同3年27%となっている。

第三に嫌悪感情的なものでは、ざんこくなもの、恐ろしいものをいやだとする割合が75%で最も高く、次が不道德なもの45%の順となっている。

この傾向は性別、地方別、学年別にも同様に見受けられ、不道德なものをいやだとする割合は女は50%と男（38%）より高く、地域別では東京（39%）

より神崎（53%）、八街（41%）の方の割合が高くなっている。

学年別では概して高学年ほど高く、小学4年29%、同5年44%、中学1年45%、同2年52%となっている。

3 広 告

子供達には、広告が新聞の文字の中に浮き出している図柄であるので、漫画、写真について子供の目をひいていることが、どこから新聞をよみ始めるかでみとめられたが、更にそれが注意してよまれのはいつかからであろうか。

東京の男についてみると、広告をいつもきをつけてみている割合は小学4年12.4%、同5年28%、同6年42.9%、中学1年44.4%、同2年46.4%、同3年47.8%と高学年ほど高くなっていて、たまにみるのも入れると小学6年で9割がともかくもみていることになっている。

では、どんな広告をみるかという点、次表のごとくで、第1に映画が注目され次に書籍、菓子の順となっているが、デパートの広告もこれについてみられている。

この傾向は一応性別、地方別にも同様に見受けられるが、東京では他地域よりも全般的に広く広告がみられるその中で、デパートの広告が特に率が高く、それも小学より中学、男より女とその割合が高くなっているのは直接デパートを利用する率をそのまま反映するものとして面白い。更に書籍の場合はその逆で、神崎、八街の方が小学校では東京よりも高くなっている。ここらに都会と田舎との生活のちがい、関心の対象のちがいが出ているようである。

また女の方が地域、学年の如何を問わず男よりかなり化粧品広告をみる割合が高くなっていることはまさに著しい現象である。

4 運 動 記 事

どの新聞でも必ずといってよいほど運動記事がかなりのスペースをとっている。運動の写真は子供にも大人にも親しみ深いことは前述した通りであるが、それならどんなふうに運動記事を読むだろう。

新聞にのっている廣告を読みますか

() 内は回答総数をそれぞれ100としてみた%

記事事項	学校	南山小学校		北芝中学校		神崎小学校		神崎中学校		八街小学校		八街中学校	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
1. デビュー	ト	20 (8.8)	38 (15.1)	26 (14.5)	42 (22.3)	7 (5.5)	5 (4.9)	10 (7.5)	28 (10.8)	15 (8.1)	27 (12.3)	4 (3.1)	23 (11.9)
2. 映画	画	56 (24.7)	70 (27.8)	64 (35.8)	48 (25.5)	49 (38.6)	29 (28.2)	53 (39.6)	38 (22.3)	60 (32.3)	56 (25.6)	53 (41.1)	42 (21.8)
3. 化粧品	品	3 (1.3)	17 (6.7)	0	6 (3.2)	5 (3.9)	9 (8.7)	3 (3.7)	19 (7.3)	3 (1.6)	18 (8.2)	1 (0.8)	10 (5.2)
4. 本や雑誌	誌	32 (14.1)	36 (14.3)	40 (22.3)	42 (22.3)	25 (19.8)	35 (32.0)	18 (13.4)	56 (21.5)	34 (18.3)	32 (14.6)	32 (24.8)	39 (20.2)
5. くすり	り	10 (4.4)	10 (4.0)	3 (1.7)	9 (4.8)	5 (3.9)	6 (5.8)	8 (6.0)	20 (7.7)	14 (7.5)	17 (7.8)	7 (5.4)	13 (6.7)
6. 化粧品	物	11 (4.8)	12 (4.8)	13 (7.3)	14 (7.4)	2 (1.6)	1 (1.0)	4 (3.0)	12 (4.6)	4 (2.2)	8 (3.7)	7 (5.4)	13 (6.7)
7. 食料	品	12 (5.3)	9 (3.6)	1 (0.6)	4 (2.1)	1 (0.8)	1 (1.0)	2 (1.5)	6 (2.3)	2 (1.1)	7 (3.2)	0	4 (2.1)
8. 菓子	子	23 (10.3)	12 (4.8)	4 (2.2)	4 (2.1)	3 (2.4)	1 (1.0)	1 (0.7)	4 (2.3)	4 (2.2)	5 (2.3)	1 (0.8)	2 (1.0)
9. 銀行・会社	社	5 (2.2)	6 (2.4)	4 (2.2)	1 (0.5)	5 (3.9)	6 (5.8)	5 (3.7)	6 (2.3)	10 (5.4)	4 (1.8)	4 (3.9)	9 (4.7)
10. 病院	院	2 (0.9)	3 (1.2)	0	1 (0.5)	3 (2.4)	1 (1.0)	0	3 (1.2)	3 (1.6)	6 (2.7)	2 (1.5)	2 (1.0)
11. 文房具	具	11 (4.8)	10 (4.0)	8 (4.5)	5 (2.7)	10 (7.9)	3 (2.9)	10 (7.5)	15 (5.8)	11 (5.9)	17 (7.8)	4 (3.1)	9 (4.7)
12. 死亡通知	知	8 (3.5)	2 (0.8)	3 (1.7)	0	2 (1.6)	0	6 (4.5)	1 (0.4)	2 (1.1)	1 (0.5)	1 (0.8)	8 (4.1)
13. 案内広告	告	10 (4.4)	5 (2.0)	4 (2.2)	5 (2.7)	7 (5.5)	1 (1.0)	7 (5.2)	12 (4.6)	10 (5.4)	9 (4.1)	5 (3.9)	5 (2.6)
14. 学校	校	14 (6.2)	17 (6.7)	8 (4.5)	8 (4.5)	3 (2.4)	7 (6.3)	5 (3.7)	17 (6.5)	12 (6.5)	11 (5.0)	7 (5.4)	13 (6.7)
15. 役所の公告	告	6 (2.6)	1 (0.4)	1 (0.5)	0	0	0	0	1 (0.4)	1 (0.5)	0	0	1 (0.5)
16. そのほかのもの		4 (1.8)	4 (1.6)	0	1 (0.5)	0	0	0	2 (0.8)	1 (0.5)	1 (0.5)	1 (0.8)	
記入なし		3	3	1	3	11	8	3	1	4	4	5	8

全体では、気をつけてよく読むもの 20 %、ちょっとみるもの 53.5 %、あまりみないもの 25.4 % となっており、男は 34.6 % が、気をつけてよむのに、女は 6.5 % にすぎないのは何といっても運動に対する接近度の違いによるものだと言えよう。

では、学年別ではどうかを東京についてみると、次表のごとくで、運動能力の学年的発達につれ上昇の傾向を示しており、これは神崎、八街でも同様であるが、たゞ面白いことは東京より気をつけて読む度合がどの学年でも高度なことで、小学 4 年についてみると 東京 12.5 %、神崎 28.9 %、八街 15.4 % となっている。これは運動（たとえば野球）を実際見る機会に比較的恵まれていないための代償とも考えられよう。

新聞には運動記事がありますが注意して読みますか

() 内は回答者数をそれぞれ 100 としてみた %

地 域 別 学 年	東			京		
	4 年	5 年	6 年	1 年	2 年	3 年
総 人 数	50	50	54	52	52	48
回答者数	32	48	54	50	51	47
1. 気をつけてよむ	4(12.5)	7(14.6)	10(18.5)	14(28.0)	14(27.5)	8(17.1)
2. ふ つ う	23(71.9)	30(62.5)	33(61.1)	18(36.0)	28(54.9)	27(57.4)
3. あまりよまない	5(15.6)	11(22.9)	11(20.4)	18(36.0)	9(17.6)	12(25.5)
記 入 な し	18	2	0	2	1	1

そこで、どんな運動記事を読むかについてみると、次表のごとくで、全体的には野球が最も高く 58.6 %、相撲 54.3 %、水泳 21.4 %、スキー、スケート 16.5 %、バレーボール 10.4 %、陸上競技 10.0 % の順となっている。

ともかく野球は簡単はどこでもやれるし、外国のチームも来訪するし、国内リーグも盛んだしというわけで全く圧倒的である。これに次ぐものは国技といわゆる相撲で、次がオリンピックで国民の血をわかす水泳となっているのは当然とはいえ興味深い。

しかし、性別にみると次表のごとく、野球を男 78.7 % が読むのに女は 45.8 % と著しい相異があるが、相撲でも男 68 % 女 48 % と、結局自分がその運動

どんな運動記事を読みますか (性別・地域別)

() 内は回答総数をそれぞれ100としてみた%

性別	性	別	人数	東京		神崎		八尾	
				男	女	男	女	男	女
総	人	数	440	150	156	144	147	146	143
回	答	者	249	99	78	85	81	65	42
1	野	球	195 (78.7)	84 (84.8)	38 (48.7)	68 (80.0)	33 (40.7)	44 (67.7)	21 (50.0)
2	陸	上 競 技	31 (12.4)	11 (11.1)	9 (11.5)	16 (18.8)	6 (7.4)	4 (6.2)	3 (7.1)
3	バ	レー ボー ル	9 (3.6)	42 (20.9)	7 (7.1)	16 (20.5)	2 (2.4)	21 (26.0)	0
4	バ	スケ ッ ト ボー ル	24 (9.6)	20 (10.0)	11 (11.1)	6 (7.7)	8 (9.4)	12 (14.8)	5 (11.9)
5	水	泳	57 (22.9)	48 (23.9)	18 (18.2)	22 (25.9)	23 (28.4)	17 (26.2)	6 (14.3)
6	登	山	7 (2.8)	4 (2.0)	5 (5.1)	3 (3.8)	2 (2.4)	0	1 (2.4)
7	ス	キ ー ・ ス ケ ー ト	41 (16.5)	40 (19.9)	8 (8.1)	5 (6.4)	18 (21.2)	24 (29.6)	15 (26.2)
8	馬	術	5 (2.0)	3 (1.5)	4 (4.0)	3 (3.8)	1 (1.2)	0	0
9	ラ	グ ビ ー	28 (11.2)	8 (4.0)	10 (10.1)	7 (9.0)	14 (16.5)	1 (1.2)	4 (6.2)
10	ス	モ ー	170 (68.3)	97 (48.3)	43 (43.4)	21 (27.0)	74 (87.1)	53 (81.5)	22 (52.4)
11	ビ	ン ボ	12 (4.8)	12 (6.0)	8 (8.1)	7 (9.0)	4 (4.7)	5 (6.2)	0
12	テ	ニ ス	9 (3.6)	8 (4.0)	5 (5.1)	5 (6.4)	4 (4.7)	3 (3.7)	0
13	体	操	5 (2.0)	4 (2.0)	4 (4.0)	3 (3.8)	1 (1.2)	1 (1.2)	0
14	ボ	ク シ ョ ン	36 (14.5)	9 (45.0)	23 (23.2)	7 (9.0)	8 (9.4)	1 (1.2)	5 (7.7)
15	そ	の 他	37 (14.9)	37 (18.4)	17 (17.2)	27 (34.6)	6 (7.1)	14 (21.5)	5 (11.9)
記入なし			191	245	51	78	59	81	101

をやるかやらないかによってちがってくるようで、水泳では男 23 %、女 24 %と同じになっている。しかしバレーボールとなると、女 21 %で男は 4 %にすぎないことから前のことがうなずかれる。

地域別では、全体と同じ傾向がみられるが、東京の方が運動関心が広がっている。これはやはりそれをやったり、みたりする機会が多いからであろう。しかし相撲となると、神崎、八街の方がそれぞれ女でも 67 %、52 %と東京の女の 27 %より多くなっている。

学年別には、次表のごとく、野球を例にとってみると一番よく分るが、小

ど ん な 運 動 記 事 を 読 み ま す か (学年別)
() 内は回答総数をそれぞれ 100 としてみた%

	4 年	5 年	6 年	1 年	2 年	3 年
総 人 数	150	150	148	149	148	141
回 答 者 数	39	74	85	78	98	76
1 野 球	22(56.4)	40(54.1)	57(67.1)	54(69.2)	61(62.2)	54(71.1)
2 陸 上 競 技	2(5.1)	4(5.4)	8(9.4)	9(11.5)	11(11.2)	15(19.7)
3 バレーボール	1(2.6)	0	9(10.6)	7(9.0)	17(17.3)	17(22.4)
4 バスケッ トル	3(7.7)	1(1.4)	4(4.7)	3(3.8)	15(16.5)	18(23.7)
5 水 泳	0	19(25.7)	21(24.7)	14(17.9)	22(22.4)	29(38.2)
6 登 山	0	0	2(2.4)	3(3.8)	4(4.1)	2(2.6)
7 ス ケート	11(28.2)	9(12.2)	14(16.5)	15(19.2)	18(18.4)	14(18.4)
8 馬 術	0	0	2(2.4)	2(2.6)	3(3.1)	1(1.3)
9 ラグビー	1(2.6)	6(8.1)	8(9.4)	8(10.3)	6(6.1)	7(9.2)
10 ス モ ウ	27(69.2)	48(64.9)	54(63.5)	51(65.4)	50(51.0)	37(48.7)
11 ビンボン	0	0	3(3.5)	6(7.7)	6(6.1)	9(11.8)
12 テ ニ ス	0	0	1(1.2)	4(5.1)	6(6.1)	6(7.9)
13 体 操	0	5	2(2.4)	2(2.6)	4(4.1)	1(1.3)
14 ボクシング	3(7.7)	5(6.8)	11(12.9)	8(10.3)	7(7.1)	11(14.5)
15 そ の 他	6(15.4)	18(24.3)	12(14.1)	10(12.8)	13(13.3)	15(19.7)
記 入 な し	111	76	63	71	50	65

学 4 年 56 %、同 6 年 67 %、中学 1 年 69 %、同 3 年 71 % とやはり上昇の傾向を示している。しかしこれをもっと確めるためには運動関心別に事例研究を

するのでなければ本当の事がわからないわけで、こゝでは最も愛好され、季節的な相異の少ない野球を全体に考察したにすぎないのである。

最後に新聞で読む運動を自分でやるかどうかを検討してみよう。

運動の記事を読むものと実際にその運動をやった経験との関連をいま東京神崎の男女について比較すると、次表のごとくになって、一応これら国民にポ

種別	地 域		東 京		神 崎	
	男	女	男	女	男	女
野球記事を読むもの	84.8	48.7	80.0	40.7		
野球の経験のあるもの	84.0	21.8	77.7	6.5		
相撲記事を読むもの	43.4	27.0	87.1	66.7		
相撲の経験のあるもの	33.5	4.3	65.8	16.1		
水泳記事を読むもの	18.2	24.4	25.9	28.4		
水泳のできるもの	30.1	52.1	24.2	16.1		
総 人 数	113	156	90	81		

(総人数を100%とする)

ピュラーな運動記事を女の人にはたとえ運動経験をもたないでも家庭や学校での話題になるためか、かなりの人がその運動記事を読んでおり、男では運動記事を読む人は必ずといってよいくらいその運動の経験をもっていることがみとめられよう。

各運動別に経験の度合を示したのが次表で、たとえば、東京で野球記事を読むもの84.8%のうち、選手としてする15%、たゞやる69.0%と、合計経験者84%が読んでおり、経験のないものは0.8%しか読んで

新聞で読む運動を自分でやりますか

() 内は回答総数を100としてみた%

地 域 別 性 別 人 数	総 人 数 回答者数	東 京		神 崎		八 街	
		男	女	男	女	男	女
野 球	150	156	144	148	146	143	
陸上競技	113	46	90	31	101	27	
バレーボール	17(15.0)	1(2.2)	13(14.4)	0	11(10.9)	1(3.7)	
バスケットボール	0	1(2.2)	3(3.3)	0	1(1.0)	0	
トボール	0	0(2.2)	0	6(19.4)	0	1(3.7)	
水 泳	4(3.5)	0	0	0	0	0	
スキー・スケート	6(5.3)	2(4.3)	2(2.2)	0	0	0	
ラグビー	2(1.8)	0	0	0	0	0	
相 撲	0	0	1(1.1)	0	0	0	
	4(3.5)	0	2(2.2)	0	2(2.0)	0	

通て 手と し	卓 球				1 (3.2)		
	ケントウ	2 (1.8)	0	0	0	0	0
	そ の 他	2 (1.8)	0	0	0	0	0
た	野 球	78(69.0)	9(19.6)	57(63.3)	2 (6.5)	73(72.3)	4(14.8)
	陸上競技	6 (5.3)	3 (6.5)	7 (7.8)	1 (3.2)	4 (4.0)	5(18.5)
	バレーボ ール	4 (3.5)	24(52.2)	0	13(41.9)	1 (1.0)	10(37.0)
	バスケット ボール	12(10.6)	8(17.4)	9(10.0)	14(45.2)	8 (7.9)	9(33.3)
	水 泳	28(24.8)	22(47.8)	20(22.2)	5(16.1)	15(14.9)	0
す	登 山						
	スキー・ スケート	2 (1.8)	2 (4.3)	5 (5.6)	2 (6.5)	1 (1.0)	0
	馬 術						
る	ラグビー	2 (1.8)	0	9(10.0)	0	2 (2.0)	0
	相 撲	34(30.0)	2 (4.3)	57(63.6)	5(16.1)	52(51.5)	1 (3.7)
	卓 球	5 (4.4)	3 (6.5)	8 (8.9)	7(22.6)	0	3(11.1)
	庭 球	1 (0.9)	1 (2.2)	0	0	0	0
	体 操	1 (0.9)	0	0	0	0	0
	ケントウ	8 (7.1)	1 (2.2)	0	0	5 (5.0)	0
	そ の 他	6 (5.3)	2 (4.3)	4 (4.4)	3 (9.7)	17(16.8)	2 (7.4)
やらない又は 記入なし		38	110	54	117	45	116

おらず、この傾向は相撲その他でも同様にみとめられる。

これから見ても、何等かの経験を持つことなしには関連ある記事を読まないもので、それが社会的にある程度の権威性をもったときにおいてその記事が少し読まれるようになることがみとめられる。

5 思い出す記事

新聞を読んでしまったあとで一体どんな事を思い出すだろうか。記憶の問題としてではなくて、新聞を通じての社会的印象としてどんなものが残されているだろう。

その中には、どぎつい見出しの記事もあるだろうし、感銘を与える文章もあるだろうが、ここでは、いかなる問題かということを調べてみた。

その結果は次表のごとくで、全体的に社会記事のものがやはり圧倒的であ

最近の新聞から何か思いだすこと

() 内は回答総数をそれぞれ 100 としてみた %

		東 京	神 崎	八 街
総 入 数		306	291	289
回 答 者 数		244	215	208
政 治	大統領選挙に関するもの	22 (9.0)	18 (8.4)	42 (20.2)
	一般問題	1 (0.4)	0	0
	その他	9 (3.7)	3 (1.4)	5 (2.4)
	皇太子関係	33 (13.5)	17 (7.9)	31 (14.9)
	皇族父宮死去	0	162 (75.3)	109 (52.4)
	皇親宮婚儀	0	1 (0.5)	1 (0.5)
	関係その他	0	0	1 (0.5)
	衆参関係	14 (5.7)	15 (7.0)	11 (5.3)
	裁判管轄問題	4 (1.6)	2 (0.9)	3 (1.4)
	講和問題	0	0	0
社 会 記 事	その他	2 (0.8)	1 (0.5)	2 (1.0)
	朝鮮問題	4 (1.6)	6 (2.8)	3 (1.4)
	美談	3 (1.2)	1 (0.5)	0
	殺人	7 (2.9)	2 (0.9)	0
	バラバラ事件	73 (29.9)	15 (7.0)	31 (14.9)
	強盗	5 (2.0)	12 (5.7)	9 (4.3)
	火事	9 (3.7)	3 (1.4)	8 (3.8)
	メーデー	17 (7.0)	1 (0.5)	3 (1.4)
	鹿地事件	105 (43.0)	1 (0.5)	0
	電産炭労スト	102 (41.9)	3 (1.4)	2 (1.0)
運 動	神明神社	7 (2.9)	4 (1.9)	2 (1.0)
	中共引揚	0	11 (5.1)	19 (9.1)
	交通事故	60 (24.6)	11 (5.1)	9 (4.3)
	医学関係	0	2 (0.9)	1 (0.5)
	その他	27 (11.1)	34 (15.8)	37 (17.8)
	相撲	0	16 (7.4)	11 (5.3)
その他		15 (6.1)	10 (4.7)	3 (1.4)
記入なし		62	76	81

り、その中でも犯罪関係が多くなっている。

鹿地事件、電産炭労ストが前の表のごとく東京で甚だしく多いのは、常識テストとして前日きいたためであって、これは神崎、八街ではきかなかったのが同地の割合が2%以下あることから明白である。神崎、八街で常識テストとして秩父宮死去の事を前日きいたため、その割合が極めて高くなっている（東京ではきかないので0%だが）。

こんなわけで、「最近の新聞から思いだすことは」ときいても、どこまでが果して新聞の残存効果かを知ることはむずかしい。案外先生や家人が何かのおりに話題とした事もあるかもしれないわけで、結局は具体的な事件に対する社会的態度の形成過程を個別的に検討しなければほんとうの事を知ることとはできないであろう。

しかし傾向的にみるに、地域的には東京の方が神崎、八街よりも社会記事以上の社会関心である政治的なものが問題意識にされており。学年別にみてもこれは中学1年から漸く擡頭し、同2年26%、同3年43%を（東京では）示すにすぎない。

そこで、その中でどんなものがためになったかときくと、まさか社会記事のバラバラ事件がなにか役に立ったというわけにもゆかないので、学習に役立つもの、美談的ものが強く浮び出している。従ってどんな点がどんなふう

思いだした事の中でとてもためになったと思うことがあったらどんな
ものが書いて下さい。（ ）内は回答総数をそれぞれ100としてみた%

地 域 別 性 別	東 京		神 崎		八 街	
	男	女	男	女	男	女
人 数	150	156	144	148	146	143
総 回 答 者 数	36	45	29	50	44	42
ア大統領に関するもの	1 (2.8)	0	1 (3.4)	0	3 (6.8)	1 (2.4)
外 国 事 情	1 (2.8)	1 (2.02)	0	3 (6.0)	0	0
一 般 政 治 問 題	2 (5.6)	2 (4.4)	1 (3.4)	2 (4.0)	0	0
衆 院、参 院 関 係	2 (5.6)	0	5 (17.2)	0	2 (4.5)	0
立太子に関するもの	5 (13.9)	8 (17.8)	2 (6.9)	2 (4.0)	3 (6.8)	4 (9.5)

秩父宮に関するもの	0	0	2 (6.9)	9(18.0)	2 (4.5)	5(11.9)
朝鮮問題	0	1 (2.2)	0	1 (2.0)	0	0
社 会	0	0	0	0	0	1 (2.4)
美 談	4(11.1)	19(42.2)	1 (3.4)	4 (8.0)	6(13.6)	8(19.0)
学習になるもの	5(13.9)	5(11.1)	4(13.8)	14(28.0)	12(27.3)	8(19.0)
炭労・電産スト	3 (8.3)	2 (4.4)	0	0	0	0
鹿 地 事 件	4(11.1)	1 (2.2)	0	0	0	0
中共引揚問題	0	0	0	1 (2.0)	1 (2.3)	3 (7.1)
明 神 礁	1 (2.8)	0	1 (3.4)	0	0	0
殺 人 記 事	2 (5.6)	0	0	1 (2.0)	0	0
火 事	0	0	0	2 (4.0)	1 (2.3)	1 (2.4)
医 学	1 (2.8)	0	1 (3.4)	4 (8.0)	2 (4.5)	0
運 動	1 (2.8)	3 (6.7)	9(31.0)	3 (6.0)	7(15.9)	4 (9.5)
そ の 他	11(30.6)	8(17.8)	5(17.2)	12(24.0)	14(31.8)	7(16.7)
記 入 な し	115	111	115	98	102	101

にという実態をこゝでは掴み得られなかった。

しかし、たゞ言えることは美談的なものが強く子供の印象に残されているということに、新聞の子供達への効果を示しているとみられよう。(上表参照)

また逆に新聞を読んで思い出すことの中で、いやな感じのしたものについてみると、次表のごとくで、社会記事の所でみられたように嫌悪感情を生起せしめるさんこな恐ろしい殺人事件、バラバラ事件を合計して回答者の6割が訴えていること(交通事故も1割近いが)に注目すべきである。

その中でとてもいやな感じがしたものがあつたらどんなものか書いて下さい。()内は回答総数をそれぞれ100としてみた%

地 域 別 性 別	人 数	総 人 数 回 答 者 数	東 京		神 崎		八 街	
			男	女	男	女	男	女
			151	156	144	148	146	143
			100	94	59	79	60	60
秩父宮死去	0	0			6(10.2)	5 (6.3)	7(11.7)	4 (6.7)
冷 戦	0	0			3 (5.1)	0	0	0
戦 争	0	0			1 (1.7)	0	0	3 (5.0)
原 爆	0	0			1 (1.7)	0	1 (1.7)	1 (1.7)
交 通 事 故	10(10.0)	10(10.6)			6(10.2)	2 (2.5)	6(10.0)	2 (3.3)

明神礁	3 (3.0)	1 (1.1)	1 (1.7)	1 (1.3)	0	0
地震	0	0	0	2 (2.5)	0	0
スト	4 (4.0)	12 (12.8)	0	1 (1.3)	0	0
火事	1 (1.0)	3 (3.2)	8 (13.6)	1 (1.3)	3 (5.0)	4 (6.7)
殺人事件	7 (7.0)	6 (6.4)	8 (13.6)	18 (22.8)	9 (15.0)	15 (25.0)
バラバラ事件	52 (52.0)	59 (62.8)	6 (10.2)	17 (21.5)	37 (61.7)	14 (23.3)
自殺	1 (1.0)	2 (2.1)	3 (5.1)	4 (5.1)	2 (3.3)	4 (6.7)
強盗	2 (2.0)	5 (5.3)	9 (15.3)	12 (15.2)	4 (6.7)	6 (10.0)
鹿地事件	8 (8.0)	9 (9.6)	0	0	0	0
メーデー	8 (8.0)	10 (10.6)	4 (6.8)	0	1 (1.7)	0
医学	0	0	0	0	2 (3.3)	1 (1.7)
ヌード	3 (3.0)	1 (1.1)	0	0	0	2 (3.3)
その他	18 (18.0)	7 (7.4)	13 (22.0)	21 (26.6)	2 (3.3)	12 (20.0)
記事なし	51	62	85	69	86	83

大人にとっては、またバラバラ事件が殺人事件かにすぎないことでも子供には深刻に残っているということである。

その結果として、子供はどんな記事を新聞に要望するかというと、次表のごとくで、子供向きの記事（たとえば子供欄の拡充はもとより、物語、マンガ等）と同時に、男では運動記事、女では美談、男女共通には学習欄である。

もっとこんな記事がのっていたらよいと思うことがあったら

書いて下さい () 内は回答数をそれぞれ 100 としてみた %

地 域 別 性 別 人 数	東 京		神 崎		八 街	
	男	女	男	女	男	女
	150 85	156 81	144 35	148 76	146 56	143 65
外国事情	6 (7.1)	0	0	0	4 (7.1)	0
皇太子	0	1 (1.2)	0	1 (1.3)	0	0
子供(中学)欄	9 (10.6)	15 (18.5)	0	5 (6.6)	8 (14.3)	5 (7.7)
作文、俳句	0	0	1 (2.9)	1 (1.3)	9 (16.1)	5 (7.7)
マンガ	23 (27.1)	26 (32.1)	0	2 (2.6)	8 (14.3)	5 (7.7)
写真を多く	8 (9.4)	5 (6.2)	1 (2.9)	0	1 (1.8)	1 (1.5)
物語、小説	13 (15.3)	24 (29.6)	3 (8.6)	2 (2.6)	5 (8.9)	5 (7.7)
学習欄	13 (15.3)	9 (11.1)	8 (22.9)	13 (17.1)	5 (8.9)	6 (9.2)
娯楽記事	1 (1.2)	0	0	0	0	0

学 校 関 係	2 (2.4)	7 (8.6)	0	7 (9.2)	2 (3.6)	7 (10.8)
懸 賞	3 (3.5)	0	0	0	1 (1.8)	1 (1.5)
美 談	2 (2.4)	4 (4.9)	1 (2.9)	10 (13.2)	2 (3.6)	11 (16.9)
内容を容易に	0	2 (2.5)	0	3 (3.9)	1 (1.8)	2 (3.1)
運 動	9 (10.6)	2 (2.5)	13 (37.1)	2 (2.6)	6 (10.7)	2 (3.1)
演 芸	1 (1.2)	2 (2.5)	0	0	0	0
医 学			1 (2.9)	1 (1.3)	0	0
そ の 他	22 (25.9)	17 (21.0)	10 (28.6)	37 (47.4)	10 (17.9)	16 (24.6)
記 入 な し	66	75	109	72	90	78

6 読む記事、読まない記事

社会記事、運動記事等で子供達がどのようにそれらの記事を読むようになり、どう読んでいるかを述べた。そこで、こゝでは全体的に読まれる記事はなぜ読まれるか、またはなぜその記事がよまれないかを検討してみよう。

a、読む記事

子供達がなぜその記事を読むのかについてみると、全体的には（回答者総数を100%として）一般的興味によるが最も高く88.3%、特殊の関心による9.9%、学習的親近感による9.6%、社会的関連による7.5%、地域的親近感による3.9%、その他2.1%となっている。

この事は子供の広義の精神構造（準拠構造）に全く依存することを示すもので、無理でない身心的全体的発達による興味の分化が行われると新聞はよくよまれるようになるわけであろう。この事は性別でも、次表のごとく全く同じ傾向を示している。

学年別でも、全体とやはり同様な傾向を示しているが、次表のごとく学習的親近感による割合は小学4年0.9%、同5年3.0%、同6年3.3%、中学1年11.6%、同2年13.0%、同3年21.0%と高学年ほど高度になっている。

この事は同じ新聞でも高学年ほどよく自分の向上のために役立てていることを物語っているといえよう。

なお、地域別でも学習的親近感による割合は東京12.1%、神崎9.8%、八

街6.7%と文化的圧力の高い東京ほど高度になっており、こゝでも高学年についてと同様に新聞の活用度が高いことを示している。

なぜ記事を読むのか(読む記事について)

() 内は回答総数をそれぞれ100としてみた%

人 数	総 入 数 回答者数	学 年 別						性 別	
		4 年	5 年	6 年	1 年	2 年	3 年	男	女
		149	149	146	145	147	141	434	443
		115	132	132	121	131	124	365	390
1 親近感	A地域的	2 (1.7)	1 (0.8)	3 (2.3)	4 (3.3)	12 (9.2)	8 (6.5)	14 (3.8)	16 (4.1)
	B学習的	1 (0.9)	4 (3.0)	11 (8.3)	14 (11.6)	17 (13.0)	26 (21.0)	33 (9.0)	40 (10.3)
2 特殊の関心	になる)	5 (4.3)	16 (12.1)	14 (10.6)	15 (12.4)	16 (12.2)	10 (8.1)	35 (9.6)	41 (10.5)
3 一般的興味		109 (94.8)	121 (91.7)	124 (93.9)	107 (88.4)	107 (81.7)	108 (87.1)	334 (91.5)	342 (87.7)
4 社会的関連		1 (0.9)	3 (2.3)	20 (15.2)	7 (5.8)	11 (8.4)	15 (12.1)	26 (7.1)	31 (7.9)
5 その他		1 (0.4)	3 (2.3)	4 (3.0)	5 (4.1)	2 (1.5)	1 (0.8)	3 (0.8)	13 (3.3)
6 記入なし		34	17	14	24	16	17	69	53

b. 読まない記事

ではなぜ記事が読まれないのか、大人の場合でも政経記事は学歴の低いほど読まれる度合いが低いことが今迄の調査結果にみられているが(28年4月実施の東京都区の新聞調査でも次表のごとき結果を示している)、一般的興味

	小学卒	高小卒	中学卒	高専卒以上
外国記事	13.4	18.8	31.3	63.6
国内政治記事	22.4	36.3	46.1	81.9
社会記事	46.3	80.0	82.0	78.8
総 人 数	67	80	128	66

注(各総数を100%とする)

がその記事まで拡大されていないためも勿論あるとしても全体的には文章がむずかしいため81.2%、無関心34.2%、時間的余裕なし2.1%となっ

ている。これは新聞文章が子供の読む本の文章と甚だしく構造がちがうと共

読まない記事について(なぜ読まないのか)

() 内は回答総数をそれぞれ100としてみた%

人 数	総 数 回答者数	性 別		学 年 別					
		男	女	4 年	5 年	6 年	1 年	2 年	3 年
		434	443	149	149	146	145	147	141
		368	403	138	137	137	127	133	119
1 文章がむずかしい		302 (77.8)	339 (84.1)	123 (89.1)	114 (83.2)	110 (80.3)	113 (89.0)	107 (80.5)	74 (62.2)

2 無 関 心	153(39.4)	117(29.0)	37(26.8)	47(34.3)	65(47.4)	20(15.7)	43(32.3)	58(48.7)
3 時 間 が な い	14(3.6)	13(3.2)	4(2.9)	3(2.2)	7(5.1)	3(2.4)	3(2.3)	7(5.9)
4 記 入 な し	46	40	11	12	9	18	14	22

に難解な語彙が使われているためと考えられ、無関心は要するに受取り手の精神構造の拡充により補われよう。

これは性別、学年別でも次表のごとく全体と同じ傾向が窺われ、高学年ほど文章がむずかしいためとする割合は漸減の傾向にあるとしても、現在の新聞文章が理解しがたいことはいなめない。

Ⅱ 新聞への接近と環境

A 新聞への接近の測定

1 新聞距離点数

新聞閲読調査は個人的に面接して、子供の主に読んでいる新聞をきき、その新聞を実際に子供の手に渡して、調査の当日又は前日どんな読み方をしたかをいつもの閲読習慣を参考としながら聞き取ってなされた。

記事項目は新聞面接調査表にみられるごとく社会記事、漫画、広告から外国政治記事まで 21 項目がある。そのうちいつも読んでいると答えた項目には 1 点を、ときどき読んでいると答えた項目には 0.5 点を与え、それを合計して新聞全体の読みのあり方を採点した。そこで新聞の全記事を一応いつも読んでいれば 21 点というわけで、この総合計点を新聞距離総点と呼ぶことにする。これは言うまでもなく新聞への心的接触度を意味する。

この採点は平板で、同じ記事についてもいつも見出しだけでやめてしまうものと、見出しと本文の間の説明文（リード）までは読んでそれから場合によっては本文を読むものと、たいがい本文の終りまで読んでしまうものとの

新聞面接調査表	
調査にあたって子供の読んでいる前日の新聞を見本として、できるだけ具体的に本人に言わせ、これを二次的にたしかめて読みの習性、読みの深さ等読みの状況を調べること 1. 新聞のどこを読みますか （記入は記事項目別に必ず読むものは○、ときどきのものは△、全く読まないは×の下にレをつけること）	調査日 昭和 年 月 日 被調査者 中学 年 組 小学 調査者名
	子供の家でとる新聞名（ 子供の読む新聞名（ 新聞の読み方 1. 毎日 2. ときどき 3. あまり読まない
2. 新聞の記事の読み方について、見出しと本文とその間の説明（リード）があるが、あなたはどうか読みますか。 （見出しだけ×、途中まで△、全部読む○の下にレをつけること）	

読みの深さを十分に区別し得ない点があるにしても、大人はともかくプリ・テストでも子供については、これをまた確かめることが一種の暗示になってしまうことがみられた。その上この距離総点が高いものは概して新聞の読みも深いことが(1)東京都での婦人をはじめ有権者を対象として行った調査(2)地方中小都市の代表として小田原で選挙の新聞記事についてのくわしい調査で明らかに認められたので、これを全体的な新聞の読み方を把握する尺度として採用したわけである。

2 各記事への関心の度合い

前章では全体的にどんなふうに新聞をよんでいるかといういわば外面的、量的観察であるのに対して、これはそれがどんな関心方向を持つかという質的な把握である。

新聞という印刷材をどう読むかは、一にかかって読む人の要求に準拠するのであり、それはその人の広義の精神構造——居住地域、家庭の文化度、教育歴、社会経験等の統合としての——により異なるわけである。

その間において、人間の興味関心の発達が無意志的な娯楽的なものから次第に拡大され直接的な生活的なものに、さらに社会的なものに至り、最後に間接的ではあるが、社会の本質な政治経済的なものに到達することは今迄の新聞協会で実施した調査結果での学歴別、職業別検討よりして確認されている。

すなわち28年4月実施の東京都一区の有権者についての調査結果を例に、いつも読むものについての記事別 閲読率をみると、漫画などは小卒でも57%、高小卒59%、中学卒70%と学歴が高くなってもほとんど変わらないが、直接生活に関係のある社会記事では小卒でも47%はいつもみており、中学卒は79%以上となっている。しかし更に政経記事のような生活の基底に本質的な関連はあるが直接的には切実に感じられない間接的な記事となると、小学卒22%、高小卒36%、中学卒46%、高専卒以上81%と著しい差を示し

ている。

勿論特殊な関心記事としての婦人家庭欄などは男はいつも読むものは9%にすぎないが、女は66%と著しい差を示し、運動記事などにも男女の差が著しい。

本調査で地域、学年、性別に各記事項目を分析はしたが、各記事別に検討するよりもそれを更に巨視的に把握する意味を持って、今迄の諸種の調査結果よりして、21の記事項目を次のように関心別に分類し、検討した。

新 聞 記 事 分 類 表

			記 事 項 目	新聞距離 総 得 点
第一次的関心	娯乐的	A 無意志的 B 意志的	まんが 子供欄	2.0
第二次的関心	直接的	A 生活的 B 社会的	広告 ラジオ番組 家庭婦人 天気予報 社会記事 地方版 授書	7.0
第三次的関心	間接的	A {政治的 外交 B 経済的	外国政治 国内“ 社説 短評 経済一般 株式	7.0
特殊の関心		A 文化的 B 趣味的 イ精神的 ロ身体的	小説 芸 映画演劇 将棋 基 スポーツ	5.0

注 外国政治は欧米、東亜に区分した。

B. 距離と関心とを規定するもの

1 学 年

まず、新聞への接近の度合、すなわち新聞距離点数が学年によってどう違うかをみよう。

学年別・地域別新聞距離点数表

点 数	学 年 小 4			5			6			中 1			2			3		
	地	城	神 東 八	神 東 八	神 東 八	神 東 八	神 東 八	神 東 八	神 東 八	神 東 八	神 東 八	神 東 八	神 東 八	神 東 八	神 東 八	神 東 八	神 東 八	神 東 八
0			3 5	2 2 2		5				4 3 1			1			1 2		
0.5			2 10	1 4			3			1 1						1		
1			3 2 10	3 5	1 3					2			1					
1.5			5 2 4	7 1 5	1 1 1					1			3					
2			7 10 4	6 5		1		3 1 4		1 1			1 1				1	
2.5			4 5 4	6 3 1	5 3			2 3		1 3			1 3			1		
3			6 1 4	5 4 5	7 1 4			3		1 1 2			1 1 2			2		
3.5			5 4 2	5 7 5	3 5 3			4 3		1 1			1 1			1 2		
4			8 3 1	4 3 4	3 4 6			3 2 3		1 4			1 4			1		
4.5			1 4	3 6 2	1 2 3			4 2 2		1 2 3			1 2 3			1 3		
5			5 2	4 3	3 4 1			4 4 2		2 2 1			2 2 1			3 1		
5.5			1 1 1	1 5	4 4 4			4 4 3		3 3 6			3 3 6			1 1 1		
6			4 1	2 2 1	8 3			3 3 2		1 2 2			1 2 2			4 1 1		
6.5			1	4	3 3 1			3 2 4		4 4 3			4 4 3			2 2		
7			1	1 2	2 2 4			2 1 3		2 2 4			2 2 4			4 1 3		
7.5			3 2	1 3	6 2			1 1 1		1 1 2			1 1 2			1 4		
8				2	2 3 3			3 2 3		3 3 1			3 3 1			2 2 2		
8.5			2	2 1	4			5 3		8 3			8 3			6 5 2		
9					5			2 4 1		4 4 3			4 4 3			5 1		
9.5			1		1 4 1			1 3 2		3 4 2			3 4 2			3 2 1		
10			2	1 1	1			1 2 1		2 1			2 1			2 6 4		
10.5			1		1 5 1			3 1		3 2 1			3 2 1			5 2 2		
11			1	1	1			3 1		1 3			1 3			1 5 1		
11.5				1	1			1 1		2 3			2 3			1 2 4		
12				2				2		1 1			1 1			2 4 2		
12.5										3 4 2			3 4 2			1 3 2		
13					1			1		2 1			2 1			1 3 1		
13.5					1					1 2			1 2					

点 数	学 年 小 4	5	6	1	2	3
	地 域 神 東 八	神 東 八	神 東 八	神 東 八	神 東 八	神 東 八
14			1	1	1	2 2
14.5					1	1
15						1 3 1
15.5		1			1	1
16						1
16.5				1		
17						
17.5						
18						
	148	150	156	147	149	143

学 年 別 新 聞 距 離 点 数

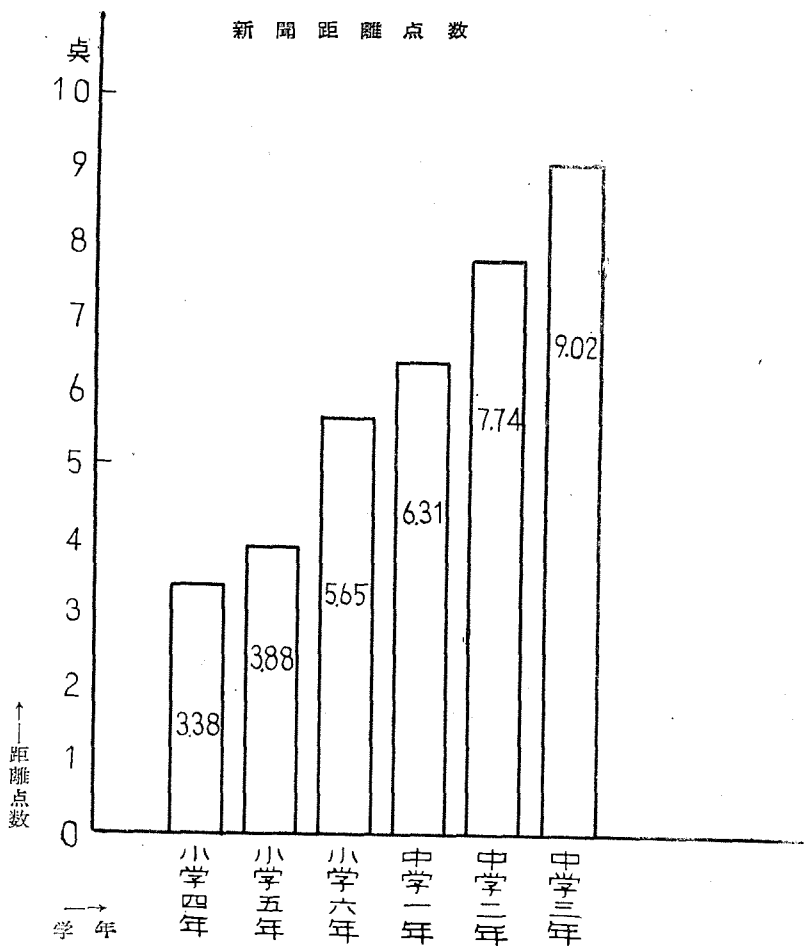
学 年	4 年	5 年	6 年	7 年	8 年	9 年
人 数	148	150	156	147	149	143
平 均	3.38	3.88	5.65	6.31	7.74	9.02
S. D	2.67	2.67	2.95	3.26	3.26	3.39

まず、東京では学年が高まるにつれて、距離点数も高くなり、上級になるにつれて新聞への接触の多いことが認められる。この中、小4と小5との間、および、小6と中1との間には有意の差がないが、少5以下と少6以上、中1以下と中2以上、および中2と中3との間には有意の差が認められる。

次に神崎でも高学年ほど距離総点は、上昇する傾向をとつている。小4と小5、小6と中1、中2と中3との間に、有意の差は認められないが、小5以下と小6以上、中1以下と中2以上の間には有意の差があって、上級になるにつれて、新聞への接触度の高くなることを示している。

さらに八街でも、学年に応じて距離点数の上昇する傾向はすこぶる体系的である。小6と中1、中1と中2の間には有意の差は認められないが、小4と小5以上、小5と小6以上、小6と中2以上、中2と中3の間には有意の差が認められる。

以上、東京、神崎、八街のどの地域においても新聞への接触度が、学年の高まりに平行して、高くなっている。今三つの地域をまとめてみても、以上



の傾向は明瞭である。なお、小5と小6の間、中1と中2の間で急に上昇していることは東京・神崎において特に著しく、児童の心身発達の問題として注意すべきであるように思われる。

2 地 域

新聞距離点数と学年との相関が高いという事実は、結局、新聞を読む習慣ができて上るためには、精神的身体的発達をまたなければならないということ

を意味するであろう。しかし、一方、地域的に新聞距離点数を見る時、心身の発達だけが決定的な要因となっているのではなく、環境的因子もまた、新聞への接触に大きな影響を与えていることを認めなければならない。

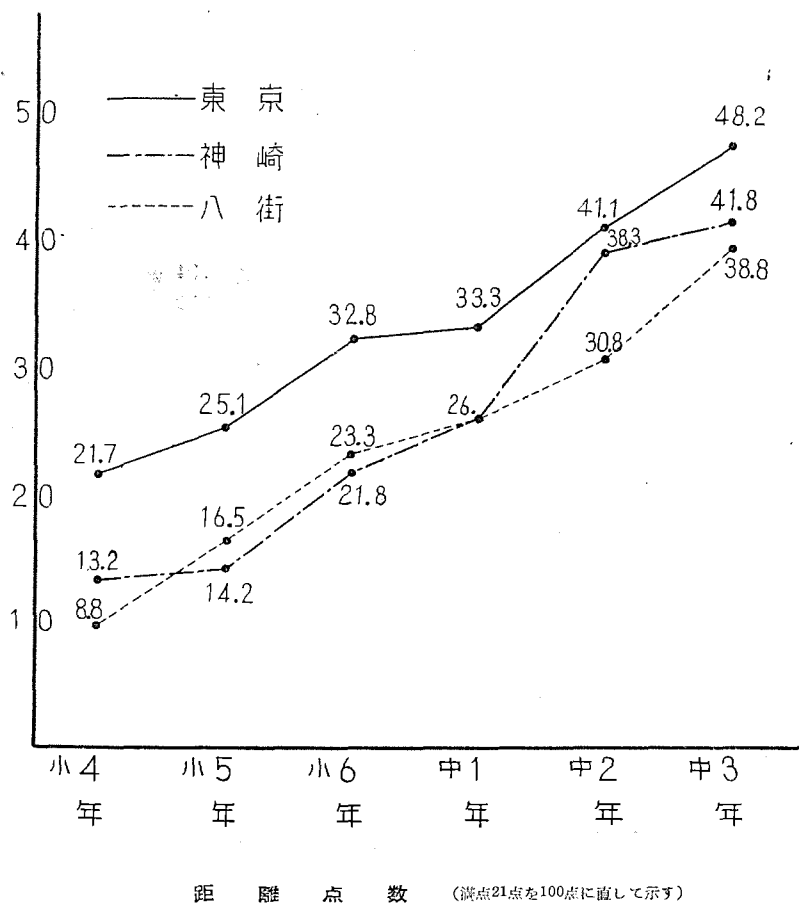
新聞距離点数に関し地域差を比較すると次の通りである。

地域と学年	人 数	距離平均(21点満点)	分 散
東京小4	50	4.56	7.56
神崎小4	50	2.76	2.11
八街小4	48	1.85	4.81
東京小5	48	5.27	7.80
神崎小5	50	2.96	2.64
八街小5	49	3.46	8.12
東京小6	59	6.88	6.54
神崎小6	49	4.58	7.35
八街小6	48	4.90	9.10
東京中1	52	6.96	11.04
神崎中1	49	5.46	9.65
八街中1	46	5.45	10.04
東京中2	52	8.61	10.57
神崎中2	47	8.03	7.06
八街中2	50	6.48	12.46
東京中3	46	10.11	10.90
神崎中3	50	8.79	9.90
八街中3	47	8.16	13.28

東京・神崎の中学2年を除き、他はすべて各学年ごとに、東京と神崎・八街間に有意の差が認められ、東京のような文化的圧力の高い大都会においては低学年から相当に新聞に接近していることが知られる。とくに東京の4年生が神崎・八街の6年生に、同じく5年生が中学1年生に比敵するほど新聞に接し、また東京の小学6年生が八街の中学2年生よりもっと新聞に近づいていることは注意されてよいであろう。

したがって、心身の発達と同時に、社会の環境が新聞を読む習慣の形成にいかにより大きな影響を与えているかが了解される。東京のような大都会では、少年といえども社会的要求として新聞を読む必要を感じるのであろう。

今、学年による発達と、地域による差を図表として示せば、次のようになる。



3 関心記事と学年および地域

1、2においては、新聞への接触の度合を、学年別および地域別に量的に

観察したのであるが、ここでは、むしろ質的に接触のしかたを考究しよう。
すなわち、21種の記事項目を質的に第一次的関心、第二次的関心、第三次的関心、特殊の関心に分けて、それぞれの分野における距離点数を学年別、地域別に比較し、これによって、少年の興味関心の発達が、どのような過程をとって拡大されて行くかを見ようとするのである。

(1) 第一次的関心

		小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3
東 京	人 数	50	48	59	52	52	46
	平 均	1.31	1.27	1.46	1.36	1.39	1.39
	分 散	0.31	0.37	0.34	0.42	0.37	0.39
神 崎	人 数	50	50	49	49	47	50
	平 均	0.90	0.90	0.89	1.12	1.24	0.94
	分 散	0.19	0.24	0.32	0.34	0.19	0.45
八 街	人 数	48	49	48	46	50	47
	平 均	0.74	1.00	1.04	1.07	1.08	1.03
	分 散	0.26	0.36	0.20	0.37	0.31	0.26

第一次的関心記事というのは、「まんが」と「子供欄」であって、児童少年の娯楽的興味に訴えるものである。したがって、距離点数の満点は2点であり、東京において平均点の一番低い5年生の1.27点でも、接触度100%として換算するところの記事の63.3%が読まれていることになる。また、同じく神崎の最下位6年生でも44.5%、八街の最下位4年生でも37%が読まれていることになり、少年がこの種の記事に非常に深い関心を示していることが了解される。

また、この記事に関し、学年別の差を求めても、ほとんどその差の見られないことは、最も特徴的である。とくに東京においては、6学年を通じ、ほとんど大差なく、小学4年生にして、すでに頂点に達しているといえよう。神崎においては中学2年生がとくに高く、中学1年生がこれについて、その他との間に顕著な差を示しているが、学年の上昇とともに、この記事への接触が高まるという傾向を示すものではない。八街においては小学5年生がと

くに低く、小学6年生以上との間に有意の差を示しているが、その他はほとんど差が認められない。

要するに、第一次的関心記事は学年に関係なく児童の興味に訴え、新聞に接近せしむる動機づけの役目を果していると考えられる。これを理解する背景としての社会的経験もそれほど必要としないだけに、低学年から高い接触率を示し、このため必ずしも学年の上昇にともなって発達する性質のものではないと思われる。

しかし、地域的に見ると、第一次的関心記事にも文化的圧力の影響は非常に大きく作用していることが知られる。東京において最低の点数をとっている5年生でも、神崎・八街の最高のものより接触度が高いし、また神崎の中学2年生を除き、他のすべての点数との間に有意の差が認められる。このことは、現在の新聞にのせている「まんが」や「子供欄」があまりにも都会的であること、すなわち新聞が都会の子供に適するように編集されている事実を示しているのかも知れないが、とにかく児童少年を新聞へ導入する過程において、社会の環境が重要な作用を及ぼしていることを切実に感じさせられる。

(2) 第二次的関心

		小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3
東京	人 数	50	48	59	52	52	46
	平 均	1.97	2.40	3.24	2.96	3.72	4.28
神崎	分 散	1.64	1.32	1.28	2.22	1.77	0.85
	人 数	50	50	49	49	47	50
八街	平 均	1.02	1.32	2.02	2.85	3.67	4.14
	分 散	0.71	0.63	1.21	2.33	1.47	1.01
八街	人 数	48	49	48	46	50	47
	平 均	0.66	1.47	2.15	2.54	2.97	3.34
八街	分 散	0.62	1.67	1.67	2.40	2.47	1.90

第二次的関心記事というのは、「広告」「ラジオ番組」「家庭婦人」「天気予報」「社会記事」「地方版」「投書」の七つの記事のことで、これらは日常の

生活を営む上に、直接必要な情報を提供するものと考えられる。これへの接近度を距離点数で示すと満点は7点である。

この記事に関し、学年別の差を求めると、各地域ともに、低学年から高学年へ上昇する傾向をとり、第一次的関心記事との性格上の違いを示している。東京では小学6年と中学1年との平均が逆の傾向になっているが、差は有意でなく、小学5年と6年、中学1年と2年、中学2年と3年の間に有意の差が認められる。神崎では、各学年の間に有意の差があり、この記事への接触と学年との間に明瞭な相関が認められる。八街では、小学校の各学年相互、ならびに小学6年と中学2年、中学1年と3年の間には有意差が認められ、学年とともに新聞への接近度が高まることが明瞭に示されている。

第二次的関心記事が、このように学年との高い相関を示しているのは、この種の記事に関心をもち、かつ理解するためには、おそらく社会的経験および国語能力という背景が必要だからで、そのためには、心身の発達にまつ所が大きいからであると思われる。

それでは、これを地域的に見るとどうだろうか。小学校では、4年、5年6年ともに東京と神崎・八街間に有意の差が認められるが、中学校になると各学年とも地域間に有意の差が認められない。とくに神崎の中学では各学年とも距離点数が東京に非常に近接しているのである。要するに、この第二次的関心記事は生活に直接関係をもっているだけに、成人の場合でもごく普通に読まれるのはこの記事であるし、ある程度の経験と国語能力とがそなわりさえすれば、地域差にはそれほど関係をもたないのであろうか。東京において小学校がとくに高いのは、都会的環境が低学年から新聞への接近を動機づけるからで、心身が発達するにつれて、その差が次第にならされて来るのであろう。

(3) 第三次的関心

第三次的関心記事というのは、「外国政治記事」「国内政治記事」「社説」

「短評」「経済一般」「株式」の七つの記事のことである。個人の生活にとっ

		小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3
東京	人 数	50	48	59	52	52	46
	平 均	0.49	0.68	1.13	1.41	1.73	2.40
	分 散	0.56	0.77	1.21	0.81	1.79	1.93
神 崎	人 数	50	50	49	49	47	50
	平 均	0.14	0.21	0.85	0.56	1.45	2.07
	分 散	0.09	0.21	0.94	0.90	1.19	2.06
八 街	人 数	48	49	48	46	50	47
	平 均	0.19	0.42	0.96	0.78	1.07	2.00
	分 散	0.52	0.71	1.13	0.40	1.91	1.83

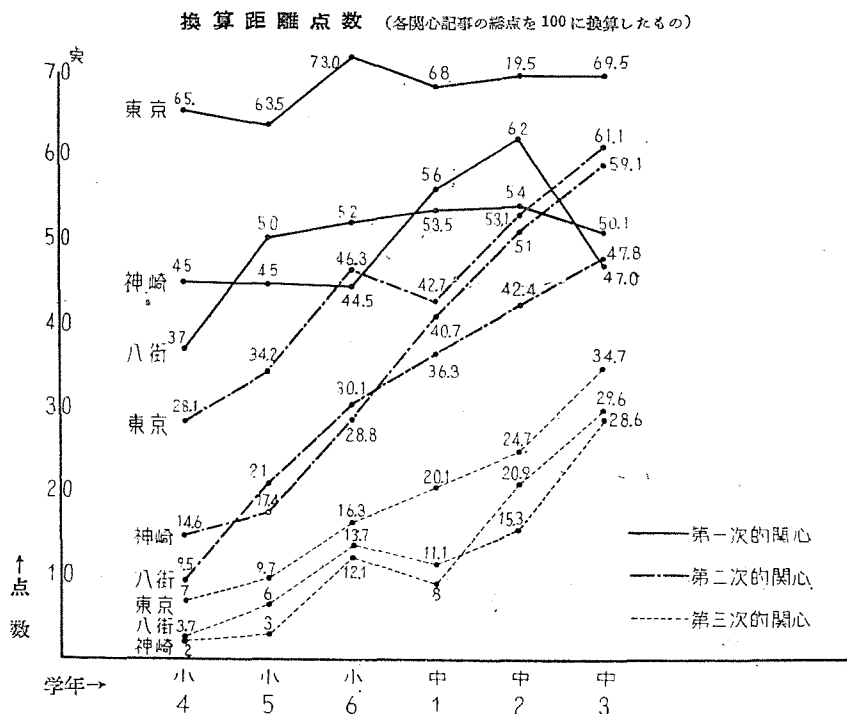
ては間接的な関係であるが、これは社会の本質的な政治経済の動きを伝えこれに関心をもつには、社会的な視野が拡大されていなければならない。これへの接近度を距離点数で示すと7点が満点になるが、小・中学生においては、この種の記事への関心が極めて低いといえよう。今、距離点数を100%として換算すると、小学校でもっとも高い東京の6年でも、この記事の16%しか読んでいないことになり、また中学でもっとも高い東京の3年でも、34%しか読まれていない計算になる。

この記事に関し、学年別の差を求めると、僅かの例外を除いて、各地域とも学年に平行して上昇の傾向をとっている。東京では、小学5年以下と6年以上、小学6年と中学2年以上、中学2年以下と3年との間に有意の差が認められる。神崎・八街でも以上のほか中学1年と2年の間の差が有意で、この記事への接触と学年との相関が明瞭に認められる。

次に地域についてみると、東京と神崎・八街間では、各学年ともその差は有意で、第三次的関心のように社会的意識の広がりが必要とする記事に関しては、やはり社会的環境が重要な因子として働いていると考えられる。第二次的関心のような直接的生活的なものは、ある程度の生活年齢に達すると地域差が稀薄になるのであるが、第一次的関心のような娯楽的なものや、第三次的関心のような社会的間接的なものには、文化的圧力が大きく作用してい

るのである。

今、第一次的関心から第三次的関心に至る系列を、児童少年の社会的視野の拡大されて行く過程的段階と考えることもできよう。学年別、地域別に、それらがどのように発達して行くかを図に示すと次のようになる。



(4) 特殊的関心

特殊的関心記事というのは、「小説」「学芸」「映画演劇」「将棋碁」「スポーツ」の五つの記事のことで、これらに関心をもつには、主として個人の文化的あるいは趣味的背景を必要とするであろう。これへの接近度は、距離点数5点を満点として算出した。

この記事に関し、学年別の傾向を見ると、神崎の小学4・5年を除けばどの地域においても学年と平行して上昇する傾向を示し、やはり心身の発達に

ともなう関心の拡大がこの記事に接近する重要な要因になっていると考えら

		小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3
東 京	人 数	50	48	59	52	52	46
	平 均	0.81	0.98	1.08	1.20	1.81	2.24
	分 散	0.57	0.73	0.87	0.81	1.13	1.28
神 崎	人 数	50	50	49	49	47	50
	平 均	0.66	0.54	0.82	1.02	1.66	1.65
	分 散	0.28	0.33	0.48	2.17	0.74	0.98
八 街	人 数	48	49	48	46	50	47
	平 均	0.34	0.56	0.78	1.04	1.42	1.79
	分 散	0.27	0.68	0.64	0.66	1.00	1.12

れる。したがって、全体としてこの記事への接触度は、いたって低く、小学校においてこの記事はわずか20%以下しか読まれていないことになる。要するに関心領域の狭い小学校においては、傾向としては上昇過程をたどるといっても、学年相互に有意の差は認められない。中学において、1年生はどちらかといえば小学6年に近く、2年との間に明瞭な差が見受けられる。文化的趣味的関心は、三つの地域ともに中学2年になって急速に発達するといえるようである。

特殊的関心記事に関し、地域を比較すると、東京と神崎・八街間では、中学1年を除き、他の学年にはすべて有意の差が認められ、これらの関心の発達にも文化的圧力の影響していることを見逃すことができない。しかし、一方これは現在の新聞が都会的特殊関心記事を中心にのせているためだと考えられないこともない。

4 性 別

新聞への接触度、すなわち新聞距離点数が男女の別によって、どう違うかを検討しよう。一般成人の場合は、日本新聞協会の調査によっても明らかに、男子がはるかに高い閲読率を示している(新聞研究28号P6)。これは男子と女子の生活構造に社会性の大小の違いがあって、そこから新聞を読む要求の強弱が生ずるためと思われるが、さらに多忙で読む時間のないということも女子の閲読率を低くしている原因になっているようである。

小・中学校における男女児童生徒の場合は、その生活構造が、成人の場合ほど違っているとは思われない。男子生徒といえども、成人男子のような社会生活を営んでいないことは女子生徒と同じであるし、また、多忙という点からみても、成人男女の場合ほどの差があるとは考えられない。この事情は次の新聞距離点数に明瞭にあらわれていると思われる。

地域	学年	性 項目	男			女		
			人 数	平 均	分 散	人 数	平 均	分 散
東 神 八	小 4		25	4.98	6.85	25	5.86	7.81
	小 4		27	2.91	1.81	23	2.59	2.32
	小 4		23	2.52	4.87	25	1.22	0.88
東 神 八	小 5		21	5.74	7.06	27	4.91	8.07
	小 5		24	2.91	2.95	26	3.00	2.35
	小 5		24	4.11	13.21	25	2.60	2.12
東 神 八	小 6		27	7.13	1.33	32	6.88	10.17
	小 6		29	4.92	8.76	20	4.22	5.11
	小 6		26	5.1	11.08	22	4.84	6.62
東 神 八	中 1		28	7.63	3.11	24	6.08	13.43
	中 1		24	5.25	12.27	25	5.84	5.78
	中 1		21	4.66	7.65	25	6.12	11.05
東 神 八	中 2		27	8.81	7.54	25	8.40	13.74
	中 2		18	7.97	8.30	29	8.07	5.32
	中 2		30	5.54	9.27	20	8.05	11.74
東 神 八	中 3		23	10.48	7.90	23	9.74	16.16
	中 3		21	9.12	13.97	29	8.64	3.61
	中 3		24	7.93	16.56	23	9.06	9.33

上の表に関する限り一般的傾向として、男子が常に女子より優位であるとはいえない。東京では中学1年以外は男子の方が点が高いが、神崎の小学5年、中学1年2年では、女子の方が高い。さらに八街になると、中学以上はすべて女子の距離点数の方が高いのである。また、有意差を検定してみると

東京・神崎では各学年とも有意の差は認められない。八街では、小学4年と中学2年に認められるが、小学4年では男子が、中学2年では女子が高いのであって、これは性別以外の他の原因によると考えるべきであろう。

要するに、小中学校における児童生徒の新聞接触度は、男女に関し、差が認められない。これは前に述べたごとく、成人の場合ほど、その生活構造が男女による分化を示していないからであろうと思われる。そして、神崎・八街の中学において女子の方がむしろ優位なのは入学試験などの負担から解放されているためとも考えられ、成人女子が男子に比して閉鎖的なのと対照して考えさせられる問題である。女子の社会的地位が確立し、男子と同じ社会意識を持ちうる社会においては、女子も男子と同じく新聞を読むであろうことを、上の表は暗示しているように思うのである。

以上は、新聞への接触を量的に見たのであるが、しかし質的に検討すると男女の差がないとはいえない。

東京での新聞記事の読み方（いつも読むもの）

（各学年、男・女総数をそれぞれ100としてみた％）

記事別	まんが	家庭婦人	社会記事	国内政治	運 動
小4年男	84.0	0.0	24.0	0.0	28.0
女	72.0	4.0	8.0	0.0	8.0
5年男	77.1	4.8	19.0	4.8	38.1
女	74.1	3.7	18.5	0.0	18.5
6年男	82.1	3.6	42.9	7.1	42.9
女	76.1	16.1	35.5	12.9	12.9
中1年男	85.2	0.0	55.6	22.2	66.0
女	76.0	12.0	28.0	16.0	0.0
2年男	72.1	0.0	53.6	32.1	57.1
女	83.1	16.7	58.3	16.7	16.7
3年男	78.3	8.7	65.2	26.1	56.5
女	95.6	17.4	69.6	17.4	30.4
男	79.8	2.8	43.2	15.0	48.1
女	79.4	11.6	36.3	10.5	14.4

東京だけの例であるが、「家庭婦人欄」「運動欄」に男女の差が著しくあらわれ、「社会記事」「政治記事」でも一定の傾向をとっている。したがって、新聞を要求する量においては男女の区別がないにしても、要求している質においては、男女の差が上記の記事に見受けられ、将来の分化した生活への準備がすでに始まっていることが観察される。

5 居 住 歴

これまで、新聞への接触度を、学年別、地域別、性別に検討して来たが、新聞への要求は、なんといっても、心身の発達をも含めて社会的経験の増大それに伴う社会的意識の拡大に基づいているように思われる。つまり生活領域が広がるにつれて、新聞への要求が増し、必然的に新聞への接触度が高まって行くと思われるのである。

したがって、意識を広げる因子として作用していると思われる条件について、新聞接触度との関係を検討してみる。これらの条件に関しては、「生活調査」(ID 8 調査項目一参照)で行ったものを用いるが、「居住歴」はその一つである。

居住歴とは、他の土地に住んだことがあるかどうかを問うたもので、これは児童少年の意識に少なからず影響力をもっていると考えられる。とくに比較的成長してから移動したものが直接他の社会の影響を受けるのはもちろんのことだが、たとえ記憶以前の幼時期に移動したものだといえども、家庭の談話を通じて心理的にはかつて住んだ土地に対する親近感を抱くであろうし、また一方、居住地を移すような家庭環境に育ったという所に、生活領域を広げる要因がありそうに思える。

今、三つの地域について、小学4年から中学3年まで、全学年を通して移動の有無を調べると、右の通りで、三つの地域の社会構造上の違いが明瞭になる。

	東 京	神 崎	八 街
移動した	242人	116	75
移動しない	56	156	212

ところで、住居を移動した集団と移動しない集団との新聞距離点数の平均をとってみると、両者の間に有意の差の認められるのは、東京の中学3年だけで他は各地域とも、どの学年にも有意の差が認められない。したがって、児童少年の場合、居住地を移したかどうかということは、新聞への接近に対して大きな因子として働いているとはいえない。

	東京	移し 動た	移しい 動な	神 崎	移し 動た	移しい 動な	八 街	移し 動た	移しい 動な
人 数	31	15		12	37		9	27	
小4年 平 均	4.96	5.34		2.73	2.27		1.79	1.91	
分 散	(6.58)	(1.17)		(2.23)	(2.08)		(2.90)	(3.36)	
人 数	45	2		15	35		16	28	
小5年 平 均	5.10	6.5		3.5	2.7		4.44	2.46	
分 散	(7.27)	(2.69)		(2.5)	(2.52)		(15.31)	(4.58)	
人 数	43	9		15	32		17	26	
小6年 平 均	7.29	5.95		4.43	4.69		4.78	5.12	
分 散	(6.86)	(5.30)		(7.50)	(7.65)		(4.84)	(11.16)	
人 数	33	11		11	33		12	35	
中1年 平 均	7.68	7.73		6.32	5.53		5.75	5.25	
分 散	(10.56)	(1.22)		(9.05)	(4.43)		(8.65)	(10.95)	
人 数	44	8		10	37		19	28	
中2年 平 均	8.45	9.50		8.80	7.82		7.66	6.23	
分 散	(11.28)	(5.69)		(6.16)	(7.27)		(10.24)	(12.14)	
人 数	39	5		13	33		24	20	
中3年 平 均	9.23	11.53		10.34	8.65		8.31	8.05	
分 散	(11.45)	(5.04)		(8.39)	(6.45)		(20.48)	(11.55)	

ただ、注意したいことは、この要因の働き方を傾向的にとらえてみると、下表のごとく東京と神崎・八街とではほぼ逆の関係になっていることである。

つまり、東京では大体において、移動しない集団の点数の方が高く、神崎・八街では移動した集団の点数の方が高いのである。

もし、これを一定の傾向として認め得るとすれば、新聞への接触は単に移

学 年		小4	小5	小6	中1	中2	中3
東京	移動した			○			
	移動しない	●	●		●	●	●
神 崎	移動した		○		○	○	○
	移動しない	●		●			
八 街	移動した		○		○	○	○
	移動しない	●		●			

注 移動したものが移動しないものより距離点数の平均が高い時は○
移動しないものが移動したものより距離点数の平均が高い時は●

動したかどうかによって左右されるものでないといえよう。

つまり、東京における傾向性に認められるように、非都会的環境から東京に移動したものが、出生以来東京にいたものに比して、点数が低いということは、新聞への接触に対しては、移動の有無より、都会的環境の方により大きな因子があるということを示していると思われる。

6 読 書

読書量の多少もまた、新聞への接触に関係のある要因であると思われる。

児童生徒の読書状況については、精しくは附表に概観するつもりであるが生活調査の結果にあらわれた限りでは、読書の質は異なるにしても、量においては低学年から各地域とも相当に多く、4年生で次表のごとくなっている。

4 年生の読書量（地域別）

	1 か月に読む本		1 か月に読む雑誌	
	1 冊以下	2 冊以上	1 冊以下	2 冊以上
東 京	1人	43人	6人	39人
神 崎	6	42	10	35
八 街	7	42	8	58

ただ、3 年生に
なって各地とも急
に減少し、三つの
地域を合わせると、
次の通りである。
これは調査が正月

の前後に行われ、入学試験を控
えていたためだと思われる。地
域別に小学5年から中学3年ま
でを合計すると、次のようにな

3 年生の読書量（全地域合計）

1 か月に読む本		1 か月に読む雑誌	
1 冊以下	2 冊以上	1 冊以下	2 冊以上
54人	78人	39人	89人

り、やはり東京の読書量がやや多いと思われる。

地 域	1 か月に読む本		1 か月に読む雑誌	
	1冊以下	2冊以上	1冊以下	2冊以上
東 京	51人	251人	51人	248人
神 崎	76	202	60	193
八 街	64	206	53	193

さて、読書量と新聞距

離点数の相関を見るため

1 か月に本と雑誌をそれ

ぞれ1冊以下しか読まな

いものおよび、それぞれ2冊以上読むものとの二つの集団をつくって、両集団の距離点数の平均を算出すると次の通りになる。

地 域 項 目	東 京		神 崎		八 街	
	1冊以下	2冊以上	1冊以下	2冊以上	1冊以下	2冊以上
小 4 人 数	0	34	3	29	3	32
平 均		4.96	0.66	2.81	0.5	3.12
分 散		8.43	4.22	2.39	0	12.05
小 5 人 数	0	42	11	21	10	17
平 均		5.20	2.72	3.05	2.4	4.53
分 散		8.62	2.15	3.00	1.19	11.84
小 6 人 数	0	44	5	27	0	37
平 均		7.09	2.8	5.63		5.5
分 散		6.9	4.66	6.24		9.38
中 1 人 数	4	27	1	24	2	21
平 均	6.75	8	4	6.11	2.5	6
分 散	8.69	10.43	0	4.28	0.25	11.29
中 2 人 数	4	38	4	34	5	19
平 均	7.25	8.67	7.25	8.61	5.2	8.77
分 散	3.06	11.65	4.06	5.72	5.56	9.52
中 3 人 数	10	21	9	22	7	15
平 均	8.95	10.25	6.95	9.29	9.07	9.97
分 散	8.12	14.45	7.97	8.70	14.11	11.42

それぞれの人数が少なくなっているのは、「本1冊と雑誌2冊」「本2冊と雑誌1冊」と回答したもの、および記入もれものを省略して、読書量の最低と最高の集団を比較したからである。

これによると、地域・学年を通じて、一貫して読書量の多い集団が、新聞への接近率が高い。とくにこのうち、神崎の小学5年・6年、中学3年および八街の小学5年、中学1年・2年における差は有意であり、読書と新聞と

の間には相関のあることが知られる。

7. マス・メディアへの接触度

新聞距離点数は、新聞への関心の広さを測定したものであるが、ここでは新聞を含めたマス・メディアへの接触回数の多少が、この関心の広さにどう影響しているかを検討する。すなわち、新聞・ラジオ・映画へ接触する回数によつて、次のグループをつくり、各グループにおける距離平均をとってみる。

a グループ	新聞を毎日読む	ラジオを毎日聞く	映画を月2回以上見る
b グループ	新聞を毎日読む あるいは 新聞を時々読む	ラジオを時々聞く	映画を月2回以上見る
c グループ	新聞を毎日読む あるいは 新聞を毎日読む あるいは 新聞を読まない あるいは 新聞を時々読む	ラジオを毎日聞く	映画を月2回以上見る
d グループ	新聞を毎日読む あるいは 新聞を時々読む 新聞を時々読む 新聞を読まない	ラジオを毎日聞く	映画を月2回以上見る
e グループ	新聞を毎日読む 新聞を読まない 新聞を時々読む 新聞を読まない	ラジオを毎日聞く	映画を月2回以上見る
f グループ	新聞を時々読む 新聞を読まない	ラジオを時々聞く	映画を月2回以上見る
g グループ	新聞を読まない	ラジオを聞かない	映画を月1回以下しか見ない

各グループの距離平均は次の通りである。

グループ		a	b	c	d	e	f	g
学年・地域								
小 4	東 京	5.42	4.0	6.25	4.88	2.4		(1.0)
	神 崎	3.25	3.17	2.69	2.45	2.42		
	八 街	4.87	1.57	2.29	1.84	0.78	(1.5)	
小 5	東 京	5.3	6.5	6.19	4.11	3.75		
	神 崎	4.0	3.03	3.75	2.7	2.48		
	八 街	(7.25)	(3.0)	3.61	3.28	3.2	(2.0)	
小 6	東 京	7.62	6.5	7.18	7.13	5.62		
	神 崎	6.13	5.87	4.94	5.0	3.29		
	八 街	10.0	6.5	6.07	3.35	2.62		
中 1	東 京	7.67	6.0	8.1	5.93	5.0		
	神 崎	8.21	5.0	6.14	4.44			
	八 街	5.5	(6.0)	6.87	5.28	3.07		
中 2	東 京	9.55	6.68	9.77	7.56			
	神 崎	9.53	7.41	7.73	8.17	5.4		
	八 街	7.1	5.5	7.34	3.8	4.4		
中 3	東 京	10.59	6.75	10.56	10.25			
	神 崎	9.83	8.87	8.89	6.67			
	八 街	10.9	4.83	9.3	8.44	7.64		

このうち、東京の小学4年・中学2年・3年、八街の中3年におけるb・c両グループの間に逆相関の関係が認められるが、これは、おそらく、新聞・ラジオに対する映画の比重のかけ方に問題があって、グループの分け方が必ずしも適切でないためであろう。しかし、それにもかゝらず、全体として見ればマス・メディアへの接触回数の多いグループと少いグループとの間には、正常の相関が多数認められるのであって、記事への関心領域の拡大するためには、やはりこの接触回数が重要な要因となっていると考えてよさそうである。特に、c以上のグループとd以下のグループとの間に有意差の認められる場合が多く、東京では、小学4年・5年、中学1年に、神崎では、小学5年・6年、中学1年・2年・3年に、八街では、小学4年・6年、中学1年・2年・3年に、その事実が見出される。したがって、新聞をたびたび読み、ラジオをたびたび聞き、映画をたびたび見るものの方が、そうでないものより記事への関心が広がっているといつてよいと思われる。

Ⅲ 新聞への接近と国語能力

A 学校の国語の成績

これまでは、新聞接近の要因として、被調査者の環境的背景、とくにかれらの社会的な意識を拡大する役目を果していると思われる諸条件について考察して来た。しかし、新聞への接近は、単に社会的に強制せられた要求だけによって行われるのではない。いかに強制されても、もし、新聞を理解する能力がなければ、要求は実現されないものであり、したがって新聞への接触も自然少くなると思われる。そこでここでは、理解する地盤としての国語能力と新聞距離点数との関係を見ることにする。

まず、学校における国語の成績を、5段階の採点法に従って、5つの集団にわけ、それぞれの距離点数の平均をみてみよう。

国語成績の段階と距離点数平均〔小学校〕

成績段階		1	2	3	4	5
地域学年						
東京	小 4	3.13	4.97	4.19	4.55	(7.5)
	小 5	6	4.29	5.74	4.87	(6.25)
	小 6	6.21	6.78	7.12	6.87	(9.5)
神 崎	小 4	(1.5)	1.68	2.98	2.81	
	小 5	(0.5)	2	3.21	4.17	(4.5)
	小 6	1.6	4.88	5.05	6.95	
八 街	小 4	0.75	1.25	1.03	2.21	(2.23)
	小 5	1.61	2	3.45	4.5	5.7
	小 6	3.0	4.75	5.55	4.88	(6.67)

() 内は人数が3名以下の少数の場合

このうち、成績4のグループが成績3のグループよりやや低い場合も見受けられるが、両者を同じ集団と見なすとすれば、新聞への接触率は大体、国語の成績と平行して低いものから高いものへの方向をとっていることになる。とくに、成績1のグループは常に低く、成績5のグループは常に高く、

また成績2と3・4のグループも東京の4年生を除き、段階的になっているのである。神崎4年生の2と3・4の間5年生の2と4の間、6年生の1と2、2と3・4の間および八街5年生の2と3・4の間には有意の差も認められる。

このように、新聞への接近に対して、国語能力もまた大きな要因となっている。

B 漢字および語彙の能力

新聞の読みの抵抗となっているのはなによりも、まず漢字と語彙であろう。新聞がまんがや写真だけでは満足できず、情報を得るために要求されるようになれば、漢字や語彙の知識が少いということは、新聞への接近をはばむ大きな原因となるに違いない。漢字や語彙の知識の豊かなものは抵抗なしに新聞に入って行けるのに対し、乏しいものは障壁にぶつかって新聞への要求をそがれる結果、両者の新聞接触の度合に何らかの違いを生ずると思われる。

ところが、学校の国語の成績は、現在では「聞く力」「話す力」「読む力」「書く力(作文・習字)」に分けられ、その総計で表示されている。「新聞を読む」ということに直接関係のあるのはこのうち「読む力」であり、今われわれが知りたいのは、特に漢字と語彙の能力である。そこでわれわれは、学校成績とは別に、漢字と語彙の知識をテストし、その結果と新聞距離点数との関係を検討してみた。

1 国語教科書に多くあらわれる漢字と語彙の知識

学校の国語教育で、教科書を本にして学習するのは、教科書の文章には名家の文学的な文章が多いから、新聞に出て来る漢字や語彙と全くその趣きを異にする。そこで、われわれは漢字および語彙のテストを国語教育上の用語・用字と新聞の用語・用字とに分けて行った。

まず、前者、すなわち、主として国語教科書に多くあらわれる漢字・語彙

の知識と新聞接触度との関係を見ることにする。採点は漢字15問、語彙10問のうち、漢字に1点ずつ語彙には2点ずつを与え、合計35点満点として計算した。これを5点おきに7つのグループに分けて新聞距離点数の平均を求めると次のようになる。

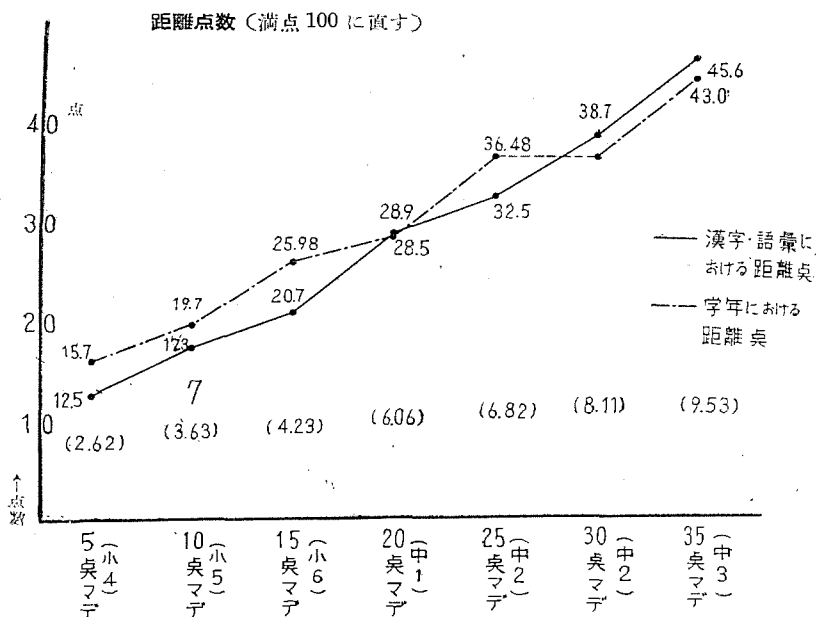
国語教育上の漢字・語彙の力と新聞距離点数平均

〔小 学 校〕		漢字語彙						
学年・地域		5点	10点	15点	20点	25点	30点	35点
		マデ	マデ	マデ	マデ	マデ	マデ	マデ
小 4	東 京	5.19	4.48	3.21				
	神 崎	2.5	2.83	3.32				
	八 街	1.84	1.52	3.87				
小 5	東 京	3.9	5.12	5.43	5.6	7.25		
	神 崎	1.49	2.96	2.93	4.86			
	八 街	1.88	3.68	3.79	6.95			
小 6	東 京			5.73	7.48	6.93	7.15	
	神 崎	3.5	3.07	4.35	5.98	6.66		
	八 街			4.15	6.14	4.37	7.4	
〔中 学 校〕		漢字語彙						
学年・地域		5点	10点	15点	20点	25点	30点	35点
		マデ	マデ	マデ	マデ	マデ	マデ	マデ
中 1	東 京		4.5	5.66	6.28	8.77	7.11	7.25
	神 崎	0.06	3.16	5.5	5.58	6.10	8.4	
	八 街		3.5	2.5	4.96	5.4	8.17	8.14
中 2	東 京				7.5	6.9	8.22	9.82
	神 崎		5.0	5.42	7.44	7.44	9.75	9.32
	八 街			2.75	5.95	6.67	8.33	9.78
中 3	東 京				6.75	8.2	9.27	11.35
	神 崎			5.0	7.3	8.22	6.63	9.84
	八 街					5.75	7.45	10.73

東京の4年生を別にすれば、漢字・語彙点数の低いものから高いものへ、新聞距離点数は上昇し、新聞への接近に対して、漢字・語彙の知識が重要な役割を果たしていることが見受けられる。とくに、東京の中学1年、神崎

の小学5年・6年、中学1年・2年、八街の小学6年、中学2年の各グループの距離点には、段階的に有意の差の認められるものが多く、漢字・語彙の知識の豊富なものほど、新聞接近の度合いが高いといえる。(小学4年生の新聞への接近は、まんがや写真を主として、記事の読みには関係が少いから、漢字力・語彙力の制限を受けることが少いのは当然である。)

さらに、興味あることは、漢字・語彙の点数で、同じレベルにあるグループは、学年の差に関係なく、新聞距離がやや近似していることである。たとえば、東京を例にとると、漢字・語彙点数10点のグループは、4年生の距離点数が4.48、5年生のが5.12、中学1年生のが4.5である。また漢字・語彙点数15点のグループは、4年生の距離点数3.21、5年生のが5.43、6年生のが5.73、中学1年生のが5.66であって非常に近い。その他も多少のはば



があるにしても、大体、漢字・語彙点数によって、新聞接近のレベルが決まっているように思えるのである。もし、この仮定が許されるとすれば、前に学

年と新聞接触度とに高い相関が見られたのは、高学年になるほど国語能力（漢字力・語彙力）が高いからであると解釈すべきで、学年と新聞接触度との相関は実質的には国語能力との相関に他ならないと思われる。したがって、今国語能力を学年によってレベルづけしないで、全員を漢字力・語彙力によってレベルづけするとすれば、前表となる。つまり、漢字・語彙力5点以下のものはちょうど小学4年生のレベルに相当し、10点までのものは小学5年生、15点までのものは小学6年生、20点と25点のものは中学1年生、30点のものは中学2年生、35点のものは中学3年生のレベルに相当することになる。

2 新聞に多くあらわれる漢字および語彙の知識

国語教科書に主としてあらわれる漢字・語彙を理解する能力と新聞にあらわれる漢字・語彙を理解する能力とは、能力としては本質的に違っていかぬかも知れない。しかし、教科書にはあまりあらわれずに新聞の方に多く出て来る語彙もあるはずであるし、新聞関係の漢字・語彙の知識が多ければ多いほど、新聞への接近度も高くなると思われる。テストにおける新聞漢字15問に対して1点ずつを、語彙に対して2点ずつを与えて、総点35点として採点し、新聞距離点数との関係を検討した。

新聞に多く見る漢字・語彙の力と新聞距離点数

〔小 学 校〕		漢字語彙						
学年・地域		5点	10点	15点	20点	25点	30点	35点
		マデ	マデ	マデ	マデ	マデ	マデ	マデ
小 4	東 京	4.16	4.84	5				
	神 崎	2.41	3.03	3.4				
	八 街	1.37	1.97	4.25				
小 5	東 京	6.11	4.48	5.84	7.2			
	神 崎	1.95	3.24					
	八 街	1.48	2.97	2.92	6.9			
小 6	東 京		6.53	5.92	7.84	7.04		
	神 崎	2.57	4.18	3.58	6.5			
	八 街	4	3.88	5.5	5.11	5.4		

〔中 学 校〕		漢字・語彙						
学年・地域		5点 マデ	10点 マデ	15点 マデ	20点 マデ	25点 マデ	30点 マデ	35点 マデ
中 1	東 京		5.32	4.6	8.3	6.56	8.34	12
	神 崎	2	4.28	3.7	6.85	6.6	7.3	
	八 街	3.75	5.25	3.69	4	5.56	8.75	8
中 2	東 京				5.9	8	8.65	10.13
	神 崎		5.57	6.84	7.92	9.4	8.69	10.5
	八 街	2.82	5.5	4.62	5.31	7.17	8.31	7.04
中 3	東 京				6.62	8.67	9	9.74
	神 崎				8.92	8.12	8.57	10.13
	八 街				6.33	6.1	7.94	11.25

漢字・語彙点数と新聞距離点数との関係は、大体において教科書の場合と変わらないと思われる。やや、段階的に上昇して行く傾向性が教科書の場合より乱れているようであるが、平均の差を検定すると、むしろこちらの方に有意の差の認められるものが多い。東京では、小学6年生、中学1年生2年生に、神崎では小学5年生、6年生、中学1年生2年生、八街では小学4年生5年生、中学1年生2年生3年生に、集団間の距離点数の差の有意と認められるものが多いのである。

いずれにせよ、新聞への接触の度合が高くなるためには、漢字・語彙の知識、すなわちそうした方面の国語能力が必要であることは、以上によって明かである。

C 読 書 速 度

新聞は速く読んで意味をとることを原則とする。新聞を読むには、学校の国語教育の場合のように、わずかの分量の文章をゆっくりと読んで、その深い、精確な意味をとるのとはちがった、読書の技能が要求される。要点をひろい読みをする、全体をざっと通読するというような技能が必要である。

また、読書速度には、国語能力のすべての部分能力が、結集してあらわれ

ると考えられるのであって、アメリカの国語教育では、「読書の理解と読書の速度とは相関する」という考えがある。速く読める者ほど、よく理解する者であり、読書能力がある者であるというのである。だから、読書速度を確実に把握することができれば、それは国語能力の最良の標識として、それと新聞距離点数との相関を研究するのに便利である。ただ、日本語では読書速度の測定がはなはだ困難である。それは文の表記が語によって切れていないから、語数の計算がやっかいであり、不安定である。また、同一の文章を漢字のまじりぐあいをいろいろにして表記することができ、そのために、すべての人に適当な一つの文表記が存在しない。

そうして、「普通で読むように」教示したとしても、その「普通」が問題である。被験者の性格によって、そのテストに対する構えが異って来る。われわれが、国立国語研究所において実験して来た限りでいえば、小学校の低学年では読書速度はたしかに国語能力への指標であるが、中学校の2年3年となれば、ゆっくり読んで正しく理解して行くという性格の者もあって、読書速度と内容の理解力との相関は低くなっている。

さて、本調査で行った読書速度の問題は、全部でガリ版刷りにして93行の文であり、これを8分間に読み得た行数によって採点することにした。今、8分間に読んだ行数、30行以内、60行以内、61行以上、のグループをつくって、その新聞距離点数の平均を算出すると次のようになる。

		読書速度と新聞距離点数平均																	
学年		小 4			小 5			小 6			中 1			中 2			中 3		
地域	行数	東京	神崎	八街	東京	神崎	八街	東京	神崎	八街	東京	神崎	八街	東京	神崎	八街	東京	神崎	八街
		4.15			5.0			6.68			4.5						6.69		
30 行以内		1.86			3.0			3.95			3.03					6.69			
			1.1			2.28			3.75			4.5				5.8			
60 行以内		5.56			5.58			6.49			6.98			6.47			9.12		
		3.02			2.8			4.38			6.33			9.28			5.71		
			1.95		3.92			4.99			4.64			6.22			7.21		
61 行以内					5.31			7.35			8.08			9.12			12.28		
											5.97			9.54			6.07		
													6.41			8.86			7.95
						6.38			6.16										

東京の小学校5年6年、神崎の小学校5年、中学1年を除くと、やはり、読んだ行数の少ないグループは、行数の多いグループに比して、新聞距離点数も少く、大体において、読書速度と新聞接触度とが一致する傾向を示している。

また読書速度を10行おきのグループに分けてみると、

東京小 4	20 行以内のグループと 31～40 行のグループ
東京中 1	41～50 行のグループと 61～70 行・71～80 行のグループ
東京中 2	41～50 行・51～60 行のグループと 81～90 行・90 行以上のグループ
東京中 3	41～50 行のグループと 90 行以上のグループ
	51～60 行のグループと 61～70 行・71～80 行・90 行以上のグループ
神崎小 4	10 行以内のグループとそれ以上の各グループ
神崎小 6	21～30 行 31～40 行のグループと 51～60 行のグループ
神崎中 1	41～50 行のグループと 91 行以上のグループ
	51～60 行のグループと 61～70 行のグループ
	61～70 行のグループと 91 行以上のグループ
神崎中 2	21～30 行のグループと 51～60 行のグループ
八街小 5	21～30 行のグループと 51～60 行のグループ
	31～40 行のグループと 51～60 行のグループ
八街小 6	41～50 行のグループと 71～80 のグループ
八街中 1	31～40 行のグループと 61 行以上の各グループ
	41～50 行のグループと 71～80 行のグループ
八街中 2	31～40 行のグループと 71～80 行のグループ
	41～50 行のグループと 71～80 行のグループ
八街中 3	41～50 行のグループと 91 行以上のグループ
	51～60 行のグループと 91 行以上のグループ

の各グループの間に有意の差が認められ、読書速度と新聞距離点数との相関の高いことが知られる。

IV 記事の理解

A 記事理解力はどのようにして測られたか

これまでは、少年の新聞に接触する度合、すなわち、新聞距離点数を中心に、少年のマス・コミュニケーション生活がどのような過程をとって発達して行くかを検討した。地域、居住歴、読書、文化程度、マス・メディア(媒介)、父兄の職業などの要因は、主として児童の社会意識を広げ、生活領域を拡大するに役立つと思われ、事実これらは新聞接触の度合に相当高い関連をもっているように思われた。また、学校における国語成績、漢字漢語の知識、読書速度などの国語能力は、マス・メディアである言語の生活であって、これまた新聞への接近に対して、高い相関のあることが明瞭になった。

しかし、新聞接近度をはかる標識としての新聞距離点数は、21種に分類した記事を読んでいるかいないかによって採点したもので、関心の広さ、つまり新聞接触の範囲という観点からとらえた標識であって、それは必ずしも内容の理解を意味しなかったのである。そして、少年のほんとうのマス・コミュニケーション生活を把握するには、読んだ記事を理解しているかどうか、つまり新聞接触の深度という観点からもとらえる必要がある。

そこで、われわれは、第二に記事理解の能力を測定して、これと種々の要因との相関をも検討することにした。

新聞記事の理解といっても、現代の新聞記事は各方面にわたり、そこに必要とされる読書技能も一様ではない。そこで、子供欄、広告、社会記事、学芸文化記事、政治記事、運動記事、社説の7種の欄について、実際の記事から問題文を決定して、その理解を測定することにした。この際記事は、朝日、毎日、読売の各紙にわたり、ふだんの文体と同じような文体であり、事件内容としては、特別の予備知識を必要としないもので、しかも児童・青年に興味の持てるものとした。問題は全部で7問あり、(ID3参照)採点はそれぞれに5点ずつ配当して総点35点とした。その採点法は次の通りである。

問題1 は選択肢が2種ある故、1種だけ正答の場合は3点を

与え、2種正答の場合は5点とした。

問題2 は上に同じ。

問題3 は選択肢が3種あって、1種だけ正答の場合は2点、

2つ正答の場合は4点、3つ正答の場合は5点とした。

問題4 は選択肢1種で正答の場合5点。

問題5 は上に同じ。

問題6 は上に同じ。

問題7 は問題3に同じ。

以上の方法で採点して、被調査者の記事理解力を点数化し、要因との相関を見る標識とした。

B 記事理解力の発達

まず、記事理解力が、学年によってどう違うかを見よう。

学年別・地域別記事理解力一覧表

点数	学年	4			5			6			7			8			9		
	地域	神	東	八	神	東	八	神	東	八	神	東	八	神	東	八	神	東	八
0					1						1								
1																			
2		4	5	3	1		3		1	0		2	2						
3		2	1	0			0			0								1	
4		3	5	2	1		2	2	3	1	2	2		3	2	1			1
5		5	4	3	2	2	2	1	3	5	1	1	1						2
6		2	2	1	2	3	0		3			1		1		1			
7		8	2	5	10	5	4	7	2	3	2		7	2	3	4	1	1	1
8		3	3	0	2	3	1	2	2	1		1	1					1	
9		7	3	4	3	4	8	8	3	6	3	2	3	4	1	1	1	1	1
10		3	6	9	6	3	0	2	4	4	3		3	3		2	1	1	1
11		1	2	3	3	2	2		5	2	2	4	2	1	1	1		1	1
12		3	5	8	1	6	10	5	1	3	2	3	2	2	3	5	2		2
13		1	2	3	1	1	2		1	3	2		1	1	1		1		1
14		3	3	4	2	3	2	6	7	4	3	8	5	3	3	3	7	4	4
15		3	1	1	4	8	1	4	2		2	3	2	1	1	2	3		3

点 数	学 年	4	5	6	7	8	9
	地 域	神 東 八	神 東 八	神 東 八	神 東 八	神 東 八	神 東 八
16		1 2 2	1 2 2	1 2 2	4 4 1	4 3 4	1
17		2 0	6 3 1	3 4 2	10 2 2	3 3 3	3 2 6
18		1 0	0	1 1 2	1 1 1	2 1 2	2 6
19		2	3 4 0	3 3 3	4 1 4	3 1 2	3 2
20		1	1	2 1	2 6 1	1 3 3	
21			1 1	3 3 2	2 2 4	1 3 1	
22		1	1	2 1 1 1	1 2 1	2 7 2	4 2 1
23			3 1 3 1		3 1 1 2	4 3 2	
24			0	5 2	1 3 2	1 3 3	1 3
25		1	0		2	1 1 1 2 1	
26			1		1 1	1 3 2	5 3 1
27			0	1 2		2 1	3
28			0			1 1 1 2 1	
29			0			1	2 3
30			0		2	1	4 1
31			1			2 1	1 2
32				1	1	1	2 2 4
33						1	2 1 1
34					1	1 3	2
35							2
		151	148	158	148	148	143

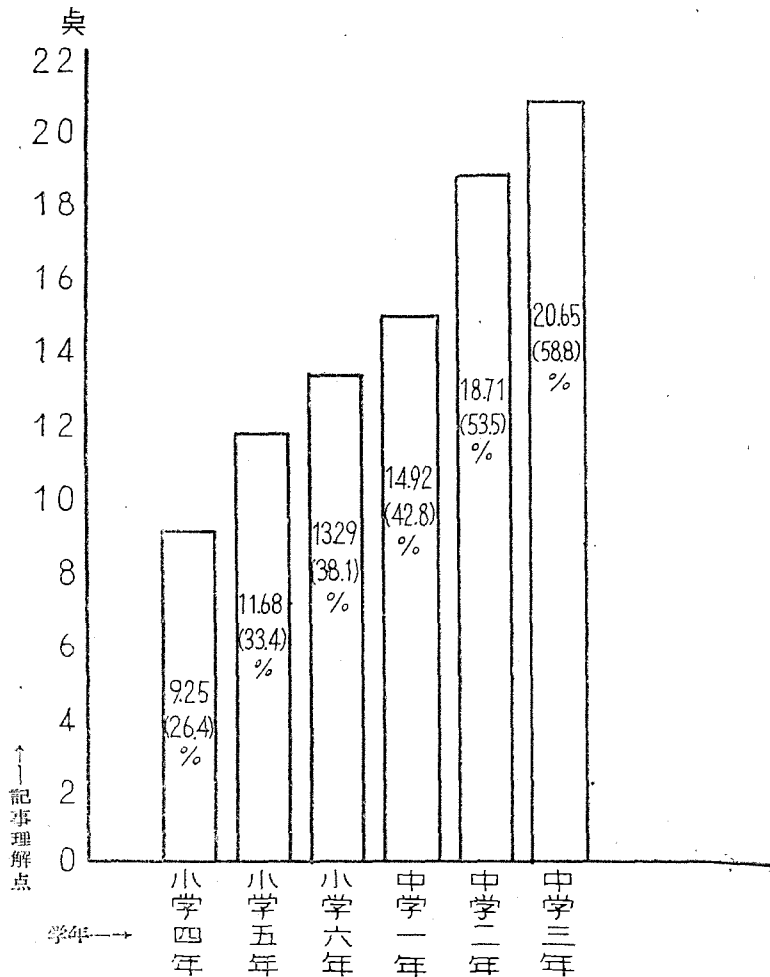
東京では学年が高くなるにつれて、理解点数が体系的に高くなり、上級ほど新聞記事を理解する度合の高いことを示している。このうち、小学5年と6年の間、小学6年と中学1年の間には有意の差が認められないが、小学4年と小学5年以上、小学5年と中学1年以上、小学6年と中学2年以上、中学1年と中学2年以上、中学2年と中学3年との間には有意の差が認められる。

神崎でも、高学年ほど理解の点数は段階的に上昇し、上級生になるにつれて、記事を理解する度合の高くなることを示している。このうち、小学4年生と小学5年生以上、小学5年生と中学1年生以上、小学6年生と中学3年

生、中学1年生と中学3年生、中学2年生と中学3年生との理解点数の間には、有意の差が認められる。

また、八街でも、学年に応じて理解の点数の上昇する傾向はすこぶる体系的である。このうち、小学4年生と6年生以上、小学5年生と中学1年生以

記事理解力の発達



上、小学6年生と中学2年生以上との理解点数の差は有意である。

以上、東京、神崎、八街のどの地域においても例外なしに、学年と理解力とは高い相関を示している。今、参考のためこの三つの地域をまとめ、各学年の理解度（理解点数のパーセンテージ）を算出すると、

学 年	4 年	5 年	6 年	7 年	8 年	9 年
人 数	151	148	158	148	148	143
平 均	(26.4%) 9.25	(33.4%) 11.68	(38.1%) 13.29	(42.8%) 14.92	(53.5%) 18.71	(58.8%) 20.65
S. D	4.41	5.28	6.07	6.46	7.28	7.68

となる。すなわち中学校2年生になってようやく50点であって、半分ぐらい理解できるようになるのである。

これをグラフ化すると前頁のようになる。

C どの記事が理解しやすいか

記事理解は、子供欄・広告・社会・娯楽・外電・スポーツ・社説の七つの場から代表になるようなものを一題ずつ選び出してテストしたのであるが、中学2年生ではじめて58.5点になり、それ以下の学年では余りに成績が悪いので、どの記事が理解しやすいかという問題について、ここでは、中学2年3年生だけについて調べてみる。

記 事 別 理 解 正 答 率

学年	地域	人数	1 子供欄	2 広告	3 社会面	4 娯楽映画	5 外電	6 スポーツ	7 社説
平均 (中学2・3年)	2年	151	47.68	48.34	54.30	69.53	34.44	25.17	52.32
	3年	146	58.90	48.28	63.47	77.93	48.59	39.31	55.94
中学 2 年	東京	52	45.19	53.85	65.38	72.55	43.14	35.30	59.62
	神崎	49	51.02	45.92	45.57	61.22	32.65	24.49	44.22
	八街	50	47.00	45.00	51.33	76.00	28.00	18.00	52.66
中学 3 年	東京	47	69.15	50.00	71.63	85.11	59.57	55.32	60.28
	神崎	50	54.00	51.00	66.66	78.00	46.00	36.00	54.66
	八街	49	43.88	43.88	59.18	69.39	36.73	30.61	53.06

子供欄だけについていえば、小学校6年生でも50点とれているが、他の欄については正答率が低く、とても、理解して読んでいるとはいえない。関心を持って見る、あるいは、読もうとするということはいえるかも知れないが、理解している人数はきわめて少いのである。

その中で、特に中学校2、3年についていえば、社会面と娯楽記事が比較的良好、スポーツ記事が悪くなっている。社説も他の記事の割には悪くない。もっとも、これ等のことは、たとえ記事の選び方が代表的なものであったとしても、その問題に対する質問の程度によって、非常に深い理解が要求されたり、比較的簡単な問いで済んだりしてしまうのであって、スポーツ記事は問題の形式がほかのところがっているから、解答者がまよったようである。(テスト中にもたびたび書き方について質問があった)したがって、厳密にいえば、こうした問題を出したからこういう結果が出たというだけのことで、そこに解釈を加えて見て行かなければならない。

D 記事理解力と環境

1 地域

新聞への接触度、すなわち距離点数は、東京と神崎・八街間に著しい差があり、東京という大都会の文化的圧力が児童少年をして新聞に接近せしめるのに大きな役割を果たしていると思われたが、果して新聞の理解力もまた社会的環境の違いによって差異が生ずるものであろうか。

新聞の理解点数に関し地域差を比較すると次の表の通りである。これによると、東京と神崎・八街間に有意の差の認められるのは、中学2年と3年だけで、中学2年において神崎との間に、中学3年において八街との間に認められるにすぎない。小学校においては、八街がむしろ優位にあり各地域間にはほとんど差がないといってよい。これは、新聞への接触率が東京の4年生が神崎・八街の6年生に、同じく5年生が中学1年生に、また6年生が中学

新聞理解点数の地域差比較表

学 年	地 域	人 数	理解点数平均	分 散
小 4	東 京	51	9.49	26.83
	神 崎	50	8.42	46.22
	八 街	50	10.10	15.17
小 5	東 京	49	11.86	16.67
	神 崎	50	10.88	23.65
	八 街	56	12.01	37.26
小 6	東 京	59	13.85	45.93
	神 崎	50	12.46	24.15
	八 街	50	13.48	37.69
中 1	東 京	52	15.56	43.21
	神 崎	49	14.39	26.97
	八 街	50	15.32	61.78
中 2	東 京	52	19.40	55.50
	神 崎	47	16.45	58.78
	八 街	50	16.80	40.72
中 3	東 京	47	23.11	46.87
	神 崎	50	20.5	60.03
	八 街	46	18.35	63.22

2年生に相当していたのと比べて、大変な違いといわなければならない。

しかし、これはこのテストそのものの性質によることが多いと思われる。このテストでは問題を見ればわかるように各記事について正式の、本格的な問いを出している。そういう高度の、完全な理解は、小学校の4、5、6年ではほとんど無理で、できた者はきわめて少いのである。このように、小学生の記事理解力は、85点満点中10点前後に位し、現実の新聞を確実に把握するだけの基礎としては、まことに薄弱である。そして、それにもかかわらず東京の小学4年生で21種の記事中関心を持つ記事が平均5種前後あるということは興味深い。このことは、理解力というのが学校における学習やそ

の他の経験など、心身の発達をまたなければ、早急には養われないのに対し種々の問題についての関心は、環境によって動機づけられさえすれば、早くから発生し得ることを示している。

小学校4、5、6年において地域差がなく、東京の方がかえって悪いようであったのは、よくできる少数者の統計になってしまったからであり、中学校においては正答率も40%以上になるのでテストとしてはじめて有効なものになるわけである。なお一般的に、小学校の設備や学力は都市と農村との間に差異が少く、中学校はそこに著しい差違が存在するものであるということも、このテストの結果を見る上に考慮しておかなければならない。

2. 性 別

新聞距離点数においても、男女の差は顕著でなかったが、記事理解においてもこの差はほとんどないといってよい。たゞ傾向を見るためどちらの点数が高いかだけを示すと、

学年		小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3
東 京	男 女	○	○	○		○	○
	男 女				○		
神 崎	男 女	○		○		○	○
	男 女		○		○		
八 街	男 女		○				○
	男 女	○		○	○	○	

(点数の高い方に○をつける)

となり、一般的にはその優劣をきめることができない。しかも、その点数は全部が大体において近似しているのである。

学 年	性	人 数	運動記事の理解度
小 6	男	57	23
	女	52	2
中 3	男	44	62
	女	53	39

ただ、男女の日常の関心の違いが、理解点数にあらわれてくる場合のあつたことを注意しておきたい。左の表は、東京・神

崎の部分的な比較ではあるが、このように運動記事に関しては、男女の別により理解点数が大きく開いてくる。これは関心の有無が理解力の差となつてあらわれた例である。

3 居住歴

居住地移動の有無は、新聞距離点数に関して顕著な差を示さず、はたして子供を新聞へ接触させるのに役立っているかどうかについては、はなはだ懐疑的であつた。今これと記事理解点数との関係を見ると、次の通りである。

			東 京		神 崎		八 街	
			移動した	移動しない	移動した	移動しない	移動した	移動しない
小 4	人数	31	15	12	37	19	27	
	理解平均	10.45	8.07	7.17	8.22	10.05	10.19	
	分散	31.08	16.08	10.32	18.58	13.01	17.01	
小 5	人数	45	2	15	35	16	28	
	理解平均	8.07	11.5	8.54	10.63	14.5	11.46	
	分散	16.44	6.22	18.13	26.57	59.25	34.44	
小 6	人数	43	9	16	32	17	26	
	理解平均	13.72	13.07	12.89	12.34	15.71	14.31	
	分散	43.04	33.42	13.17	30.47	17.29	45.74	
中 1	人数	33	11	11	33	12	35	
	理解平均	15.42	16.73	16.09	14.91	16.67	15.57	
	分散	46.71	43.62	28.45	18.31	88.36	53.17	
中 2	人数	44	8	10	37	19	28	
	理解平均	20.5	14.5	21.2	14.43	18.63	16.21	
	分散	55.59	38.75	64.96	49.54	42.55	32.04	
中 3	人数	39	5	13	33	24	20	
	理解平均	23.44	24.4	23.46	19.67	19.08	17.95	
	分散	46.68	23.84	65.81	50.92	73.53	54.15	

やはり、移動の有無と理解点数との間には、一貫した傾向も、また、顕著な差も見出すことができない。ただ、東京と神崎の中学2年生における点数の間に有意の差が認められるだけである。

4 読 書

それでは読書量は、新聞の記事理解に関係があるだろうか。

1か月に本と雑誌をそれぞれ1冊以下しか読まないグループと、それぞれ2冊以上読むグループとに分けて、理解点数の平均を求めると次のようになる。

		東 京		神 崎		八 街	
		1冊以下	2冊以上	1冊以下	2冊以上	1冊以下	2冊以上
小 4	人 数	0	34	3	29	3	33
	平 均		9.44	6.0	8.83	8.33	9.58
	分 散		30.36	32.0	18.83	11.22	14.95
小 5	人 数	0	42	11	20	10	17
	平 均		11.82	9.0	11.36	9.6	15.0
	分 散		17.40	10.91	20.93	26.64	51.06
小 6	人 数	0	44	5	28	0	37
	平 均		13.75	12.0	14.14		15.41
	分 散		61.00	21.6	24.93		36.31
中 1	人 数	4	27	1	25	2	23
	平 均	16.5	16.63	21	15.2	8.5	17.26
	分 散	7.25	46.97	0	26.56	4.0	50.26
中 2	人 数	4	38	4	32	4	19
	平 均	12.5	19.92	15.5	17.47	14.25	19.36
	分 散	33.25	70.24	101.25	52.39	42.19	42.01
中 3	人 数	10	21	8	22	6	15
	平 均	21.5	22.29	17.25	22.09	18.67	20.53
	分 散	42.65	45.85	37.19	59.73	113.19	34.82

神崎の中学1年における少数例を除外すれば、他は総て2冊以上のグループの方が点が高く、読書量の多いものの方が少ないものより理解度の高い傾向を示している。とくに、東京の中学2年、八街の小学4年、中学1年における差は有意で、読書量と記事理解との間には相関が認められる。この事情は新聞への接触度の場合とほぼ同様であるといえよう。

E 記事理解力と国語能力

1 学校の国語の成績

小学校における国語の成績を、5段階に分け、それぞれのグループの記事理解点数を比較してみよう。これは、ある意味では、記事理解力テストの妥当性の検定でもあるわけである。

地域・学年		成績	1 平均	2	3	4	5
東 京	小 4		6.6	7.25	9.56	14.7	(8.0)
	小 5		8.0	10.57	10.32	13.91	(14.5)
	小 6		10.0	12.44	15.25	14.93	(23.0)
神 崎	小 4		(10.0)	7.38	8.38	9.17	
	小 5		(10.0)	9.46	11.69	10.5	(19.0)
	小 6		10.6	11.31	12.55	14.6	
八 街	小 4		7.2	8.88	10.58	10.14	(12.0)
	小 5		7.89	10.0	11.32	16.4	20.8
	小 6		11.12	8.86	14.39	18.37	(24.0)

() 内は人数が3名以下の少数例

成績1のグループは八街の小学6年生を除き常に最下位にあり、成績2のグループは東京の小学5年生を除き常にその次に位する。成績3と4のグループは東京の小学6年、神崎の小学5年、八街の小学4年で順序が逆になっているが、むしろ東京の小学4年と5年では両者の間に有意の差が認められる。また、成績2以下と成績4のグループの間には、東京の4年・5年、神崎の6年、八街の5年・6年において有意の差が認められ、新聞の理解と学校の国語成績との間には高い相関がある。

これを中学校の成績法で試みると、記事理解点数も100点満点で40点以上となって、もっとずっと相関が高くなって来るはずであるが、これにはそれは自明のこととして、検定しない。

2 漢字および語彙の知識

新聞記事を理解するのに、漢字および語彙の知識が重要であることは言う

までもない。理解するということにとって、漢字および語彙の知識はもっとも根本的なものであると思われる。

例によって、漢字と語彙を教科書用語と新聞用語とに分けて検討してみる。

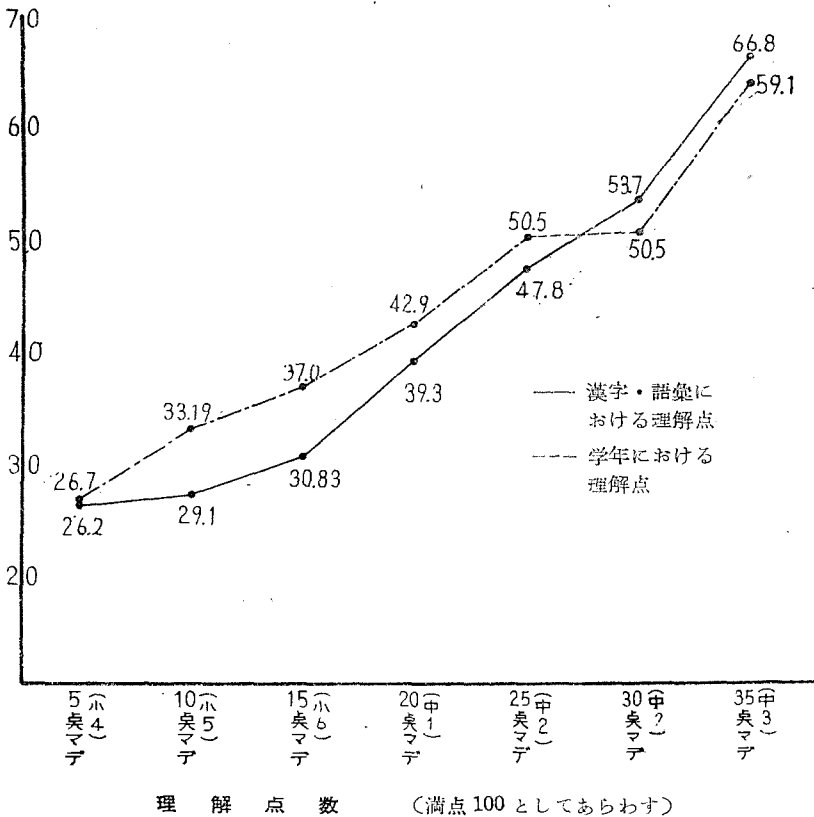
(1) 主として国語教科書に多くあらわれる漢字と語彙の知識

前に述べたごとく、国語教科書に多くあらわれる漢字と語彙に関するテストの結果を、35点満点として計算し、漢字語彙力を測る尺度として、記事理解との関係をみると、次のようになっている。

漢字語彙 学年・地域		5点 マデ	10点 マデ	15点 マデ	20点 マデ	25点 マデ	30点 マデ	35点 マデ
小 4	東 京	8.36	8.97	10.43				
	神 崎	8.63	8.43	7.4				
	八 街	10.13	10.14	9.25				
小 5	東 京	10.0	11.33	12.71	14.7			
	神 崎	8.67	11.35	10.64				
	八 街		9.65	11.33	15.5			
小 6	東 京			8.17	14.45	16.23	18.27	
	神 崎		10.79	12.47	12.1	17.5		
	八 街		7.75	10.14	12.87	21.5	17.2	
中 1	東 京		10.5	8.17	11.5	18.83	18.0	21.67
	神 崎		9.33	13.33	14.63	16.75	15.67	18.5
	八 街		9.5	9.8	12.67	11.09	23.12	24.71
中 2	東 京				13.0	17.2	18.57	24.43
	神 崎		10.75	6.33	14.63	13.11	20.0	23.75
	八 街			11.0	15.92	17.73	18.83	23.0
中 3	東 京				13.0	21.57	19.36	25.64
	神 崎					15.0	21.24	25.89
	八 街					16.0	17.18	23.11

漢字・語彙の点数を5点おきに区切ったため、体系的な上昇傾向性がやや弱くなっているが、これを(10点マデ)(20点マデ)(30点マデ)(35点マデ)と

区切ってグルーピングするならば、その上昇傾向性が鮮かに示されるであろう。また平均の差の有意性の検定をしてみると、小学4年生を除き、他は、どの学年どの地域にも有意の差が検出され、理解点数と漢字・語彙力との相関を物語っている。この点、新聞接触度の場合と同じである。



(2) 主として新聞に多くあらわれる漢字および語彙の知識

次に新聞に多くあらわれる漢字・語彙の知識と、記事理解との関係を検討しよう。

漢字・語彙 学年・地域		5点 マデ	10点 マデ	15点 マデ	20点 マデ	25点 マデ	30点 マデ	35点 マデ
小 4	東 京	8.47	9.29	12.5				
	神 崎	7.68	10.0	7.2				
	八 街	10.15	9.75	11.5				
小 5	東 京	8.0	11.93	13.31	15.0			
	神 崎	10.05	11.26					
	八 街	9.5	9.74	12.8	17.0			
小 6	東 京		9.69	12.61	15.5	16.46		
	神 崎	12.29	10.64	10.72	14.57			
	八 街	11.43	8.17	13.4	15.56	22.60		
中 1	東 京		10.73	8.0	14.6	18.93	16.67	22.6
	神 崎	9.6	12.33	14.0	15.4	14.9	20.0	
	八 街	6.85	10.88	10.37	14.67	18.56	21.67	26.0
中 2	東 京				12.6	16.69	18.9	26.58
	神 崎		7.16	12.5	14.88	16.1	23.55	24.6
	八 街	10.5	9.33	13.5	15.11	18.75	20.0	24.41
中 3	東 京				15.25	18.33	21.0	27.58
	神 崎				13.33	16.0	19.64	28.29
	八 街				11.67	14.4	17.31	25.07

これも、5点おきに区切ったため、上昇の体系的性が乱れているようであるが、10点までを等質の集団と見て、(10点まで) (20点まで) (30点まで) (35点まで) とグルーピングすれば、漢語・語彙点数と記事理解点数とが段階的に平行して上昇して行くことがわかる。また、平均の差を検定すると、神崎の小学4年・5年、八街の小学4年を除き、あとはすべて各地域学年を通じて平均の差に有意性が認められ、新聞の漢字・語彙と新聞記事理解との間に高い相関のあることが知られる。

(3) 読書速度

次に、読書速度と記事理解度との関係を見よう。

新聞の記事を理解するのに読む速さは、欠くことのできない必要条件のよ

うに思われる。読むことの速いものが、果して理解度も高いかどうかを検定してみよう。例によって、30行以内、31～60行、61行以上の三つのグループをつくって、その理解点数をみると、

行 数	地 域	学 年		学 年		学 年		中 1		中 2		中 3	
		東 京	神 戸	東 京	神 戸	東 京	神 戸	東 京	神 戸	東 京	神 戸	東 京	神 戸
30 行 以 内		6.11		8.5		9.62		9.0					
			6.94		10.17		9.91		15.5		12.44		
			9.41		10.2		10.58		12.2		11.8		
31 ～ 60 行		10.28		11.47		13.7		15.03		16.36		22.03	
			8.5		10.67		13.01		13.52		16.3		18.27
			10.12		12.96		13.36		11.46		16.68		16.25
61 行 以 上				11.79		17.34		18.15		21.89		25.97	
								15.83		20.5		26.07	
					10.75		15.25		18.08		18.37		20.69

神崎の中学1年、八街の小学5年を除くと、他は、総て、読んだ行数の多いグループが、少いグループより理解点数が高く、大体において、読書速度と新聞記事理解とは一致する傾向を示している。

さらに、読書速度を10行おきのグループに分けてみると、神崎の小学5年生を除き、各学年各地域を通じて平均の差に有意性の検出されないものはなく、読書速度と新聞理解との間に高い相関関係のあることが知られる。

F 記事理解力と新聞距離点数

各地域について、新聞距離点を8点ずつ区切ってグループをつくり、各グループの理解点数の平均を算出する。

距離点	学 年	東 京		中 1		中 2		中 3	
		小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3	中 4	中 5
0	人 数		2		3	1			
	平 均		6.5		13.33	14.0			
	点 分 散								

距離点		学年					
		小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3
3 点マデ	人 数	20	7			1	1
	平 均	9.25	10.71			17.0	27
	分 散	48.99	16.21			0	0
6 点マデ	人 数	18	23	27	18	11	4
	平 均	9.67	12.61	11.74	13.84	16.36	18.25
	分 散	31.77	16.93	44.93	41.48	29.77	
9 点マデ	人 数	6	10	20	13	17	8
	平 均	10.67	12.5	15.9	15.61	18.88	18.75
	分 散	22.88	10.65	35.24	26.24	58.58	
12 点マデ	人 数	6	5	8	14	13	19
	平 均	9.5	11.2	12.13	19.0	18.15	24.53
	分 散	15.25	13.36	21.09	38.42	64.37	
15 点マデ	人 数				1	8	12
	平 均				20	24.75	25.58
	分 散				0	35.19	
18 点マデ	人 数					1	1
	平 均					29.0	26
	分 散					0	0

距離点		神 崎					
		小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3
0 点	人 数	3	2	5	4		
	平 均	7.0	3.5	11.2	10.0		
	分 散			16.16	39.5		
3 点マデ	人 数	28	28	14	4	3	1
	平 均	9.36	10.18	11.36	13.25	14.67	7
	分 散	21.69	21.0	29.52	21.19	?	0
6 点マデ	人 数	19	19	17	22	8	9
	平 均	7.32	12.53	12.53	14.41	12.5	20.0
	分 散	10.32	22.95	20.96	21.15	19.75	39.11
9 点マデ	人 数		1	10	16	22	20
	平 均		13	13.0	16.69	16.91	18.2
	分 散		0	26.6	19.57	60.08	50.46
12 点マデ	人 数				2	9	14
	平 均				7.0	15.76	21.71
	分 散				0	27.97	36.53

距離点	学年		小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3
	人 数	平 均					5	5
15 点マデ	分 散						25.0	28.2
18 点マデ	人 数						11.6	60.16
	平 均							1
	分 散							35
								0

			八 街					
距離点	学年		小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3
	人 数	平 均	5			1		
0 点	分 散		6.4			10.0		
3 点マデ	人 数		35	25	15	14	10	3
	平 均		10.77	9.72	11.94	11.64	13.1	12.67
	分 散		15.5	43.48	41.54	34.79	23.49	42.90
6 点マデ	人 数		6	14	20	12	13	7
	平 均		11.16	15.35	12.05	17.08	17.33	17.28
	分 散		1.19	32.88	30.75	65.77	37.97	65.37
9 点マデ	人 数			5	8	12	13	14
	平 均			13.6	17.87	14.33	16.77	15.0
	分 散			36.64	32.65	42.55	40.65	24.0
12 点マデ	人 数			1	4	6	6	14
	平 均			11.0	17.5	22.16	19.0	21.21
	分 散			0	7.25	63.57	40.0	45.08
15 点マデ	人 数				1	1	5	6
	平 均				19.0	33	20.4	26.16
	分 散				0	0	25.04	58.28
18 点マデ	人 数			1				
	平 均			21.0				
	分 散			0				

この表について確実に言えることは、新聞距離点数0点のもの、すなわち新聞を見ないものは、地域学年を通じ、例外なしに記事理解の点数がもっとも低く、一方新聞距離点数15点以上のもの、すなわち21種の記事中15種以上の記事を読んでいるものは、同じく例外なしに理解点数がもっとも高いと

いうことである。また新聞距離点数 3 点から 12 点までの各グループの間には、多少の出入りがあるにしても、大きな傾向としては、距離点の上昇と平行して理解点も上昇していることが見られる。特に、「3 点まで」と「6 点まで」および「9 点まで」と「12 点まで」の各グループを等質のグループとして、「1 点～6 点」「7 点～12 点」の二つのグループに組み直すならば、その上昇傾向は一層明瞭になるであろう。平均点の有意差の検定をすると、

東 京	小学 6 年	(6 点まで) と (9 点まで)
	中学 1 年	(6 点まで) と (12 点まで)
	中学 2 年	(6 点まで) と (15 点まで) (12 点まで) と (15 点まで)
	中学 3 年	(6 点まで) と (12 点まで) (15 点まで) (9 点まで) と (12 点まで) (15 点まで)
神 崎	中学 2 年	(6 点まで) と (15 点まで) (9 点まで) と (15 点まで) (12 点まで) と (15 点まで)
	中学 3 年	(6 点まで) と (15 点まで) (9 点まで) と (15 点まで)
八 街	小学 4 年	(0 点) と (3 点まで) (6 点まで)
	小学 5 年	(3 点まで) と (6 点まで)
	小学 6 年	(3 点まで) と (9 点まで) (12 点まで) (6 点まで) と (9 点まで) (12 点まで)
	中学 1 年	(3 点まで) と 12 点まで (9 点まで) と (12 点まで)
	中学 2 年	(3 点まで) と (12 点まで) (15 点まで)
	中学 3 年	(3 点まで) と (12 点まで) (15 点まで) (6 点まで) と (15 点まで) (9 点まで) と (12 点まで) (15 点まで)

の各グループの平均の間に有意の差が認められ、新聞距離点数と記事理解点数との間には相関があると考えられる。

したがって、新聞に関心があり、接触する度合の高いものは、記事理解力も豊かであり、また記事理解力の豊かなものは新聞への関心も深いといえるであろう。

また、新聞への関心と記事の理解力とが完全には一致していないというところに、新聞記事の改良と、国語教育方法の改善との二つの問題が存在しているわけである。

V マス・コミュニケーションの生活

A 事件をどのようにして知るか

我々は新聞を通じて社会の出来事を知り、それに対して我々の今まで持っている知識や経験を土台とし、更にものによっては勉強をした上である判断を下すものである。

しかし時々刻々の出来事をすべて同じように検討するわけにはゆかないので、多くの場合は各種の新聞を比較することなどが行われる。だが自分の家で多くの新聞をとることは实际的にできないので自分の家で購入している新聞が主として社会の出来事を判断する唯一の基礎付けになるといって間違はないだろう。もちろんラジオもきいているわけで、社会記事の事件などはそれで充分間に合うとしても政治上の大きな事件ともなると、ラジオでは解説はするとしても、ニュースで詳しく話す余裕もないし、きいても忘れてしまうのが実状である。

新聞の一面や二面に我々にはぴんとひびかないが、根底的に生活にも重大な影響を与える政治上の出来事がかなり詳しくのっている、ちょっと見出しだけみて、はあーこんなことかと、わかったつもりでいて、あとでこんなことにまであの事が関係があったのかと思う事がしばしばある。

東京都の婦人についての一昨年実施の調査でも、新聞を読む余裕も充分にある高専卒以上の奥さん達でも行政協定というような間接的な関心記事については、勿論大部分はきいた事のある名前だ位は思い出しても、たった2割弱位がこんな内容だとその主な内容を三つ位あげられるにすぎない。

しかし丁度少し前に起きた富士銀行のギャンブル事件のような直接的関心記

事については、新聞をろくによむ余裕もない小学校もでていないおかみさん達の7割がパリエルとだれかがどうしてこうしてと内容を詳しく知っていた。

そこで、子供達が事件（直接、間接）をどのように知っているか、新聞距離点数（新聞を全体的にどの程度読んでいるか記事別に採点したもの）と関連して東京、神崎について検討してみた。

その結果は、1、2表のごとくになっている。まず事件についての判断の在り方について、その事件を知らないといったものをC判断、名前位はともかく知っているといったものをB判断、内容をよく知っているといったものをA判断とする。

東京では、直接関心事件としては鹿地事件、間接関心事件としては電産ストをきいた。神崎では前者として秩父宮、後者として中共引揚をきいた。

これは調査のあとづけにきいたのではあるが、子供に与える問題として必ずしも適当であったかどうか、神崎の場合など中共引揚が間接的な意味で、こちらでは出したつもりでも、実際に自分の家や親類や知人に関連したことになるので、直接的な要因がかなり入っていたように結果からして思われた。

まず第1に言えることは、A判断の新聞距離点数がC判断より高くなっていることで、新聞をよくみているものが直接、間接を問わず内容をよく知っていることが明らかにみとめられた。

		事 件 と 関 心 (新聞距離点数と判断グループ)						
1 表	東京	A 直接 関 心 事 件			B 間 接 関 心 事 件			
		(C)	(B)	(A)	(C)	(B)	(A)	
		1. 知ラナイ	2. 少シハ知ル	3. ヨクシル	1. 知ラナイ	2. 少シハ知ル	3. ヨクシル	
各判平 学断均 年群点 別の数 に新 みた距 各離	小学	4	4.4	5.4	5.6	4.6	4.7	5.3
		5	5.1	5.8	6.3	4.8	6.3	7.4
		6	6.2	6.7	7.5	4.9	7.2	8.7
	中	1	6.0	8.0	8.9	5.2	8.6	9.6
		2	6.3	9.6	10.2	5.8	9.9	11.2
		3	6.7	10.1	10.6	6.8	10.6	11.6

1 表		東京		事 件 と 関 心 (新聞距離点数と判断グループ)					
				A 直接 関 心 事 件			B 間 接 関 心 事 件		
				(C)	(B)	(A)	(C)	(B)	(A)
				1. 知ラナイ	2. 少しハ知ル	3. ヨクシル	1. 知ラナイ	2. 少しハ知ル	3. ヨクシル
各一判の 学○断学 年○(年 回%A別 答と、構 者し、成 総て、 数、C を各)	小学	4	85.6	8.3	6.1	68.7	26.6	4.7	
		5	63.5	19.5	17.0	56.8	28.6	14.6	
		6	51.7	15.6	32.7	32.6	45.0	22.4	
	中	1	51.1	12.8	36.1	31.4	23.8	34.8	
		2	29.2	18.3	52.5	32.6	20.0	47.4	
		3	13.5	18.3	68.2	20.5	17.8	61.7	

直接関心事件として施地事件を聞いた

間接関心事件として電産ストを聞いた

		事 件 と 関 心 (新聞距離点数と判断グループ)									
2 表	神 崎	A 直接関心事件			B 間接関心事件						
		(C)	(B)	(A)	(C)	(B)	(A)				
		1. 知ラナイ	2. 少しハ知ル	3. ヨクシル	1. 知ラナイ	2. 少しハ知ル	3. ヨクシル				
各判平 学断均 年群点 別の数 に新 み聞 た距 各離	小学	4	2.5	3.7	ナシ	1.6	3.1	4.5			
		5	2.9	5.0	ナシ	1.7	4.5	4.7			
		6	4.1	6.0	6.3	3.0	6.2	6.8			
	中	1	5.6	6.3	6.8	4.2	6.7	7.3			
		2	6.9	8.5	9.9	6.0	8.7	10.2			
		3	8.0	9.3	10.3	6.8	9.6	11.0			

各一判学 学○断年 年○(別 回%A構 答と、成 者し、B 総て、C 数、C を各)	小学	4	22.0	39.4	38.6	86.0	0	14.20
		5	18.4	25.4	56.2	77.5	4.1	18.4
		6	16.0	27.7	56.3	76.0	4.4	19.6
	中	1	15.9	25.5	58.6	63.4	15.4	21.2
		2	8.5	28.3	63.2	53.0	21.4	25.6
		3	4.0	26.0	72.0	51.0	20.9	28.1

直接関心事件として秩父宮のことを聞いた

間接関心事件として中共引揚のことを聞いた

同時に学年別にみて、東京の直接関心事件を例にみるとA判断群が高学年ほど高率で、小学4年6%、同5年17%、同6年33%、中学1年36%、同2年53%、同3年68%となっていることである。これはなにも東京の直接的なもののばかりにのみみられる現象ではなく、間接的なものにも、神崎についても全く同じになっている。

東京、神崎を通じてみて、小学4年で秩父宮について聞いた結果、C判断

が22%で、死去の時死体の解剖をすすめられたとか、色々の事を小学4年でも知っている—A判断が39%あった。

これは、やはり、この宮が親しさを覚える宮であったことが、うかがわれ、興味が深い。

これに比べて間接的な関心事件としての電産ストは停電を伴ったにも拘らず文化的圧力の高い東京の中学2年でもC判断33%、A39%となっていることがまとめられた。

新聞がどのように子供達にまで、間接的ではあるが社会的基底をゆりうごかすものを解り易く（具体的に）書くかが今後の大きな問題であろう。

B 小・中学生のための新聞

普通の新聞はなんといってもむずかしいので、子供達にとって、漫画などはとにかく政治、経済記事など一、二面には近寄りにくくなっている。前述したように大人でも小学卒だけの人は記事別閲読率が高専卒以上の人の5分の1以下を示している。

そこで子供向きに小、中学生新聞が新聞社から発行されているが、これらはどの位読まれているだろう。

1 小・中学生新聞を読んでいるか

現在どの位小、中学生新聞を読んでいるかをみると、次表のごとくになっている。

	全体	地 域 別			学 年 別					
		東京	神崎	八街	小4	5	6	中1	2	3
読む割合	63.4	38.1	78.2	73.0	59.1	56.2	77.9	68.7	69.5	56.7
総人数	817	262	279	276	134	144	145	122	138	134

（各総人数を100%とする）

子供が家庭で読むか、学校その他で読むかは別にして、とにかく読んでいゝものは全体的に63%、地域的には東京がその他の地域に比し著しく低いことは、その他の印刷材が容易に手に入る事と共にやはり実際の新聞を読まな

ければ気がすまないようになっており、またその他の地域よりも早く新聞に接近しているためとみられよう。

学年別では小学6年が78%と最も高率を示し、中学に入ればおとなの新聞を理解するかどうかは別にしてもかなり読むようになるためにかえって減少するのであって、凸状の読まれ方をしている。

2 いつ頃（何年生）から小・中学生新聞を読みだしたか

普通の新聞をとにかく見たり読み始めるのは小学4年頃からであるが、普通の新聞は、大体において否応なく生活的に接近せざるを得ないので対して、小、中学生新聞は家人にすすめられたり友だちが読んでいるのを見て、おやこんなに読みよいものもあったかと家の人にせがんだり、学校にあるのをみたりするわけで、その読み方は大分ちがっている。

そんなわけで、読み始めの学年は大した相異はみられないが、普通の新聞なら漫画や広告、社会記事の見出し位ですましているのに比べて、より深い読み方をしていることは考えられる。

地域、性、学年別にみると、次表のごとくで、普通の新聞が小学4年でどうやら読み始めているのに、小、中学生新聞は小学4年でかなり読まれている。

いつ頃（何年生）から読みだしたか 〔学年別〕

（ ）内は回答総数をそれぞれ100としてみた%

学 年	小4年	5年	6年	中1年	2年	3年
総 数	150	150	149	150	148	141
回答者数	68	80	109	100	105	72
小学1年	1 (1.5)	1 (1.3)	1 (0.9)			
読 2年	5 (7.4)		3 (2.8)	2 (2.0)		
み 3年	32(47.1)	23(28.7)	20(18.3)	11(11.0)	7 (6.7)	4 (5.6)
始 4年	30(44.1)	39(48.8)	45(41.3)	31(31.0)	12(11.4)	8(11.1)
め 5年		17(21.2)	34(31.2)	33(33.0)	32(30.5)	19(26.4)
た 6年			6 (5.5)	19(19.0)	27(25.7)	20(27.8)
学 中学1年				4 (4.0)	17(16.2)	12(16.7)
年 2年					10 (9.5)	8(11.1)
3年						1 (1.4)
記入なし	82	70	40	50	43	69

いつ頃（何年生）から読みだしたか〔地域・性別〕

（ ）内は回答総数をそれぞれ 100 としてみた%

地域別 性別	東 京		神 崎		八 街	
	男	女	男	女	男	女
人数 総人数	151	156	144	148	146	143
人数 回答者数	65	63	88	120	101	97
読み始めた	小学 1 年	0	1 (1.6)	1 (0.8)		
	2 年	2 (3.1)	2 (3.2)	1 (0.8)	2 (2.0)	1 (1.0)
	3 年	12 (18.5)	15 (23.8)	12 (13.6)	16 (15.8)	26 (25.7)
	4 年	21 (32.3)	28 (44.4)	21 (23.9)	44 (36.7)	21 (20.8)
	5 年	19 (29.2)	9 (14.3)	30 (34.1)	37 (30.8)	16 (15.8)
	6 年	4 (6.2)	6 (9.5)	13 (14.8)	12 (10.0)	19 (18.8)
	18 (18.6)					
学 年	中学 1 年	3 (4.6)	2 (3.2)	4 (4.5)	6 (5.0)	11 (10.9)
	2 年	4 (6.2)	0	5 (5.7)	3 (2.5)	5 (5.0)
	3 年	0	0	0	0	1 (1.0)
記入なし	86	93	56	28	45	46

3 小・中学生新聞をどうして読み始めたのか

そこで、どんな動機づけで小・中学生新聞を読み出したか、全体的にみると友だちに積極的にすすめられて 3.6%、友だちが読んでいるのをみて（消極的推せん）54.2%、先生にすすめられて 15.0%、自分から（何かのおりにみて）15.9%その他 11.4%となっている。

なんといっても友達からの影響が圧倒的である事は、次表のごとく、地域的にも学年的にも同様であるが、先生にすすめられての割合が神崎 29.0%、八街 15.0%に比べ東京が 13%と、がいて低くなっている。

小・中学生新聞を読みはじめた動機（ ）内は回答総数をそれぞれ 100 としてみた%

	性別	学年別						
		男	女	4 年	5 年	6 年	1 年	2 年
人数 総人数		441	447	150	150	149	150	148
人数 回答者数		251	276	67	79	109	98	103
1 友だちがすすめた		9 (3.6)	10 (3.6)	4 (6.0)	2 (2.5)	3 (2.8)	1 (1.0)	6 (5.8)
2 友だちが読んで		134 (53.4)	151 (54.7)	37 (55.2)	46 (58.2)	59 (54.1)	49 (50.0)	58 (56.3)
3 先生から進められ		39 (15.5)	40 (14.5)	12 (17.9)	9 (11.4)	11 (10.1)	22 (22.4)	12 (11.7)
4 自分から		43 (17.1)	41 (14.9)	7 (10.4)	11 (13.9)	27 (24.8)	15 (15.3)	16 (15.5)
5 その他		26 (10.4)	34 (12.3)	7 (10.4)	11 (13.9)	9 (8.3)	11 (11.3)	11 (10.7)
記入なし		190	171	83	71	40	52	45

4 どんな所が面白いのか

小・中学生新聞が普通の新聞より接近しやすいのは、どんなわけであろうか。

全体的には、子供向き読物56.2%、漫画51.7%、教育的知的なもの23.2%、同情操的なもの15.4%、クイズ8.1%、その他35.2%となっている。

これは普通の新聞の子供欄の読物がごちないこと、漫画が大人向きが多いことなどのため、大人のように毎日みられる新聞らしいもので面白いものが欲しいという子供の要求を示しているようである。

この傾向は性別にみても、学年別にも、地方別にも全く同様にみられるが、次表のごとく、高学年ほど教育的なものの割合が上昇していることは普通の新聞に比べて大いに相違するところである。

小・中学生新聞のどんな点が面白いのか

() 内は回答総数をそれぞれ100としてみた%

	男	女	4年	5年	6年	1年	2年	3年
総人数	441	447	150	150	149	150	143	141
回答者数	163	183	37	55	77	65	64	43
1 マンガ	64(39.3)	63(34.4)	25(67.6)	23(41.7)	32(41.6)	21(32.3)	13(28.1)	3(7.0)
2 子供向き読物	13(88.0)	78(42.6)	7(18.9)	20(36.4)	35(46.8)	23(43.1)	22(34.4)	25(58.1)
3 クイズ	13(80.8)	7(42.6)	0	1(1.9)	2(2.6)	4(2.6)	3(12.5)	5(11.6)
4 A 教育的知的なもの	23(17.2)	29(15.8)	0	7(12.7)	2(2.6)	12(18.5)	9(14.1)	10(23.3)
B “ 感情的なもの	21(12.9)	13(9.8)	3(8.1)	17(30.9)	3(3.9)	2(3.1)	10(15.6)	4(9.3)
5 その他	34(20.9)	53(29.0)	9(24.2)	10(18.2)	19(24.7)	13(27.7)	21(32.8)	10(23.3)
6 記入なし	278	264	113	95	72	85	84	98

5 普通の新聞とくらべて、どう思いますか

小・中学生新聞が普通の新聞への媒体として子供達に作られてはいるが、それがどの位効果をもっているだろうか。

全体的にみると普通の新聞より面白い65.3%、同じ位26.3%、つまらない4.8%、わからない3.6%となって、ともかく媒介的役割を果たしていることがみとめられる。

しかし、小・中学生新聞が子供を面白さだけでひきずって行くのでは普通新聞以外の娯楽紙に止るわけで、そのかねあいをどのようにするかが今後の問題であろう。

しかし、学年別にみると次表のごとく、面白いことは普通紙より面白いとする割合が小6で上りつめ、中学1年で一応のきりがつき、以下高学年程減少していることである。今後の問題として、小・中学生新聞が本質的な社会問題を具体的に生徒に解明することがのぞましい。

普通の新聞とくらべて、小・中学生新聞をどう思いますか

() 内は回答総数をそれぞれ 100 としてみた %

学 年 別	4 年	5 年	6 年	1 年	2 年	3 年
総 人 数	150	150	149	150	148	141
回 答 者 数	70	83	109	101	100	70
1 ふつうの新聞より面白い	43(61.4)	62(74.7)	79(72.5)	71(70.3)	46(46.0)	39(55.7)
2 ふつうの新聞と同じくらい	16(22.9)	13(15.7)	24(22.0)	24(23.8)	40(40.0)	22(31.4)
3 ふつうの新聞よりつまらない	2(2.9)	5(6.0)	3(2.8)	3(2.0)	7(7.0)	6(8.6)
4 わ か ら な い	9(12.9)	3(3.6)	3(2.8)	4(4.0)	7(7.0)	3(4.3)
5 記 入 な し	80	67	40	49	48	71

C 学校新聞・学級新聞

普通の新聞でともかくも社会の動きを人々が知り生活の道しるべにするのと同様、学校にも学級にも生徒達のために新聞が作られるようになった。これは社会科・国語科の単元に新聞があることにもよるが、新聞をつくるとやはりそれを契機にお互がもっと知り合い、学級、学校の様子ばかりでなく、それを通じて社会に目を開くようになる意味でみとめられてよいだろう。

1 学校・学級新聞を読みますか

友達が苦心して作った学校、学級の新聞を一体どの位読んでいるだろう。もちろんどんなふうに新聞が作られるようになっているかでちがうが、次表のごとくで、我々のものとして小学生はいつもできるたびに読む54%、ときどき読む39%と、一応殆んどの生徒が眼を通してしている。

学校・学級新聞を読む度合は殆んど変らないが、やや学校新聞を読む度合が高くなっている。

学校・学級新聞を読む状況 (小学校だけについて)
(回答総数をそれぞれ100としてみた%)

読む度合	種別	全体	男	女	東京	神崎	八街	小学4	5	6
いつも読むもの	学校新聞	54.0	51.3	57.0	81.2	30.5	47.3	45.4	46.5	69.2
	学級新聞	53.9	53.0	54.6	75.0	48.6	44.4	55.7	28.6	72.3
ときどき読むもの	学校新聞	41.5	41.8	41.0	18.3	60.2	48.7	47.7	51.4	26.0
	学級新聞	37.6	36.8	38.3	15.2	48.6	49.6	39.1	53.6	23.4
ちっともみない	学校新聞	4.5	6.9	2.0	10.5	9.3	4.0	6.9	2.1	4.8
	学級新聞	9.5	10.2	7.1	9.8	2.8	6.0	5.2	17.8	4.3
回答総人員(学校)		420	213	207	148	128	144	130	144	146
回答総人員(学級)		368	185	183	112	111	135	115	112	141

地域別にみて、文化的圧力の高い東京の子供が圧倒的に学校新聞81%、学級新聞75%いつもみているのに、比較的文化的圧力の低い神崎、八街はいずれの場合も50%以下であることは、文化的圧力の高いほど印刷材に対する親近性をもたらすものと考えられうる。

学年別では、学校新聞については高学年ほど読む度合は小学4年45%、同5年47%、同6年70%と上昇している。

2 学校・学級新聞のどこが面白いのか

普通の新聞や小、中学生新聞の面白さはそれから与えられるものについての面白さであるが、学校、学級新聞となると大分様相がちがってくる。

ともかく、友達の記事、学校や学級の事がわかり、自分の書いたものがほかの人にみられるわけなのだから、全体的にみると、(回答者総数を100%として) 創造的興味49.7%、漫画など37.2%、学校、学級社会に対する関心20.7%、友達の作品享受11.2%、その他14.3%となっており、自分達の新聞だという感じがみとめられる。

次に次表のごとく、各地域を通じみられる傾向は、高学年ほどより大きな社会へのつながりを求める故か、どの場合でも学校・学級新聞への関心が低

くこれにあきてしまう様相がみられることである。すなわち、だんだん普通の新聞の読者に移行するのである。

学校・学級新聞のどこが面白いのですか (全地域・小学生)

() は内回答総数をそれぞれ 100 としてみた%

学 年	4 年	5 年	6 年
人 数	150	150	149
総 数	105	102	108
回 答 者 数			
1 学校、学級、社会に対する関心	19 (18.1)	12 (11.8)	34 (31.5)
2 創造的興味(自分たちのものを作る)	58 (55.2)	59 (57.8)	40 (37.0)
3 友達の作品享受	4 (3.8)	12 (11.8)	19 (17.6)
4 マンガ、笑話等	41 (39.0)	32 (31.4)	44 (40.7)
5 その他	13 (12.4)	17 (16.7)	15 (13.9)
記 入 な し	45	48	41

性 別	男	女
人 数	227	222
総 数	153	162
回 答 者 数		
1 学校、学級社会に対する関心	32 (20.9)	33 (20.4)
2 創造的興味(自分たちのものを作る)	66 (43.1)	91 (56.2)
3 友達の作品享受	19 (12.4)	16 (9.9)
4 マンガ・笑話等	60 (39.2)	57 (35.2)
5 その他	25 (16.3)	20 (12.3)
記 入 な し	74	60

3 学校・学級新聞を読んでためになると思うか (学校・学級新聞を作るのを手伝ったことなどない人だけについて)

学校・学級新聞をつくる子供達は、ともかくなんとか意味のあるよい新聞を作ろうとしているわけだが、受取り手の子供達はそれをどう感じているだろうか。

各地域の小学生総数は 449 人で、その半数 54% に当る 242 人が受取り手になっている。

全体として、受取り手の 53% は大いにためになるとし、45% は少しはためになるとし、残り 2% のみがちっとも役に立たないと感じている。

性別にも、次表のごとく、女の方が 59% と男 (48%) より大いにためにな

ると感じており、地域別、学年別にも全体と同じ傾向が窺われる。

学校・学級新聞を読んでためになると思いますか (全地域・小学生)

() 内は回答者数を 100 としてみた %

学 年 別	4 年	5 年	6 年
人 数	150	150	149
総 回 答 者 数	76	88	78
1 大いにためになる	40 (52.6)	46 (52.3)	43 (55.1)
2 少しはためになる	36 (47.4)	42 (47.7)	32 (41.0)
3 ちっとも役にたたない			3 (3.9)
記 入 な し	74	62	71

性 別	男	女
人 数	227	222
総 回 答 者 数	122	120
1 大いにためになる	58 (47.5)	71 (59.2)
2 少しはためになる	62 (50.8)	48 (40.0)
3 ちっとも役にたたない	2 (1.7)	1 (0.8)
記 入 な し	105	102

4 新聞をつくるのを進んで手伝った人について

- (a) どんなわけでやりはじめたか。
 (b) 手伝ってなにがためになったと思いますか。
 (c) どんなことが役にたったと思いますか。

(a) 学校・学級新聞をつくるのを進んで手伝った人は、どんなわけでやりはじめたか。まず受取り手だけですましている人が全体の54%だから、46%の人がともかくも新聞をつくるのを手伝っているわけで、この中で積極的にやっている人は38%で丁度全体の4割である。

その人たちはどんな動機づけで新聞を積極的につくるのを手伝うようになったか。全体的にみると、友達から進められて46.3%、自発的に、面白そうだから34.3%、好きだから12.1%、その他6.3%となっている。

こゝでも友達の影響が圧倒的にみられる、また人がやっているのをみるとやりたくなるのである。

しかし、次表にみられるごとく、東京以外の地域では受動的な動機が圧倒

的であるのに対して、東京では面白そうだからという自発的な動機づけが著しく多いことは都市と農村との性格の相異を思わせて面白い。

どんなわけて手伝うようになったか

(新聞を作るのをすすんで手伝った人について) 回答総数を 100 としてみた%

学 年	人 数	年 数 総 回 答 者 数	東 京			神 崎		
			4 年	5 年	6 年	4 年	5 年	6 年
			50 36	50 10	54 26	50 2	49 8	50 10
1 受動的(他から進められた)				2(20.0)	11(42.3)	2(100.0)	3(37.5)	8(80.0)
2 自 発 的	A	面白そう	36(100.0)	5(50.0)	7(26.9)		4(50.0)	1(10.0)
	B	好きだから		2(20.0)	5(19.2)			1(10.0)
	C	そ の 他		1(10.0)	3(11.5)		1(12.5)	
記 入	な	し	14	40	28	43	41	40

学 年	人 数	年 数 総 回 答 者 数	八 街			(b) 手伝ってなに かためになったと思ひ ますか。
			4 年	5 年	6 年	
			50 23	51 30	45 28	
1 受動的(他から進められて)			16(69.6)	21(70.0)	19(67.9)	
2 自 発 的	A	面白そう		4(13.3)	2(7.1)	新聞をつくるのをす
	B	好きだから	5(26.1)	2(6.7)	5(17.9)	すんで手伝うことは、
	C	そ の 他	1(4.3)	3(10.0)	2(7.1)	子供達の社会行動に何
記 入	な	し	27	21	17	

か役立ったかどうか、子供達はどう思っているだろう。

全体的には、ためになった77.5%、ためにならない7.2%、わからない15.3%と8割のものが何等かの意味で役立ったとしていることは、学校・学級新聞がたゞつくるだけに終わっているものでないことを示す。

なお、地域別全体にみると、次表の如く、神崎、八街では「ためになった

	東京	神崎	八街
ためになったと思う	71.1%	84.1%	82.2%
ためになったと思わ ない	6.7	8.0	7.3
わ か ら な い	22.2	8.0	10.5
回 答 総 数	90	50	96

(回答総数をそれぞれ 100 としてみた%)

と思う」がそれぞれ84%、82%と東京(71%)より著しく多くなっている。

この事は東京では比較して何やかやと興味関心をもつものに

恵まれているのに対し、神崎、八街のように比較して文化的圧力の低い所では、新聞作成を手伝う事が社会的意識の拡大をもたらすこと多大であり、生活社会への媒介物としての意味がかなり高くなっていると考えられよう。

(c) どんなことが役にたったと思いますか

新聞作成に手伝った人は8割近くがなにかに役立ったとなっているが、ではどんな点で役に立ったであろうか。

全体的にみると(回答者総数を100%とすると)、社会的関心が高まった22.5%、新聞の作り方を覚えた21.1%、文章が上手になった25.5%、その他38.4%となっている。

学年別にみると、小学4年では社会の見方が広くなった、文章が上手になったと28%のものがその効果を述べているが、小学5年になると文章が上手になったということと共に、4年のとき7%の新聞の作り方を覚えたが28%と上昇し、6年になってもその傾向は続いている。

地方別では東京では新聞の作り方を覚えたことと同時に38%のものが社会的関心が高まったといっているのに、神崎ではその割合は26%で、それより文章が上手になったことを30%が言っていることは面白い対照で、八街でも同様文章が上手になったことを35%がのべている。(東京では13%)

以上の事からして、新聞作成を手伝う事は社会的関心を深めると同時に自分が文章をかく上にも役立ち、また、毎日自分の家庭に配達されてくる新聞にも非常に関心を持つようになるわけで、その効果は大いにあるとみとめられる。

これは子供の意識そのものの調査で、実際の効果そのものは別であるが、子供の意識として、「文章が上手になった」ということをあげているのは、学校・学級新聞の作成が、現在、社会科だけでなく、むしろ国語科の仕事として行われているためであろう。

D ラジオの利用

マス・メディアのうち、新聞とともに考えてみなければならないものは、何といってもラジオである。新聞とラジオとは、ともに生活に必要な情報を伝え、教養の材料を提供し、娯楽にも奉仕し、究極においては同じ目的につながっているといえよう。ただし、印刷と電波、視覚と聴覚、という異った伝達方法上の制約によって、それぞれ独自の機能をもっていることも確かで、日常生活を営む上において、その任務が互いに重なり合い補い合うと同時にまた別個の役割を果たしていることも事実である。少なくとも現代生活を支障なく遂行するためには、一方だけでは不足であって、両者を合わせ用いなければならないと思われる。

まず、ラジオの普及率をみると、

	東 京	神 崎	八 街	計
あ る	289 (95%)	258 (91%)	250 (87%)	797 (91%)
な い	16 (5%)	26 (9%)	37 (13%)	79 (9%)

の通りで、回答者 876 人中、ラジオの機械のある家庭が約 9 割、ない家庭が約 1 割、相当高い普及率を示している。またこの場合にも、東京における普及率ももっとも高く、文化的圧力によって社会的緊張の強い地域では、その要求が増大していることを示している。特に、東京におけるラジオのない家庭に関しては、間借り生活のためにその要求が止むなく抑えられているとの報告も少なくなく、実際の要求がより以上に高いことが知られる。

このラジオの普及率を新聞のそれと比較するとどうであろうか。新聞は、

	東 京	神 崎	八 街	計
と る	296 (99.3%)	261 (97%)	273 (93%)	830 (98%)
とらない	2 (0.7%)	8 (3%)	8 (3%)	18 (2%)

の通りで、ラジオに比べると遙かに上廻っている。これはおそらく、経済的な問題、住居上の問題およびその発達史上の問題にその理由を求めるべきであろう。

ところで、その普及率に比し子供の接近率はどうであろうか。これは、下の表に示す通りで、新聞に対しラジオへの接近率の方が遙かに高く、マス・メディアとしての性格上の違いを顕著に示している。小学4・5年ですでに6割に近い聴取率を示し、小学6年以上になると7割以上になっているのはラジオが新聞に比して、抵抗が少く、いかに親しみやすいかを物語るものである。これは新聞の「まんが」「子供欄」が小学4年から東京で6割以上の接近率を示していたのと対比すべきもので、学年による上昇傾向も顕著には見られず、聴取習慣は小学校ではほぼ頂点に達するものと考えられる。視覚的聴覚的訴えが子供に及ぼす力の大きいことは、改めて考えさせられる問題である。

新聞・ラジオ接近率

(回答総数を100としてみた%)

			毎 日		と き ど き		接近しない	
			新 聞	ラ ジ オ	新 聞	ラ ジ オ	新 聞	ラ ジ オ
学 年 別	小	4	25.8%	57.6	65.5	35.4	5.3	7.0
	小	5	35.7	59.5	60.3	34.5	3.3	6.5
	小	6	47.6	77.4	49.6	21.1	0	1.5
	中	1	55.0	78.2	42.2	19.5	0	2.3
	中	2	72.3	72.4	26.3	23.4	1.3	4.2
	中	3	70.3	79.2	28.3	17.0	0.7	3.8
地 域 別	東 京	小に	32.0	72.3	58.0	25.5	6.0	2.2
	神 崎	学つ	28.0	53.2	66.0	42.5	2.0	4.3
	八 街	4い	18.0	48.0	72.0	38.0	8.0	14.0
性 別	男		55.1	69.4	41.4	27.0	2.2	3.7
	女		47.2	73.0	50.0	25.1	1.6	1.9

特に、ラジオを聞かないグループに関し、新聞とラジオの普及率と接近率の差を比べてみると、前者より後者が遙かに小さくなっているのは、家庭にラジオがなくてもどこかでラジオを聞いているものの多いことを示すものである。これによっても、ラジオが子供にとって興味深い存在であることが了解される。

次に、地域的にみると、東京が圧倒的に高くなっているのは、新聞の場合と共通であり、文化的環境が、マス・メディアへの接近に対して、いかに大きな動機づけの役割を果しているかを示している。

次に、男女の差が新聞と逆になっていることは、たとえその差が顕著ではないにしても、両者の性格上の違いを示すものとして興味が深い。

それでは、これほど関心の高いラジオを子供たちは、1日にどの位の時間をかけて聞くのであろうか。ここにも、新聞との違いが明瞭にあらわれている。時間を記入した子供の中で、30分以内と書いたものはなく、新聞の場合85%が30分以内であったのに比べると、非常な違いである。

	小4	小5	小6	中1	中2	中3	東京計	神崎計	八街計
30分以上100分まで	20.8%	22.3	6.1	11.0	9.8	12.4	6.0%	17.1	19.2
200分まで	37.1	22.3	20.6	17.3	19.7	17.4	17.0	25.8	25.0
400分まで	29.0	31.0	34.4	48.0	41.6	37.2	38.2	35.2	37.0
400分以上	13.1	24.4	38.9	23.7	28.9	33.0	38.8	21.9	18.8

しかも、それ所でなく100分以内のものは、全体を通じて僅かに13.7%にすぎず、200分までのものが22.4%、400分までのものが36.9%、400分以上のものが27.0%となっていて、異常な聴取率の高さを示している。この数字は、子供たちの内省による聴取時間であるから、実状をどの位反映しているかには多少の疑問がないではないが、この数字に信頼を置き得るとすれば、それは、子供たちが学校・外出の時間を除いて家庭にいる時には、ほとんどラジオが鳴り放しであって、かれらが、ほとんどラジオの中で生活している実状を伝えていると考えてよからう。確かにラジオはつけたまま放置されている場合が多いし、現在の住宅構造からいって、好むと好まぬとにかかわらず否応なしに聞えて来る場合が多いのである。したがって、この異常に長い聴取時間は、子供たちが積極的に注意を集中して聞いている時間を示すものではないであろうし、また新聞の場合のように、時間の長さに関心・理解の深さとが対応していると考えらるべきでもなからう。

要するに、小学4・5年で5割、小学6年以後になると7割以上の子供た

ちが、3時間半以上もラジオを聞いているということには、多少の問題があるように思われる。確かにラジオは現代生活に必要であり、ぜひこれに接近するよう指導すべきではあるが、この聴取時間の実状から考えると、自由意思による番組の選択がどの程度行われているか疑問であり、もし受動的に聴性によって聞いていることが事実であるとすれば、自主的に思考し作業すべき他の貴重な生活の時間が破壊されることもおびただしいと思われる。ラジオの器械としての構造や、また現在の住宅構造からいって、聞きたい者だけが聞くというように行かない所に、教育上考慮すべき問題がひそんでいるようである。

次に、それでは、子供たちがどのような番組をどの位聞くのかを見よう。まず、聞いている番組が学年、地域、性によってどの位の広がりをもっているかをみると次の表の通りである。

小 4	神 崎	男女	22 18	30	57	中 1	神 崎	男女	24 30	39	73
	八 街	男女	20 23	30			八 街	男女	30 48	57	
	東 京	男女	24 19	33			東 京	男女	21 24	35	
小 5	神 崎	男女	24 26	35	64	中 2	神 崎	男女	21 38	45	83
	八 街	男女	23 22	31			八 街	男女	29 33	42	
	東 京	男女	34 32	47			東 京	男女	36 36	52	
小 6	神 崎	男女	25 19	30	69	中 3	神 崎	男女	34 48	58	86
	八 街	男女	24 22	37			八 街	男女	25 37	54	
	東 京	男女	31 39	49			東 京	男女	37 34	49	

(数字は、聞いていると答えた番組の種類数)

聞いている番組の種類は、学年とともに多くなり、学年が高くなるにつれて、関心領域が広くなることを示している。また、地域的にみると、全体的には東京がやはり多いようであるが、中1、中3だけが低いのはその理由が

分らない。ともかくも、神崎・八街において高学年になるほど東京に接近し、あるいは凌駕しているのは新聞距離点数が同じ傾向をとっていたのと対応して興味が深い。男女による差は明瞭でなく、どちらか多く聞いているとは一概に言えないようである。

次に、子供たちがきまって聞いていると答えた番組を、上から20位ぐらいまで示すと次頁の表の通りである。

このうち、各学年に共通するものは、「三つの歌」「あちゃこ青春手帖」「子供の時間」「20の扉」「のど自慢」「ニュース」「笛吹き童子」「向う三軒両隣」「とんち教室」「筑波太郎」の10種の番組であり、1学年だけ欠けているものは、「白鳥騎士」「浪曲」「落語」「今週の明星」の4種の番組である。各学年はほぼ20種の番組を拾った中で、14種が重なっていることは、ラジオ番組の選択には学年差が余りないことを示している。さらにこの14種の半数以上が成人にとっても人気のある娯楽番組であることを思えば、直接的娯楽的な番組は年令や教養の差にかかわらず、情緒的な訴えによって大衆を広く動員し得ることを了解することができる。このことは、次章に示す映画にも共通しており、大衆的娯楽的番組はたとえそれが成人向きのものであっても、子供は異常な興味を示すものである。ここに、聴取時間の長さとか合わせ考えて、教育上考慮すべき問題がある。

しかし、そうはいっても、学年差が全然あらわれていないというわけではない。小学校では、やはり「ピーコボン太郎」「ロビンフッド」「ジロリンタン物語」や「クイズ」などの子供向きの娯楽番組が聞かれているのに対し、中学になると、「新しい道」「録音ニュース」「ニュース解説」「話の泉」などの知的要素を必要とするもの、および、「君の名は」「ばら色の乙女達」「上方演芸会」などの成人向き大衆娯楽ものが聞かれていて、やはり中学の方が大人に近づいている。

要するに、マス・コミュニケーションとしてのラジオと新聞の内容上の違

[illegible]

いは、ラジオが新聞に比して、圧倒的に多く直接的関心に訴える娯楽番組を採用し、大衆もまたそれにほとんど集中しているということである。もちろん第二放送もあれば、種々の教養的番組も組み入れてはあるが、ゴールデン・アワーはこぞって娯楽ものに重点を置き、ニュースやニュース解説はその間隙をねらって簡潔に流さないと効果が上らない。さらに教養を目的とする番組でさえ、ある程度情緒に動機づけする技術が必要である。したがって、大衆にとって、新聞は情報を精しく知り、世界の問題を考える手懸りとなるが、ラジオはどちらかといえば娯楽の道具に堕している感がないでもない。子供における聴取番組を調べた結果では、このことが痛感されるのであり、子供は情緒的関心を満足させる手段としてラジオを利用している面が多い。

E 映画の利用

マス・メディアのうち、映画もまた現代の生活に大きな影響力をもっている。日本における映画観覧率は、国民1人が年に12回すなわち月に1回行く割合だといわれるが、この数字の信頼度はともかくとして、すでに映画が国民の生活に深く根を下ろしている現実を物語るものである。

このように、生活に密接している映画に対し子供たちはどのような接近をしているであろうか。「学校で見る以外に、1か月に大体何回ぐらい映画を見ますか」という問いに対する答は、次の通りである。

	小4	小5	小6	中1	中2	中3	東京	神崎	八街
	%								
行かない	10.2	9.2	16.7	11.7	12.8	11.3	8.2	11.78	16.3
月に1回行ったり 行かなかったり	21.8	43.7	37.6	41.4	28.4	23.9	33.1	29.0	36.4
月に1回	11.6	12.6	10.1	17.2	13.5	19.0	13.4	14.9	13.6
月に2回	33.3	16.6	23.5	15.9	29.8	35.2	31.5	25.3	19.8
月に3回以上	23.1	17.9	12.1	13.8	15.5	10.6	13.8	19.0	13.9

全然見ないものは、大体1割程度、月2回以上見るものは、小学4年で5割以上、5年で3割以上、6年で4割、中学1年で3割、中学2年で4割半、中学3年で4割半という数字は、子供たちがいかに映画をたくさん見るかを

示すものだと思う。しかも学年による差が見えないが、このことは映画が精神発達に関係なく、低学年の子供にも訴え、広く大衆を動員する力のあることを意味するもので、それだけに低学年から高い観覧率を示すのであろう。この点、ラジオの「三つの歌」「あちゃこ青春手帖」などが子供にもっとも人気があるのと、同じ性格である。

また、地域的に見ると、八街の観覧率がやや低い、東京と神崎とがほぼ同じ、あるいは神崎の方がやや高くさえあることは驚くべきことである。見ないものの数は神崎がやや少いが、月3回以上見るものは神崎の方がずっと高い。しかも神崎には正式の映画常設館がなく、空き倉庫を利用した立見の巡回映画場が1軒あるにすぎず、したがって映画の本数も至って少い。比較的新しい映画を見たいものは、汽車によって佐原に出かけるそうであるが、このような不便な環境にもかかわらず、全体として東京を凌ぐほどの観覧率を示していることは驚異というほかはない。常設館が3軒ある八街が神崎に及ばないことを考えれば、かえって巡回映画の方が選択の自由がないだけに、来れば必ず見る人が多くなるのであろうか。それは、ともかくとして、映画館のない地方でも、映画は相当に普及し、子供たちがそれに非常に関心をもっている現状が、以上によって知られるのである。

次に、子供たちは、映画を見るのに、どのような方法で見るのであろうか。つまり、これは家の人と行くか、友人あるいは自分1人で行くかの問題である。

	小4	小5	小6	中1	中2	中3	東京	神崎	八街
	%						%		
家の人と行く	56.5	48.5	43.9	42.1	35.2	27.2	56.5	22.2	44.0
友人とあるいは 1人で行く	43.5	51.5	56.1	57.9	64.8	73.8	43.5	77.8	56.0

これによると、家人と行く率は、低学年から高学年になるにつれて次第に低くなり、中学3年では7割以上のものが、友人と誘い合わせて、あるいは単独で映画を見ていることになる。しかし、このことは学年差より地域差の方が遙かに大きい。東京では全体の半数以上が家人と見に行くが、八街・神

崎では半数以下、特に神崎では小学4年で僅か28%のものが、家人に連れて行かれるにすぎず、あとの72%は子供の自由に放任されている状態である。東京では逆に家人に連れて行かれるもの92%、友人あるいは単独で行くもの8%となっている。

すなわち、映画の観覧は、都会ほど家の監視下におかれ、田舎ほど子供の自由に放任されている。これは親の職業、および地理的社会的環境から来る必然であろうが、このことは映画を見る態度の違いを少からず暗示していると思われる。

一体、神崎では、上映本数が少く、しかも大半は「東海二十八人衆」式の大衆的娯楽的な映画が巡回してくるため、佐原に出掛けるものを除いては、ほとんど選択の余地がない。しかも、家人がある程度子供の自由にまかせているとすれば、子供たちは批判や選択の余地なく、ただ受動的に興味の赴くままに映画に接近して行く以外に方法はない。東京では、映画の本数も多く、また家人と同行するものが多いとすれば、家人が子供のために意識的に積極的に選択しないまでも、そこにはある程度の選択が自ら行われていると見なければならぬ。つまり、都会地においては、教育的に映画指導する余地があるが、田舎ではそれがほとんどなく、子供たちが映画に接する態度、あるいは映画から受けるものの意義が、環境により違って来ていると考えられる。

さて、それでは、子供たちはどんな映画を感心して見ているだろうか。「近ごろ見た映画で良かったものは何ですか」という問いに対する答を分類してみると、次のようになる。

	総数	邦画	洋画		総数	邦画	洋画
東 京	108	55	53	男	143	83	60
神 崎	65	48	17	女	84	57	27
八 街	73	51	22				

すなわち、男の方に洋画が多い。これも、やはり、男の方が女に比して知

識的関心の広いことを示すものであろう。

具体的に、個々の映画題目をみると、3人以上のものが好いといったのは下表の通りである。これについては種々の解釈がなされようが、大体におい

上 位 の 映 画 名 [3 人 以 上 良 い と い っ た も の] ○印は洋画

神 崎		八 街		東 京	
1 紅 涙 草	44人	1○荒原の凱歌	46人	1 原爆の子	44人
2 りんご園の少女	26	2 二人の瞳	37	2 楽しきカン平君	39
3 弥太郎笠	19	3 やまびこ学校	30	3 りんご園の少女	35
4 東海二十八人衆	19	4 巣鴨の母	17	4○バンビ	20
5 二人の瞳	18	5○五人の兄弟	16	5○ビノキオ	17
6 巣鴨の母	16	6 東海二十八人衆	9	6 母のない子と子のない母	16
7 牛 若 丸	16	7 三太物語	8	7 牛 若 丸	12
8 稲 妻	10	8○折れた矢	8	8○硫黄島の砂	11
9 勘太郎月夜	9	9○赤い河	7	9○ベルリン陥落	10
10 ニュース	6	10 弥太郎笠	6	10○ケニヤ草原	10
11 びっくり三銃士	5	11 牛 若 丸	5	11 鞍馬天狗	9
12 野口英世	5	12 母 の 罪	5	12 生 き る	8
13 マ ン ガ	5	13○硫黄島の砂	5	13 三太物語	8
14 生 き る	4	14 母 二 人	5	14 飛びっちょ判官	6
15 大仏開眼	4	15 さくらんぼ大将	5	15○黒 騎 士	5
16 鞍馬天狗	4	16○烙 印	4	16○艦長ホーレーショ	4
17 母 の 罪	4	17○僕の愛犬	3	17○ダルタニヤン	4
18 あの丘越えて	4	18 ひめゆりの塔	3	18 お茶漬けの味	4
19○オリンピック	3	19 若様まかり通る	3	19 母 二 人	4
20 母 子 船	3	20○落日の決闘	3	20○アバッチ砦	4
21 我家はたのし	3	21 忘れられた子ら	3	21 ニュース	4
				22○拳銃の町	3
				23 母は泣き叫ぶ	3
				24○流賊黒馬隊	3
				25○風と共に去りぬ	3

(洋画1本)

(洋画8本)

(洋画12本)

て神崎では母物、少女物、日本のチャンバラ物が目立っており、八街ではや
やヴェライティが出て来て、これに西部劇活劇が加わり、東京では文芸物が

上位で男子(女子)のみ、或は、男子(女子)が特に支持したもの

(○印は洋画)

男 子		女 子	
1 ○ 荒 野 の 凱 歌	30	1 りんご園の少女	50
2 東海二十八人衆	28	2 二 人 の 瞳	49
3 原 爆 の 子	19	3 楽しきカン平君	31
4 ○ 硫 黄 島 の 砂	17	4 巢 鴨 の 母	30
5 弥 太 郎 笠	14	5 紅 涙 草	30
6 紅 涙 草	14	6 原 爆 の 子	25
7 鞍 馬 天 狗	14	7 牛 若 丸	20
8 牛 若 丸	13	8 ○ 荒 原 の 凱 歌	17
9 りんご園の小女	12	9 弥 太 郎 笠	12
10 ○ ベルリン陥落	10	10 母のない子と子のない母と	10
11 ○ 宝 島	10	11 ○ バ ン ビ	10
12 ○ バ ン ビ	10	12 稲 妻	9
13 ○ ビ ノ キ オ	9	13 母 の 罪	9
14 三 太 物 語	9	14 ○ 五 人 の 兄 弟	8
15 楽しきカン平君	8	15 ○ ビ ノ キ オ	8
16 二 人 の 瞳	7	16 ○ 赤 い 河	7
17 勘 太 郎 月 夜	7	17 母 二 人	7
18 母のない子と子のない母と	6	18 三 太 物 語	7
19 生 き る	6	19 生 き る	6
20 ○ 流 賊 黒 馬 隊	5	20 お 茶 漬 の 味	5
21 武 蔵 と 小 次 郎	4	21 母は泣き叫ぶ	4
22 野 口 英 世	4	22 ○ 折 れ た 矢	4
23 ○ 烙 印	4	23 飛びっちょ判官	4
24 ○ ダ ル タ ニ ヤ ン	4	23 さくらんぼ大将	4
25 ○ 折 れ た 矢	4	24 母 子 船	3
26 ○ 黒 騎 士	4		
27 飛びっちょ判官	3		
28 ○ 落 日 の 決 闘	3		

邦 16本、 洋 12本

邦 18本、 洋 6本

相当に増えて来る。これは前に述べた選択の自由の有無が地域によって異なることに原因があるろうが、それだけに映画の普及に関し、社会的教育的に種々

の問題があるように思われる。

男女の別では、男が活劇冒険ものをより多く、女が母ものをより多くあげている点に、その性格上の差が認められる。

F 読書生活

子供たちの本・雑誌に対する接近のしかたはどうであろうか。まず参考のため、家庭における蔵書および雑誌をとっている状況を調べると、

		東京	神崎	八街			東京	神崎	街八
		%			%				
蔵書	20さつ以下	15.8	22.9	24.3	雑	とっている	72.0	62.9	62.5
	100さつまで	37.6	43.2	47.9	誌	とっていない	28.0	37.1	37.5
	100さつ以上	40.6	26.9	27.8					

(回答総数をそれぞれ100としてみた%)

の通りで、やはり東京の家庭の方が、相対的に文化的レベルが高いといつてよさそうである。

さて、それでは、子供たちは1か月にどのくらい本と雑誌を読むだろうか。学年別にみると、

	小 4		小 5		小 6		中 1		中 2		中 3	
	本	雑誌	本	雑誌	本	雑誌	本	雑誌	本	雑誌	本	雑誌
	%		%		%		%		%		%	
1さつ以下	9.4	17.9	28.1	24.5	13.6	11.3	24.2	20.0	19.0	18.5	40.9	30.4
2さつ以上	91.6	82.1	71.9	75.5	86.4	88.7	75.8	80.0	81.0	81.5	59.1	69.6

(回答総数をそれぞれ100としてみた%)

となって、全体の大体8割前後のものがそれぞれ2さつ以上読んでいる。しかも、分類の都合上2さつ以上としたのであるが、実際には月に2さつと答えたものより3さつ以上と答えたものの方が遙かに多いのであって、実は5割以上のものがそれぞれ3さつ以上読んでおり、これは相当に高い読書量だと考えるべきである。しかも、学年による上昇傾向が見られず、小学4年において最も高く、中学3年においてもっとも低いという逆現象さえ示しているのは興味深い。これは、中学3年が入学試験を控えていること、および

選択力と読みの深さが増して来たこと、の二つの面からその理由を考えるべきだと思うが、後に示す読書内容から判断すると、どうも前者にその理由があるらしい。ともかくも、低学年から読書量の多いことは、よい傾向のように見えるが、これも後に示す通り、その内容を見ると、新聞における「まんが」への興味と軌を一つにするものであるらしい。またそれだけに、読書量が多いという理由も了解されるのである。

地域的にみると、次の通りである。

冊数 \ 地域 種類	東京		神 崎		八 街	
	本	雑誌	本	雑誌	本	雑誌
1 さつ以下	16.9%	17.7	27.4	23.7	23.7	21.6
2 さつ以上	83.1	82.3	72.6	76.3	76.3	78.4

やはり東京の方が高いが、神崎・八街も決して低くはなく、特に雑誌になると東京に非常に近づいて来ている。前にのべた家庭でとっている雑誌の量（これは必しも子供の雑誌でなく大人のものを含んでいる）に比して、実際に読んでいる雑誌が遙かに多いのは、子供たちが、家庭になくとも、図書館、学級文庫、友人との交換などの方法によって、読む機会を多くもっている実状を示すのであろう。映画館はなくとも、映画を見る回数が東京に近づいているのと同じで、興味にまかせて本や雑誌の回覧が相当頻繁に行われていると考えられる。

次に、男女の別をみると、

冊数 \ 性 種類	男		女	
	本	雑誌	本	雑誌
1 さつ以下	25.0%	25.5	20.6	15.5
2 さつ以上	75.0	74.5	79.4	84.5

となって、女の方がより多く読んでいることは、映画と対照的で興味が深い。

それでは、子供たちはどんな本を読んでいるのであろう。「この3か月に読んだ本の名」をできるだけ多く書いてもらった結果によると、異った本の冊数は、次のごとくであった。

各 学 年 の 冊 数

学 年	学 年		神 崎		八 街		東 京		3人以上 があげた もの	2人が あげた もの	1人だ けがあげ たもの
	全数	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女					
小 4 年	196	121 119	56 34	35 110	57 72	89 56	51 46	33	117		
小 5 年	167	94 99	66 31	46 65	44 39	98 52	61 43	27	97		
小 6 年	239	139 148	82 54	49 121	67 81	112 63	65 52	32	155		
中 1 年	238	209 164	102 29	85 114	53 74	78 45	43 50	35	153		
中 2 年	282	127 188	93 37	66 120	53 81	146 68	85 63	29	190		
中 3 年	342	179 205	177 71	121 111	68 51	115 56	66 47	36	259		

これは、「できるだけ多く」という教示によるものであるから、読んだ本の全数ではもちろんないが、ともかくも学年とともに、読む本にヴァリエティが出て来ていることはうかがえるようである。特に3人以上があげた本と1人しかあげなかった本との比率を検討すると、低学年においては比較的一つの本に集中するが、高学年になるにつれて、次第に分散する傾向を示している。これはすなわち、高学年になると、読める本が増し、それに伴って選択が行われるという事情を示していると思われる。

本の内容を、大まかに分類してみると、の通りである。

各 学 年 の 読 み 物 の 種 別

() の中の数は大人向の雑誌

	小4年	5 年	6 年	中1年	2 年	3 年
雑 誌	36 (1)	42 (1)	41 (1)	32 (3)	36 (11)	51 (21)
童 話	32	18	14	1	1	0
少年少女小説	75	67	128	149	172	186
マ ソ ガ	32	16	22	7	5	2
小説(大人向)	1	0	1	9	30	61
伝 記	7	18	22	26	18	16
学 習 関 係	5	4	5	7	7	12
科 学 関 係	2	1	1	2	8	6
そ の 他	6	1	5	5	5	8

実際の本を確かめることができないものがあるため、童話や少年少女小説に分類したものの中にも、まんが風に書かれたものが、入っているかも知れない。しかし、それはともかくとして、全体を通覧する時、理科的・社会的な読みものより、物語の筋を中心とした興味に訴える読み物が圧倒的に多いことは著しい現象であると思われる。なお、中学2・3年になると、やや成人向きの読み物へ展開して来る傾向が見えることも注意される。

次に、一々の読み物を具体的に検討してみると、(別表上位読みもの参照)何といっても一番多く読まれているのは雑誌である。その雑誌も、自分の学年より相当低度のもので読む傾向があり、たとえば小学4年で幼年クラブを24人、小学6年で15人も読んでいるのは注意すべきで、まさに手あたり次第の感がある。特にこの傾向は神崎・八街において著しい。次にマンガが多く読者を獲得していることも顕著な傾向である。小学4年で58人、小学5年で71人、小学6年で73人、中学1年で45人、中学2年で11人という数字は、決して少ないとは言えないが、実際には「白雪姫」や「リンゴ園の少女」という本の名であげられたものの中にも、マンガ物語のあることを思えば、もっと上回るはずである。雑誌や、マンガへの人気は、結局、安易な視覚的直接的娯楽的興味に支えられていると考えてもそれほど誤ってはいないであろうし、その他の童話、少年少女小説も多分にこの傾向をもっており、読書量が各地域とも非常に高い原因も、このような根強い関心に動機づけしている所にあるのであろう。ラジオ、映画と同じく、雑誌、本に対する子供たちの熱意が、新聞に比較してはるかに大きいのは、これらがすべてこのような情緒へ直接訴えているからに違いない。

中学3年の内容をみると、大衆読み物はもちろんのことながら、文芸ものも著しく増えて、大人の読書に接近して来ているようである。しかし、よく検討してみると、中学3年でも科学的なものや思索的なものは案外読まれていない。

各学年の上位読み物の調査

小学4年

No	本の名	神崎			八街			東京			No	本の名	神崎			八街			東京		
		男	女	人	男	女	人	男	女	人			男	女	人	男	女	人	男	女	人
1	小学4年	73	19	36人	12	17	30人	2	18	7人	24	リンカーン	6人	1	人	1	人	3	3人	6	
2	おもしろぶつ	62	22	32	10	9	26	4	12	9	25	小学1年	5	1	4	1	3	1			
3	マンガ	58	12	17	13	10	16	3	16	4	26	少女世界	5	1	4	1	1	1			
4	少女	37	1	15	16	1	15	1	15	4	27	怪人どくろ団	4	1	3	1		2			
5	幼年クラブ	24	5	6	10	6	3	1			28	宝島	4	1	4	1	1	1	1	1	
6	少女ブック	22	1	7	6	1	16	1	3	3	29	野球少年	4	4	1	1		2			
8	少年クラブ	19	4	5	3	5	4	3	1	1	30	おやゆび姫	4	1	1	3	1	2			
8	少年	17	4	6	1	4	7	1	1	1	31	よい子3年生	4	1	1	3	1	1			
9	小学5年	13	3	3	3	3	3	1	1	1	32	サザエさん	4	1	1	1	1	1	1	1	
10	冒険王	11	3	1	6	2		1			33	イソップ物語	4	1	1		1	2			
11	三銃士	11		5			9	2	11	2	34	青い鳥	4	1	1	1	1	2			
12	太陽少年	10	3	5	2	4	1				35	シンデレラ	4	1		3	1	3			
13	少年画報	10	4	1	4	1	1	1	9		36	ろば物語	4	1	3		1	4			
14	野口英世	10		2		1	5	4			37	せむしの小馬	4	1			1	3			
15	少年ターザン	9	2	7	5	2	1	1			38	乞食王子	4	4	2	1	1	1			
16	少女クラブ	9		2	7	1	5	1			39	漫画と読み物	4	2	2	1	1	1			
17	少女サロン	8		1	2	1	5	1	5		40	少年王者	3	1	1	1	1				
18	童話	7		3	1	1	3	2			41	三年ブック	3	1	2	1					
19	小学2年	6	1	5	2	1	2	1	1		42	こけし物語	3	1	3	1	2				
20	小学6年	6		1	4	1	1	1			43	人間椅子	3	1		1	2				
21	小学3年	6		5	1	1	3	1			44	ロビンフッド	3	1		1	2	3			
22	みつめ姫	6	1	1	4	1	1	5			45	家なき児	3	1			1	2			
23	エヂソン	6				1	5				46	白雪姫	3	1		1	2				

小学5年

No	本の名	神崎		八街		東京		No	本の名	神崎		八街		東京	
		男	女	男	女	男	女			男	女	男	女	男	女
1	小学5年	88人	35人	18人	31人	17人	22人	23	小学4年	6人	1人	2人	4人	1人	1人
2	おもしろぶつ	80	14	12	18	6	20	24	母を尋ねて3千里	6	1	1	1	1	4
3	マンガ	71	4	8	11	10	15	25	探偵王	5	1	3	1	1	1
4	少女	52	1	17	1	14	19	26	漫画とよみの	5	1	2	2	1	1
5	少年	27	3	2	8	5	7	27	少年王者	5	2	1	3	2	3
6	太陽少年	25	6	1	5	3	8	28	少女サロン	5	1	1	3	1	1
7	少女ブック	24	1	14	2	7	1	29	ロビンフッドの冒険	5	1	1	1	1	4
8	少女クラブ	21	1	8	5	5	8	30	マツチ売の少女	4	2	2	1	2	2
9	冒険王	18	4	6	10	1	2	31	小学3年	4	1	1	1	1	2
10	少年クラブ	16	3	3	2	5	3	32	小学6年	4	1	2	1	1	1
11	野球少年	15	2	2	8	2	1	33	大平原児	4	2	1	1	4	1
12	少年画報	11	3	1	1	1	3	34	ロビンソン	3	1	1	1	1	1
13	幼年クラブ	11	1	7	4	4	10	35	シンデレラ姫	3	1	1	1	1	1
14	サザニさん	11	1	1	2	1	7	36	児童年鑑	3	1	1	3	2	1
15	童話	10	1	2	7	2	7	37	よい子3年生	3	1	2	1	1	2
16	譚海	9	2	3	5	4	3	38	少年朝日年鑑	3	1	1	3	2	1
17	漫画王	8	1	3	2	2	1	39	小学2年	3	1	1	3	1	3
18	5年の学習	7	2	2	5	5	5	40	雷電	3	1	1	3	3	3
19	少女世界	7	1	2	1	4	4	41	小公女	3	1	1	1	3	3
20	バンビ	6	1	2	1	4	4	42	少女ネル	3	1	1	1	3	3
21	小公子	6	2	3	2	1	1	43	轟先生	3	1	1	1	3	3
22	少女の友	6	1	3	2	1	1								

小学6年

No	本の名	神崎		八街		東京		No	本の名	神崎		八街		東京	
		男	女	男	女	男	女			男	女	男	女	男	女
1	おもしろぶつ	82人	32人	13人	32人	14人	18人	27	少女世界	6人	4人	1人	1人	1人	1人
2	マンガ	73	21	19	11	14	2	28	若草物語	5	1	1	1	5	5

No	本	の	名	神崎 八街 東京						No	本	の	名	神崎 八街 東京					
				男	女	男	女	男	女					男	女	男	女	男	女
3	小学6年			68人	12人	24人	12人	9人	15人	20人	29	シンデレラ姫	5人	1人	1人	1人	4人	4人	4人
4	少女			60	2	19	4	21	3	11	30	小学1年	5	2	1	4	3	3	2
5	少年			44	9	4	16	7	6	2	31	リンカーン	5	2	2	3	1	2	2
6	少女ブック			44	11	11	4	19	2	8	32	漫画少年	5	1	1	3	1	1	1
7	冒険王			36	10	1	14	7	3	1	33	イソップ物語	5	3	1	1	1	1	1
8	太陽少年			35	19	1	7	5	1	2	34	子供ブック	4	1	1	2	1	1	1
9	少女クラブ			33	1	14	1	13	1	4	35	鞍馬天狗	4	1	2	1	1	1	1
10	少年クラブ			28	15	3	3	2	2	3	36	少年王者	4	2	1	1	1	1	3
11	野球少年			26	14	7	3	1	1	1	37	ノンテヤン露にのる	4	1	1	3	1	3	3
12	少年画報			24	8	3	12	3	1	1	38	平凡	4	1	1	3	1	3	3
13	譚海			20	1	2	8	8	1	1	39	三銃士	4	1	1	3	1	2	2
14	漫画王			19	4	11	3	1	1	1	40	痛快ブック	4	1	1	3	1	1	1
15	少女サロン			19	1	7	1	10	1	9	41	漫画と読物	4	1	3	1	1	3	3
16	サザエさん			17	1	1	3	3	4	5	42	ロビンフッドの冒険	4	1	1	2	1	4	1
17	小学5年			16	1	2	3	6	1	3	43	白髪鬼	4	3	1	4	1	4	1
18	幼年クラブ			15	8	5	1	1	1	1	44	まごころ	3	2	1	1	1	1	1
19	少女の友			14	1	8	1	5	1	2	45	エジソン	3	1	1	1	1	1	1
20	小学4年			11	1	3	4	1	1	2	46	偉人物語	3	2	1	1	1	2	2
21	小学3年			9	2	1	6	1	1	1	47	トムソーヤの冒険	3	1	1	3	2	2	2
22	探偵王			8	1	6	2	1	1	5	48	6学年の学習	3	1	1	2	1	2	1
23	宝島			8	1	3	1	3	2	2	49	幼年ブック	3	1	1	3	1	3	3
24	学習年鑑			7	1	1	4	2	2	2	50	古城の怪宝	3	1	1	3	1	3	3
25	野口英世			7	2	2	2	2	1	5	51	仮面魔	3	1	1	3	1	3	3
26	あんみつ姫			6	1	1	1	1	1	5	52	怪盗ルパン	3	1	1	2	1	1	1

中学1年

No	本	の	名	神崎 八街 東京						No	本	の	名	神崎 八街 東京					
				男	女	男	女	男	女					男	女	男	女	男	女
1	マンガ			42人	3人	4人	21人	7人	10人	26	ベートーベン	5人	1人	3人	1人	1人	2人	2人	1人

No	本の名	神崎		八街		東京		No	本の名	神崎		八街		東京	
		男	女	男	女	男	女			男	女	男	女	男	女
2	少女	4人	9人	9	22人	10人	10人	27	宝島	5人	2人	3人	1	2人	2人
3	少年	30	3	13	3	10	1	28	トムソーヤの冒険	4	4				
4	おもしろぶつく	28	4	2	10	9	1	29	夏目漱石全集	4		4			
5	少女ブック	24	4	4	12	8		30	家なき娘	4		3	1		
6	中学生の友	21	3	2	5	2	9	31	中学生時代	4		1	2	1	
7	冒険王	20			9	1	10	32	緑のピラミッド	4			4		
8	譚海	18	3		11	4	4	33	大男とお姫さま	4			4		
9	少女クラブ	17			13		4	34	野口英世	4				1	3
10	太陽少年	15	2	7	4	2	1	35	湯川秀樹	3	1	2			
11	少女サロン	12	4		7		1	36	サザエさん	3	1		2		
12	女学生の友	11		4	6		3	37	乞食王子	3	2	1			
13	探偵王	10			5	2	3	38	小川未明集	3	1	2			
14	少年画報	9			8		1	39	森鷗外集	3		3			
15	少女の友	8	1	1	4		3	40	ストー夫人	3		3			
16	少女世界	8		1	5		2	41	樋口一葉	3		3			
17	少年クラブ	8	1	1	2	1	3	42	愛の一家	3		3			
18	鉄仮面	7	3	2	2			43	幼年クラブ	3	1			1	1
19	小公子	6		3	3			44	紫式部	3		1			2
20	小公女	6		5	1			45	アンデルセン	3		2	1		
21	家なき児	6		4	2			46	仮面魔	3			3		
22	からかねどくろの謎	6			6		1	47	幽霊馬車	3			1	2	
23	野球少年	6	4		1		1	48	エデソン伝	3			2		1
24	怪盗ルパン	6	4	1	1			49	坊ちゃん	3			1	1	1
25	ロビンフッドの冒険	5	2		2	1		50	白鳥のゆくえ	3			3		

中学2年

No	本の名	神崎		八街		東京		No	本の名	神崎		八街		東京	
		男	女	男	女	男	女			男	女	男	女	男	女
1	おもしろぶつく	31人	5人	5人	13人	5人	3人	33	清水次郎長	4人				4人	

No	本の名	神崎 八街 東京						No	本の名	神崎 八街 東京					
		男	女	男	女	男	女			男	女	男	女	男	女
2	少女ブック	31	15	12	12	4	4	34	伊号58里届到せり	4	人	人	人	4	4人
3	少女	31	12	12	12	7	7	35	鞍馬天狗	4	人	1	1	2	1
4	少女クラブ	26	15	9	9	2	2	36	宮本武蔵	4	人	1	1	3	3
5	少女サロシ	24	14	6	6	4	4	37	譚海	4	人	1	1	1	2
6	冒険王	19	2	15	1	1	1	38	ロメオとジエリ エツト	4	2	1	1	1	2
7	女学生の友	17	2	8	8	3	3	39	家なき児	4	2	2	1	1	1
8	少年	16	4	1	4	4	3	40	漫画王	4	2	2	2	2	2
9	少年画報	13	2	10	1	1	1	41	義経物語	4	1	1	1	2	2
10	少女世界	12	9	9	1	2	2	42	野球少年	4	1	2	1	2	2
11	怪盗ルパン	11	5	4	2	5	5	43	ガリバー旅行記	4	1	1	1	2	2
12	少年クラブ	11	1	1	4	3	2	44	シェクスピア	4	2	3	1	1	2
13	マンガ	11	9	2	6	1	1	45	15少年漂流記	4	2	1	1	1	1
14	少女の友	10	4	9	5	1	1	46	ロビンソン漂流記	3	1	3	1	2	2
15	太陽少年	10	4	7	4	1	1	47	ソロモンの洞窟	3	3	1	2	1	1
16	中学時代	9	4	7	1	1	2	48	平凡	3	3	1	1	1	1
17	ロビンフッド	8	4	5	2	2	1	49	仰げ大空	3	1	3	1	2	2
18	小公女	8	1	5	7	2	1	50	アーサー王	3	3	1	1	1	1
19	探偵王	8	1	6	5	1	1	51	リントン物語	3	1	3	1	2	2
20	鉄仮面	8	3	5	3	1	1	52	ノンちゃん雲に のる	3	3	1	1	2	2
21	小公子	7	3	5	1	1	1	53	石川啄木	3	1	3	1	2	2
22	島崎藤村	7	3	3	1	4	4	54	家なき娘	3	3	1	1	2	2
23	巖窟王	7	2	2	6	3	1	55	悲しき草笛	3	3	3	1	1	1
24	中学生の友	7	1	6	7	1	1	56	ニュートン	3	3	3	1	1	1
25	龍虎八天狗	7	1	7	4	3	3	57	ノーベル	3	3	3	2	1	1
26	サザエさん	7	2	2	2	3	4	58	風と共に去りぬ	3	1	1	1	1	1
27	あゝ無情	7	2	1	3	1	1	59	三四郎	3	1	1	1	1	1
28	リーダース・ダ イジェスト	6	1	3	3	3	3	60	轟先生	3	1	1	2	2	2

No	本 の 名	神崎		八街		東京		No	本 の 名	神崎		八街		東京	
		男	女	男	女	男	女			男	女	男	女	男	女
29	三国志	6人	1	2	2人	2	2人	61	小学5年生	3人	1	1	2人	3	人
30	若草物語	6	3	3	2	1	1	62	十字軍の騎士	3	1	1	3	3	人
31	樋口一葉	5	5	1	1	1	1	63	坊ちゃん	3	1	1	1	3	人
32	三銃士	5	3	1	1	1	1								

中学3年

No	本 の 名	神崎		八街		東京		No	本 の 名	神崎		八街		東京	
		男	女	男	女	男	女			男	女	男	女	男	女
1	少女	42人	18人	14人	10人	10	10	25	春鷲外集	4人	1	3	1	1	1
2	少女ブック	24	7	13	4	4	4	26	里見八犬伝	4	4	1	1	1	1
3	おもしろぶっく	23	4	5	3	8	3	27	母	4	4	1	1	1	1
4	中学時代	22	7	5	4	5	1	28	漱石全集	4	2	1	1	1	1
5	女学生の友	21	15	4	4	5	2	29	坊ちゃん	4	1	1	1	1	1
6	少女クラブ	21	7	4	4	5	5	30	冒険王	4	3	2	2	1	1
7	平凡	20	2	8	2	3	2	31	週間朝日	4	3	1	1	1	1
8	少女サロン	15	6	5	5	4	4	32	ラッキー	4	3	1	1	1	1
9	少女の友	13	6	4	4	3	3	33	三銃士	3	2	1	1	1	1
10	中学生の友	11	1	2	1	6	1	34	友	3	1	2	1	1	1
11	少年クラブ	9	1	1	5	2	1	35	ノンチャン雲にのる	3	1	1	1	1	1
12	東京	9	1	5	2	5	1	36	リーダーズ・ダイジェスト	3	1	1	1	2	1
13	太陽少年	8	1	1	1	5	1	37	婦人クラブ	3	2	1	1	1	1
14	中学コース	8	1	2	4	1	1	38	大地	3	3	1	1	2	1
15	源氏物語	8	1	7	2	1	1	39	あゝ無情	3	1	1	1	1	1
16	野球少年	7	4	1	2	1	2	40	啄木歌集	3	1	2	1	1	1
17	少年	7	2	1	2	2	2	41	宮本武蔵	3	1	2	1	1	1
18	少年画報	7	3	2	2	1	1	42	忘れられぬ花	3	1	1	3	1	1
19	明星	7	1	5	1	3	1	43	にんじん	3	1	1	1	2	1
20	少女世界	6	2	2	1	1	1	44	即興詩人	3	1	1	3	1	1
21	ひめゆりの塔	6	1	1	5	1	1	45	たけくらべ	3	1	1	1	3	1

No	本 の 名	神崎		八街		東京		No	本 の 名	神崎		八街		東京	
		男	女	男	女	男	女			男	女	男	女	男	女
22	母のない子と子 のない母と	5人	3人	5人	2	1		46	三つの物語	3人					3人
23	譚 海	5		4		1		47	小さき花々	3					3
24	入試問題	5		5											

結 び

A この調査を通して、わかったこと

1. 子供の新聞閲読の度合は、居住地域の文化的圧力の高いほど、家庭の文化度の高いほど高度となっていることが、東京、千葉両地域を比較検討した結果として明らかにみとめられた。

2. 新聞への関心と記事の理解力とはだいたい平行して発達している。

3. 新聞経験は、次のような条件をそなえている子供が豊かである。

(a) 国語能力のあるもの

これは、高学年のもの、国語成績のよいもの、漢字語彙の豊かなもの、読書速度の速いものが、新聞への接触度、理解度が高いことによって知られる。

(b) 社会的意識の開けているもの

これは、東京の小中学生、読書量の多いもの、文化程度の高いもの、マス・コミュニケーション経験の豊かなものなどが、新聞への接触度、理解度が高いことによって知られる。

(c) 新聞を読む習慣の発達する直接の原因は、関心領域が広く国語の力が豊かな人間そのものの成長の中にあると考えられる。新聞を読む習慣と相関の見られる種々の要因も、結局は人間成長をうながす原因であるとともに、成長した人間から生ずる当然の結果であって、新聞と諸要因とは、人間構造の発達を中心として、因となり果となりつつ関連しているというべきである。

B この調査から希望されること

1. 新聞がまんが欄、子供欄等にもっと注意を向けること

子供の新聞への接近が、まんが、子供欄からであることは、調査の結果明らかである。これに考慮を持っている新聞は、そうでない新聞に比して、児童少年を吸収する力も大きい。これらの記事が、都会中心主義にならず、もっと教育的に編集されることが望ましい。

2. 新聞記事をもっと平易にすること

義務教育を終ろうとする中学校3年生の新聞記事理解度はようやく60%であり、多くの子供は新聞はむずかしいから読まないといっている。読みやすさの問題は、急に解決できないことであろうが、努力を怠ってはならない。

3. 新聞の学習指導について

関心と理解とは平行して発達するものである以上、新聞の学習指導は、児童少年の社会的意識を拡大して、種々の問題に関心をもたせるとともに、あわせて国語能力を養成するようにしなければならない。学校における環境ならびにすべての教育過程、および児童少年を取りまく社会環境は、ことごとく、両者の成長に役立っていると考えなければならない。

また学校における新聞教育は学校新聞を編集する単なる技術教育に墮することなく、こうした全体の新聞の学習指導と手をたずさえて進むべきものである。

C 調査への反省

この調査によって、子供の新聞への接近・関心、および新聞記事理解の程度については多少わかったが、新聞の本来の機能、子供がニュースを知りそれに対して適当な身構えをして行くということに対して、新聞はどれだけの役割を果たしているかという問題については、単に附帯調査中の「事件と関心」

に示されている程度に終わった。また、この調査は当初、農村青年をも加えようと考え、土地の小・中学校長の尽力で、集合してはもらったのであるが調査事項が複雑すぎて十分な協力が得られず、小・中学校生徒の調査に終わってしまった。

こうした調査は、そうした、マス・コミュニケーションの中で、子供がどのように生活し成長しているかという根本問題への概観なしには、十分な解釈ができないということは明らかである。それはわれわれ調査者の根本的志向として、次の本調査までにはもっとよく研究しようという話し合いであった。いまそれを予備調査のままでその結果を発表するということになってしまったのであるが、これについては今後の検討研究をまつものである。

参 考

この問題に関する今迄の研究

この報告書の問題と同じような事からを扱った雑誌などの文献で、たまたま目にふれたものを参考として次にかかげておく。

1) 新聞を読む生徒と読まない生徒 四宮 晨〔青年心理第3巻第4号(昭27-12)〕
調査対象は千葉県下の三つの農村における 中学生 618人と、その地域を学区内に含む二つの高校生 516人、および県下 勤労青年 1319人である。このうち、新聞を毎日読むのが中学生では 45~55% で男女の差はない。高校生では 85% 内外で男女の差が著しく、勤労青年は 70% 内外である。

中学生が読む新聞の種類は、一般全国紙77%、地方紙7%、中学生新聞9%、その他7%となっている。また毎日読む者の30%、時々読む者では10%が家で2種以上の新聞をとっている。

生徒たちが読むようになるためには、環境的に言って、新聞を与えておくことがまず大切である。家で新聞をとっていて、読まない生徒は0%であるが、家で新聞をとってなくて新聞を読まない生徒は57%もいる。

新聞を読む時間をみると、毎日読む者は平均 26.0分、時々読む者は平均 15.2分である。

いつごろから読み始めたかについては、中学入学までに約80% (小 3—3%、4—13%、5—36%) が新聞に接している。毎日読む生徒たちの読み始め平均年齢は 11.1歳で、時々読む生徒たちのそれは 11.8歳である。読む内容ははじめはまんが・スポーツ・郷土欄であり、読むようになった動機は、1 漫画を読む。2 知っている文字を紙上で発見する喜び。3 地域の記事写真から。4 関心をそそる記事写真からである。

中学生と高校生・勤労青年は何に興味をもつかというと、三面記事とスポーツが共通に高率を示している。

読む生徒の家庭では、その日の出来事やニュースが話題になり、読まない生徒の家では話し合いが行われることが少ない。

新聞を読まない生徒はまた、知能的には低く、学業成績も一般的に良くない。毎日読む生徒は読まない生徒より、各教科共優秀なものの率が高く、読まない者は最も低い。なお、読む、読まないと教科の優劣との関係は特に国語と社会科に著しい。

2) 中学生は新聞をこのように読んでいる 秋山 利 [中学「国語・社会・英語」教育技術第5巻第8号(昭28-11)]

対象は神奈川県平塚市春日野中学校(父兄の職業分布は勤め人・農・商・工・自由・水産業)各学年100名ずつ調査した。

新聞は毎日読んでいるかということについては男生の方がはるかに高い関心度を示している。新聞を読む時間も男生は平均15分(朝刊については、10分と30分が最も多く、それぞれ全体の25~30%を占める。)であるのに女生は平均10分(同様に5分が最も多く、25~30%の間)である。そして高学年に進む程、多くの時間をかけ、男生は女生よりも長く読んでいる。

多く読まれた記事の種別を挙げると、

順位	男 生	女 生
1	その日の大きな出来事	漫 画
2	漫 画	神 奈 川 版
3	ス ポ ー ツ	ラ ジ オ
4	神 奈 川 版	写 真・絵
5	三 面 記 事	その日の大きな出来事
6	写 真・絵	三 面 記 事
7	こ ども 欄	天 気 予 報
8	政 治・国 際	こ ども 欄
9	広 告	広 告
10	海外トピックス	杜 説

となっている。三面記事は3年になると急増して全員が読むようになり、広告の中では映画広告が多く読まれている。

3) 新聞学習の実態 布川 正吉 [青年心理第3巻第3号(昭27-9)]

昭和25年東京都下の中学校・高等学校25校が新聞学習を2か月間実験的に試みた時の報告に基づく、記事に対する関心は、

	(学習前)	(学習後)
社 会	40 %	15.5 %
ス ポ ー ツ	20	10.5
文 化	8	16.5
国際・政治	8	25
社 説	4.5	18.5

と変化している。

4) 新制中学生の新聞理解力調査 関口 親 [新聞用語研究第10号(昭22.11.15)]

関西各府県の中学3年生1816名を対象として、26の短文について、その中の語句(勤労・未曾有・克服・矛盾等)の読み方と理解および漢字制限から起るいろいろの表記法による読み方と理解の差を調べた。それによると、正読71%、正解27%であって読解力の総平均は48%となる。これで読むことは読んでもわけがわからないことばの多いことが知られる。

5) 新聞は理解されているか 一高校生を対象とした理解度調査一

荒瀬 豊・木原啓吉 [新聞研究第17号(昭26-12)]

社説・政治記事・社会記事の三部門について、漢字の含まれる割合とセンテンスの長さという2点から新聞記事の文章の難易を計り、小学校6年、中学校3年の教科書の文章と比較した。

	漢字を含む割合	文の長さ
新 聞	約40~50%	60~70字
教 科 書	約25%	30~45字

教科書だけをやって読みこなす程度の者には、新聞の文章はかなりの負担になると思われる。社説は、他の二つの記事に比べると漢字も少なく、文の長さも短い。社説

がむずかしいという世評は、文章の構造とはちがった別の観点から考えなければなるまい。政治記事は、漢字の割合が著しく高く、センテンスも教科書や社説よりも長く、理解のむずかしさを示す数字が表われている。三面記事は漢字の割合が低い。

次に高校1年生を対象として、東京3校、京都1校、鹿児島2校（うち1校は女子校）の各1組を調査した。記事と社説三つをえらんで、漢字に読みがなをつけさせ、理解を見る問題に答えさせた。むずかしかったものとして、「示唆」の読みは、3校は正解者が1～2割であり、「措置」も同じく3校は1～2割しかないが、「措置」の意味は大多数がわかっている。また「実をあげる」を半数が「ミ」と読んでいる。むずかしい内容を盛りこんだ言葉や専門用語は正確にはつかめていない。前時代的の表現（態度を持して、大乗的）や行間の意味をとることを多数の読者に期待することとはむりである。

6) 子供達はどんなふうに新聞をよむか 亀井 一綱（言語生活 25（昭28-10））

この報告書のあらましの予報である。

7) 青少年の余暇生活 坪井 敏男（昭17-9）

第二次大戦中の、青少年の余暇生活指導のため実施された基礎調査で、東京でのブリテストの上で千葉県下の農山漁村および都市の青年学校、国民学校高等科生徒2709名について、日本青少年教育研究所が調査各校教職員の協力のもとで、余暇生活の全体を質問紙法により調査された大きなものである。

余暇生活を享受、創造の面で区分し、更にそれを知能、情緒、身体、技能的なものに分類し検討しており、文化財享受の知能的な面に新聞が含まれている。男女各学年を通じ戦争記事が最も興味深く読まれ、高学年ほど小説、政経記事が増加し、各学年を通じ興味の少ないものは株式、社説であることがみとめられている。

しかしよんでいる新聞記事の調査方法が最大三記事に限定されているため新聞閲読の実態を正確に把握していないようであることは残念である。

8) 新聞教育の展開（昭25-4）

読売新聞教育部を中心に全国中・高校25校が昭25年9月から11月にかけて実施した新聞教育に関する実験の報告集で、新聞が社会・国語科等の教材としては勿論新聞教育として実施された結果、新聞閱讀習慣が高まると共に、新聞の見方が変容し、新聞を理解する度が増加することは勿論、子供達の社会関心が拡大し、他学習へその態度が移調することを述べている。

9) 中学生は新聞をどれだけ読みこなすか 橋本朔郎〔新聞協会報 901 号〕

神戸市立葺合中学生徒各学年 100 名計 300 名を対象とし、新聞に使われる熟語、省略語、外来語 60 問につき、読み書き理解の三面から調査した所、文部省編の読み書き能力検査では全国平均以上をとった同校でも日常の当用漢字を使用した新聞紙面は意外に理解されていないことがこの調査では認められた。

10) 女子高校生の新聞実体調査 伊藤義道〔新聞協会報 931 号〕

教育領域におけるマス・コミュニケーションの実態と、その影響の分析の第一段階としてなされたもので、宇都宮女子高校生 475 名を対象とし、新聞接触の程度をこの報告で述べている。新聞に中学生の頃から 60% が関心をもち、現在 82% が関心をもって新聞を読んでおり、社会関心記事がかなり読まれていることが認められている。

11) 学生はどのように新聞を読んでいるか 日本学生報道連盟〔新聞協会報 976 号〕

日本学生報道連盟が全国 30 大学の学生 2000 名を対象として新聞週間に当り実施したもので (44% の回収率) 必ず読む記事も間接的な社会記事がよく読まれ、関心のあるニュースとしては、MSA が経済自立と再軍備に関連し、最も注目されていることが明らかとなった。

12) 新聞記事の選挙への影響〔新聞研究 22・23・24 号 (昭27-12-28-5)〕

昭和 27 年 10 月衆院選挙の時、日本新聞協会編集部調査課が、新聞記事が有権者の心理にどのような影響を与えるかを、公職選挙法の新聞報道・評論の制限に関する問題として、地方中小都市の代表として、小田原市を選び実施した調査で、新聞に接近

度の高い精読者ほど自覚的投票をしており、且また新聞が選挙投票決定に最も役立っていることが実証された。

新聞をどのように読んでいるかの調査方法と分析が一応なされていることで参考になると思われる。

13) 新聞をどう利用したか 金久保通雄

新聞教育の展開では、中・高等学校での新聞学習の実験を述べているが、これは更に小学校での実験も報告している。

小学校での学校、壁新聞が子供の自治活動に非常に役立ち、中学では新聞学習によって批判力が高校程度にまでなり、高校では社会関心が拡大したということを夫々実験校の関係教師の報告と共に述べており、経済問題などに疎遠だった女生徒にも関心を与えさせたということは見逃せない成果である。

14) 新聞記事の選挙への影響 新聞協会編集部〔新聞研究 28号(昭28-11)〕

27年10月小田原市での新聞記事の選挙投票行動に関する調査に引き続き、昭和28年4月衆、参院選挙の時、東京都第1区の有権者を地区層別無作意抽出法で348名について日本新聞協会調査課が実施した調査で、新聞精読者ほど自覚的投票をすることなどは小田原市と同様だが、文化的圧力の高い東京では、そうでない地域で新聞にあまり接近しない層を容易に新聞に接近させ、理解するようにさせていることがみとめられた。

新聞閲読状態をどう調査するかの方法がかなり役立つものであり、記事別閲読状態の分析方法も全体的把握によいことがみられ、これは子供の新聞調査に利用された。

付 録

調 査 実 施 の あ ら ま し

A 調査地点・対象・期日

本調査の目的にかない、都市と農村、換言すれば文化的に開放的な所と封鎖的な所での児童少年の発達の状況の相違も比較することができるように

し、なるべく普通の小、中学校を選定するよう努力した。

調査地点

a 東京地域——南山小学校 北芝中学校

b 千葉地域——(1) 神崎町・神崎小学校 神崎中学校

(2) 八街町・実住小学校 八街中学校

なお千葉地域での神崎町は水田の多い古村的性格の所として、八街町は明治維新以後の開墾地で畑作の多い開拓的性格の所として、千葉県教育研究所戸川昂氏のすいせんによった。

(国語研究所森岡、新聞協会亀井一綱は千葉地区下検分を1月行なった。)

調査対象

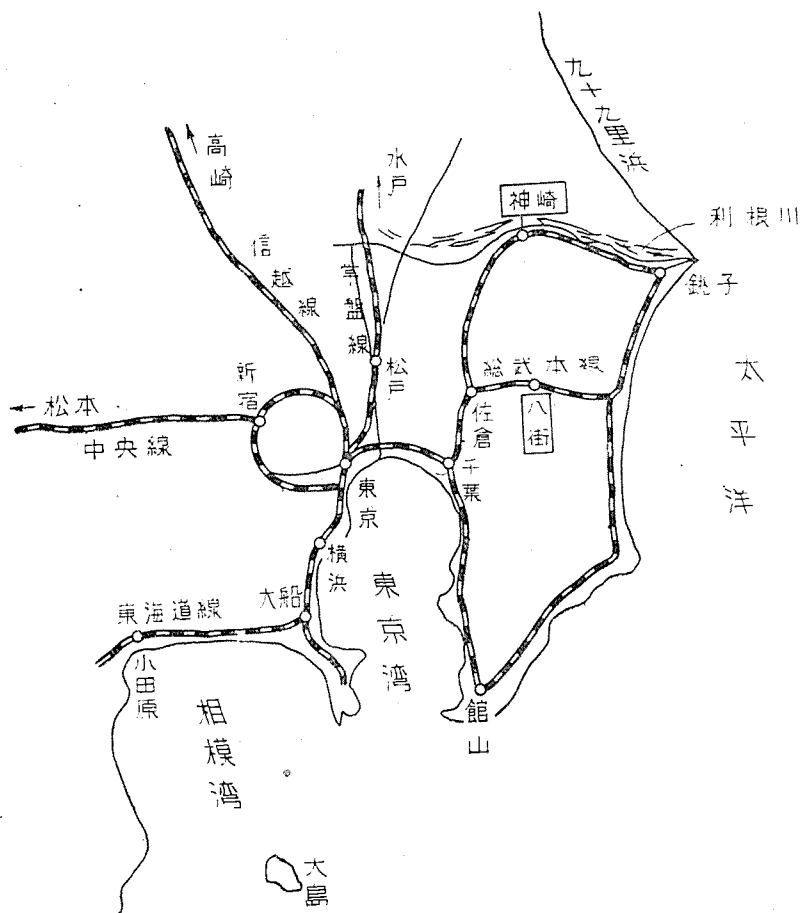
本調査の目的を遂行するため、小学4年より中学3年までを対象にすることにし、また、特に神崎では高等学校に行っていない農村青年について調査することにした。(これは協力の度が悪かったので、この報告にははいっていない。) 小学校4年から中学校3年までについては、男女それぞれ25名計50名を各地域より選定した。

対象の選定には、東京では校学指定によって各学年より一学級(50名)を選定、神崎では学年別層化無作意法で各学年50名を選定、八街では実住学区についての地区サンプリングで各学年50名を選定した。

地域別、学年別対象者の状況は次表の如くである。ただ、対象者の欠席等で国語能力、新聞調査、生活環境調査の実数は多少の相異がある。

調査対象者学年・性・地域別状況

地域	学年 性別	小学4年		5年		6年		中学1年		2年		3年	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
東 京		25	26	22	27	27	32	28	24	27	25	23	24
神 崎		27	23	24	26	30	20	24	25	20	28	21	29
八 街		25	27	28	28	27	23	24	27	30	21	25	22



調査期日

東京調査は昭和 27 年 12 月 17 日～19 日（3 日間）

神崎調査は昭和 28 年 1 月 15 日～18 日（4 日間）

八街調査は昭和 28 年 1 月 21 日～22 日（2 日間）

B 調査参加者

- （1）国語能力ならびに生活環境調査の準備と実施には国立国語研究所が

任に当り

国立国語研究所 第一部長岩淵悦太郎・第四研究室興水実・高橋一夫・
芦沢節・第五研究室森岡健二が参加した。

(2) 新聞調査の準備と実施には日本新聞協会編集部調査課が任に当り、
課長三宅東洲・高須正郎・田中融二・亀井一綱・宮地進吾・秋吉健次
が参加した。

(3) 児童生徒の学歴、生活環境等の文献資料教示には、東京南山小学校、
北芝中学校、神崎小、中学校、実住小学校、八街中学校の諸先生、千
葉県教育研究所戸川昂氏が参加。

C 調査票の構成

(1) 新聞調査

これは新聞にどのように接近し、いかなる閲読状況をなしているかを調
べるにあったが、静態的な新聞との関連はA調査票によって1時間で質問
紙に記入をしてもらい、閲読度合(どんな記事をいかによんでいるか)を
調べるためには実際に児童少年がおもによんでいる新聞を呈示してB調査
票に関し面接法により調査を実施した。

A1 調査表		調査日 昭和 年 月 日	
中 小 学 校		年	組 自分 の名前
みなさんがどんなふうに新聞をよんでいるか、くわしく書いて下さい。 わからない人は先生にきいて下さい。また番号がかいてある所は、どれにあ たるかよく考えてあてはまるところに○をつけて下さい。			
1、イ、あなたの家では何新聞をとっていますか。 1、朝日新聞 <small>あさひしんぶん</small> 2、毎日新聞 <small>まいにちしんぶん</small> 3、読売新聞 <small>よみうりしんぶん</small> 4、産業経済新聞 <small>さんぎょうけいざいしんぶん</small> 5、日本経済新聞 <small>にほんけいざいしんぶん</small> 6、報知新聞 <small>ほうちしんぶん</small> 7、時事新報 <small>じじしんぱう</small> 8、日本タイムス <small>にっぽんにつばん</small> 9、新夕刊 <small>しんゆうかん</small> 10、サン写真新聞 <small>さんしやしんぶん</small> 11、東京日日新聞 <small>とうきやうにちにしんぶん</small> 12、東京 タイムズ <small>まいにちしんぶん</small> 13、英文毎日新聞 <small>えいぶんまいにちしんぶん</small> 14、日刊スポーツ <small>にっかん</small> 15、東京新			

ぶん 16、千葉新聞 17、農村新聞 18、農業新聞 19、(そ
のほか家であっている新聞)

ロ、あなたは新聞をどこでよみますか。

1、自分のうち 2、電車、汽車の中 3、学校 4、駅 5、(そ
のほか)

2、イ、あなたは何新聞をよんでいますか。

1、朝日新聞 2、毎日新聞 3、読売新聞 4、産業経済新聞
5、日本経済新聞 6、報知新聞 7、時事新報 8、日本タイムス
9、新夕刊 10、サン写真新聞 11、東京日日新聞 12、東京
タイムズ 13、英文毎日新聞 14、日刊スポーツ 15、東京新
聞 16、千葉新聞 17、農村新聞 18、農業新聞 19、(そ
のほか自分のよむ新聞)

ロ、あなたは新聞を毎日よみますか。

1、毎日よむ 2、ときどき 3、ちっともよまない

ハ、あなたは新聞を1日に何分位よみますか。(分くらい)

1日に何回よみますか 1、2、3、4、()回

3、あなたが新聞をみたりよみ初めたのは何年生からですか(年生から)

4、新聞を初めてみたりよみだしたのはどこですか。

1、政治 2、外国のこと 3、社説 4、経済 5、社会 6、学
芸 7、婦人家庭子供 8、小説 9、まん画 10、運動
11、広告 12、写真 13、千葉版(地方版)

A2 調査表

5、新聞をよみ始めたわけ

1、自分からすすんで(そのわけ)
2、父、母、家の人におすすめられて(そのわけ)
3、先生におすすめられて(そのわけ)
4、そのほか(そのわけ)

- 6、イ、新聞をよんで面白いですか 1、面白い 2、どちらでもない
3、つまらない 4、わからない

ロ、どこが面白いですか

- 1、政治 2、外国のこと 3、社説 4、経済 5、社会 6、学
芸 7、婦人家庭子供 8、小説 9、まん画 10、運動
11、広告 12、写真 13、千葉版(地方版)

- 7、イ、新聞にのっている広告をよみますか

- 1、いつも気をつけてみる 2、ふつうにみる 3、ちっともみない

ロ、どんな広告をよくみますか

- 1、デパート 2、映画、しばい、レビュー 3、化粧品 4、本や
雑誌 5、くすり(薬品) 6、催し物(音楽会とかいったもの)
7、食品 8、菓子 9、銀行、会社の公告(決算など) 10、病
院 11、文房具 12、死亡通知 13、案内広告 14、学校
15、役所の公告 16、(そのほかのもの)

- 8、新聞には家が焼けたとか、泥棒がつかまったとか、町の美談といっ
た色々社会のでき事のかいてある社会記事があります。

イ、その中でどんなものが面白いですか

ロ、よんでいやな気持ちになるものはどんなものですか

ハ、とてもためになったと思うのはどんなものでしたか

- 9、イ、新聞には政治、外交の記事がありますが、いつもよみますか

- 1、いつもみる 2、ときどき 3、ちっともみない

ロ、どんなことがかいてあるときによみますか

A 3 調 査 表

- 10、イ、新聞には運動記事がありますが、注意してよみますか

- 1、いつも気をつけてよむ 2、ふつう 3、あまりよまない

ロ、どんなものをよみますか

ハ、新聞で自分がよむ運動を自分でやりますか

何を 1、選手 2、やる 3、やらない

- 1、
- 2、
- 3、
- 4、

11、なぜ新聞をよむ気になるのですか、どんなとくがあるのですか、
思う通りかいて下さい

●

12、イ、最近の新聞をよんでなにか思い出すことがあるでしょう。な
んでもよいからそれをかいて下さい

ロ、思い出した事の中で、とてもためになったと思う事があつた
ら、どんなものか書いて下さい

ハ、その中で、とてもいやな感じのしたものがあつたら、どんな
ものかかいて下さい

ニ、もっとこんな記事が新聞にでていたらよいと思うことがあつ
たら書いて下さい

A 4

13、イ、あなたは中学生新聞や小学生新聞や学校版（読売）などを読
んでいますか

1、よむ 2、よまない

ロ、いつ頃(何年生)からよみ出しましたか(年生)

ハ、どうしてよみ初めたのですか

1、友だちがすすめた 2、友だちがよんでいるのを見てよみたくなった 3、先生がすすめた 4、そのほかにあればかいて下さい

()

ニ、どんな所が面白いのですか ()

そのわけ

ホ、ふつうの新聞とくらべて、どう思いますか

1、ふつうの新聞より面白い 2、ふつうの新聞と同じくらい

3、ふつうの新聞よりつまらない 4、わからない

14、イ、(1) 学校新聞をよみますか 1、でるたびによむ 2、ときどきはみる 3、ちっともみない

(2) 学級新聞をよみますか 1、でるたびによむ 2、ときどきはみる 3、ちっともみない

ロ、学校、学級新聞をつくるのを手伝ったことがありますか

学校新聞—— 1、ある 2、なし

学級新聞—— 1、ある 2、なし

ハ、学校、学級新聞のどこが面白いのですか

ニ、(学校、学級の新聞をただよんでいて、つくるのに手伝ったことのない人だけ)

学校、学級の新聞をよんでためになると思いますか

1、大いにためになる 2、少しはためになる 3、ちっとも役にたたない

ホ、(新聞をつくるのをすすんで手伝った人だけについて)

1、どんなわけで、やり初めましたか(そのわけ)

2、手伝ったりして、なにかためになったと思いますか

1、思う 2、思わない 3、わからない

3、どんなことが役にたったと思いますか

4、新聞を手伝って、どんな事がやりにくかったのですか

[illegible]

か学習的か興味的かくわしくきいて書く)

- 被調査者の状態
- イ) 1. 協力的 2. 普通 3. 嫌悪的
 - ロ) 性格的に感じたもの
 - 1. 外向的 2. 普通 3. 内向的
 - ハ) 体型
 - 1. 肥満型 2. 細長型 3. 闘士型 4. 普通
 - ニ) 服装
 - A) 1. きちんとしている 2. 普通 3. だらしない
 - B) 1. 洋服 2. 和服
 - ホ) その他の行動(面接中にみられた)
 - 1. チック症
 - 1. 爪をかむ 2. よく頭をかく 3. 指を口に入れる
 - 4. その他
 - 2. アレルギーのなにか
 - 1. あかざれ、ひびがある 2. 顔につやがない 3. その他
 - 3. その他、被調査者に感じられた特徴

(2) 新聞理解度と国語能力とに関する調査

第一には新聞記事の理解に関する調査で、調査表の問題一となっており、ふだんのふつうの記事の代表であって、子供にも適しているものから選んだ。

第二には漢字語彙に関する調査で、調査表問題二となっており、新聞に多くでるものと、国語教育で要求している漢字力を見うるものとの二つの群に分れている。

第三には読書速度に関する調査で、調査表問題三となっており、読むことにどのくらい習熟しているかを時間制限法(3分)でしらべた。

以上の調査表問題一、二、三を合計2時間で、子供達に説明の上実施した。

問題一

年		男	な
組		女	ま
			え

㊦

〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃
ア メ リ カ こ ば な し

ちいさなマリオンちゃんは、学校へきても、おともだちとおはなしができません。先生はなんとかしておはなしをさせようと、こくばんに一びきのネコのえをかきました。そして「これはなんでしょう。おめめが二つ、おみみが二つ、おはなが一つで、おひげをは

やし、いつもいろりのそばでねむりがるもの、なかに」と、たずねました。マリオンちゃんの目はかがやきました。そして、これならおこたえできるわ、と、むねをはってこたえました。「はい、それはおじいさんです。」

(アメリカのしんぶんクリスチャン・サイエンス・モニターから)

次の二つの問題を読んで、あっている方に○をつけなさい。

一、マリオンちゃんはこくばんのネコのえをよく見ていたのでしょうか。

(イ) 見ていた

(ロ) 見ていなかった

二、マリオンちゃんの組の者はマリオンちゃんのおこたえをきいてからどうしたと思いますか。

(イ) わらった

(ロ) だまっていた

おこった

㊦

ペン字

自 宅 電
上 達

ペン字の上手な人は会社
も常に上位になる。しかも
創立二十年の本会の透写式
教授法で面白い位上達する

ハガキ下さい
美本説明進呈

▲東京神田局神保町一
日本ペン習字学会

一、上の文で「ハガキ下さい」というのはつぎのどれか。上に○をつけなさい。

(イ) はがきを十枚、ふうとうに入れておく。

(ロ) はがきに「説明書をください」と書いて出す。

(ハ) じぶんの住所と名まえを書いたはがきをふうとうに入れておく。

二、「美^び本^{ほん}」というのはどれが美^{うつく}しいことか。上に○をつけなさい。

- (イ) 説明書^{せつめいしょ}が美しい。
 (ロ) ペン字^じが美しく書^かける。
 (ハ) 勉強するペン字の本が美しい本である。

(三)

猛火の中の少女救う

中野の病院火事

お手柄の早大生表彰

一部既報、三十日午前零時二十五分
 中野区氷川町二八産婦人科成沢医院＝
 院長成沢亀一郎氏(三三)＝の診察室か
 ら出火、木造二階建一むね二十坪を全
 焼した。原因は中野署で取調べ中だが
 漏電らしい。

この火災で現場に居合せた同区高根
 町一水道工事業 菅 真三さん方早大理
 工学部四年生高谷辰男君(二四)は家具

の持出しを手伝っていたが、家の中か
 ら女兒の泣き声が聞えるので火をおか
 して入り、階段下で同家長女優子ちゃ
 ん(六っ)＝桃園小学校一年生＝を救い
 出した。優子ちゃんは頭顔に三週間の
 火傷。高谷君も救助の際右手に軽傷を
 負った。中野署では高谷君を近く人命
 救助で表彰する。

一、高谷君の家は焼けたのでしょうか。焼けなかったのでしょうか。

つぎの正しいと思うものの上に○をつけなさい。

- (イ) 焼けた
 (ロ) 焼けない
 (ハ) 焼けたかどうかわからない

二、優子さんはどこのうちの子供ですか。

つぎの正しいと思うものの上に○をつけなさい。

- (イ) 菅さんのうち
 (ロ) 高谷君^{たかやくん}のうち
 (ハ) 成沢^{なるさわ}さんのうち

三、あなたはこの新聞^{しんぶん}ではじめて中野の病院の火事^{なかのびょういんかじ}を知りました。このことについて
 もっと知りたいと思った時、どうしますか。する方を一つえらんで○をつけなさい。

- (イ) 前の新聞^{まえ}をもう一度^{しり}調べてみる
 (ロ) あしたの新聞^{あした}に注意^{ちゅうい}している

(四)

今夏松竹が北海道にロケーションして製作した国産天然色劇映画第二作の「夏子の冒険」は普通の白黒映画と同数のプリント卅八本を作って正月興行に一般封切されるが、これを皮切りに来年は松竹以外にも数社が天然色映画を競って製作することが決まり、日本映画界もようやく本格的な“天然色映画時代”を迎えることとなった。

上の記事^{きじ}をまとめて題をつけるとすればつぎのどれがよいか。上に○をつけなさい。

- (イ) 天然色映画時代来る てんねんしよくえいがじだい きた (ロ) 夏子の冒険いよいよ封切 なつこ ぼうけん ふうきり
 (ハ) 白黒映画と天然色映画 しろくろ えいが てんねんしよくえいが (ニ) 松竹北海道にロケーション しょうちくほっかいどう

(五)

リー 国連 辞表 撤回 か

【ニューヨーク国連本部二十七日発＝ロイター特約】二十七日信頼すべき筋の言明によればさきに辞表を提出したリー国連事務総長は辞表を撤回し、一
 九五四年二月に任期が終るまで現職に留まる用意をしているといわれる。これについてリー氏側近筋は後任者の選出が困難だからだと述べた。

つぎのどれが正しい^{ただ}いか。もっとも正しいものを一つえらんで上に○をつけなさい。

- (イ) リー総長はやめた そうちょう
 (ロ) リー総長はやめるのかも知れない
 (ハ) リー総長は決してやめない
 (ニ) リー総長はやめないらしい

(六)

【鳴海発】日米大学選抜野球選手権試合第六戦は二日午後三時卅分から鳴海球場で挙行、アメリカ選手チームが5-1で快勝、4勝2敗の成績でアメリカが初の選手権を獲得した。

総評 日米大学選抜野球選手権試合は主戦投手マッシュューズの力投で第一戦を

ものにしたアメリカが、第二戦は小島(立教)無類の好投で、第三戦は日没下の乱戦のすえ何れも惜敗、これで神宮では負越しとなって西下し、甲子園の二試合で日本の優勝がきまってしまうのではないかとされていたのだが、結果はあまりにも鮮やかにアメリカが

勝2敗の逆転となり、第五戦のごときはマッシュ投手が無安打無得点試合をさえやってのけた。

こうして選手権の行方は名古屋鳴海球場での第六回戦で決定してしまったのである。

にちべい 日米どちらが勝ったのか。勝ったほうを、つぎの()の中に書きこみなさい。

第一回戦()

第二回戦()

第三回戦()

第四回戦()

第五回戦()

第六回戦()

㊦

山形県が戦後の教育、とくに社会教育に少なからぬ成績をあげているのは注目されてよい。学校教育では「山びこ学校」で若い教師が新しい教育の一つの方向を示したし、社会教育では、「青年学級」をいち早くはじめたほか青年団運動も、「産業開発青年隊」を自主的に組織して全国に問題を投げかけている。公明選挙にも青年団婦人団体の協力に成績をあげ、投票率では総選挙も教育委員選挙もともに日本一というぐあいであった。

今度は米の供出が日本一に早くていわゆる自由集荷が許された。そのことが県内のある町での話題にでて、県議会の文教委員などが、社会教育の徹底が県の農民の供出意欲を高めたのであるというふうなことをいいたしたところ、そこにいた農民の一人が、色をなして反対した。山形県が供出日本一をうたわれたのは、供出意欲の高揚などではなくて、山形の農民が日本一

貧乏だからだ、ときめつけたのである。もし来年の夏まで米をたくわえているだけの余裕があるならば、決してすすんで供出などはしないが、わずかの早場米供出奨励金でももらいたくて、出すのだと主張してゆずらず、その場の空気がシラけてしまった。

この人の言い分だと、極度の貧乏が供出の道義心を高揚させる結果を招いたというわけである。たしかにそういう事実もあると思われる。といって社会教育の普及が、これと全く関係がなという見方もありたつまい。結局、貧乏も事実であり、社会教育の普及も効果なしとはいえないであろう。ものごとは、とにかく一方からばかりをながめたり、言いはったりするのでは、公正を失うことになる。しかしいやいやながら供出を急がなければならないという矛盾は、真剣に考えられてよからう。

一、上の文の「この人」というのはつぎのどれか。上に○をつけなさい。

- (イ) 県会けんかいの文教委員ぶんきょういん
 (ロ) 農民のうみんの一人ひとり

二、上の文の「これ」というのはつぎのどれか。上に○をつけなさい。

- (イ) 極度きょくどの貧乏ひんぱう
 (ロ) 供出きょしゅつ意欲いよくの高揚こうよう

三、この文の作者さくしやは何が真剣しんけんに考えられなければならない「矛盾むじゆん」だといっているか。

つぎの上に○をつけなさい。

- (イ) 日本一貧乏ひんぱうな山形県やまがたけんが供出きょしゅつ日本一であるということ
 (ロ) 教育きやういくが進すすんでいるのに人々の主張しゆちやうが一方的いつぱうてきであるということ
 (ハ) 供出はよいことであるのに、いやいやなしなければならないということ
 (ニ) いやいやながら供出きょしゅつしながら奨励金しょうれいきんをもらうということ

問 題 二

年	男	な	
組	君	ま	
	女	え	

㊶ 漢字にかなをつけなさい。

1. 議員 2. 健康 3. 祖国 4. 独立 5. 幸福 6. 雪 7. 新緑
 8. 迎える 9. 肩 10. 貝 11. 映画 12. 揭示 13. 舟 14. 価値
 15. 並べる 16. 効目がある 17. うれしい贈りもの 18. もめんの肌膚
 19. 申込は十五日まで 20. あしたから値下げ 21. 労働 22. 収穫
 23. 犯人 24. 総額 25. 証明 26. 条約 27. 権利 28. 占領
 29. 正午 30. 突破

㊷

{ } 中の四つのことばのうち、どれをえらんだら正しい文になるか。

合っていると思うことばに○をつけなさい。

- (1) 問題もんだいの { 1. 意見
2. 解決
3. 位置
4. 安全 } をはかる

- (2) 外国がいこくの { 1. 技術
2. 完成
3. 参加
4. 発展 } をとり入れる

- (3) 幼い者おさないものを { 1. 保存
2. 保護
3. 注意
4. 補助 } する事業じぎやうは、今日こんにちではかなりよく行おこわれている。

(4) 行^いって^みたら、その被害^{ひがい}は { 1. 思想
2. 不安
3. 承知
4. 想像 } 以上^{いじよう}にひどかった。

(5) あの人^{ひと}のように、だれにも^{おわ}変^へらず { 1. 誠意
2. 強力
3. 誠実
4. 健全 } に接^{せつ}する人^{ひと}は珍^{めづ}しい。

(6) 心配^{しんぱい}していた結果^{けつか}が { 1. 自由
2. 現状
3. 現実
4. 今後 } に現^{あらわ}れてきた

(7) この事件^{じけん}の { 1. 背後
2. 結果
3. 模様
4. 情勢 } には複雑^{ふくざつ}な事情^{じじよう}がひそんでいる。

(8) 他人^{たにん}をかえりみず { 1. 主旨
2. 実情
3. 特権
4. 行為 } を主張^{しゆちよう}することは民主^{みんしゆ}的な態度^{たいど}でない。

(9) 平凡^{へいばん}な役^{やく}ほど { 1. 政治
2. 俳優
3. 試験
4. 公民 } にとってはむずかしい。

(10) 社会^{しやかい}制度^{せいど}を { 1. 簡潔
2. 危険
3. 活発
4. 急激 } に改^{あらた}めるのは困難^{こんなん}な仕事^{しごと}だ。

(11) 指導^{しどう} { 1. ごとに
2. さらに
3. したがって
4. および } 監督^{かんとく}のもとに始^{はじ}める。

(12) その時^{とき}のかれの行^ないをやむをえないものとして { 1. はめた。
2. みとめた。
3. ひなんした。
4. 笑った。

(13) 山田^{やまだ}選手^{せんしゆ}は百^{ひやく}メートルに十秒^{じゅうびよう}六^{ろく}という戦^{せん}後^ご最高^{さいこう}の { 1. 記録
2. 勢力
3. 人気
4. 展開 } を作^{つく}った。

- (14) 私たちはもっと魚類を取って、栄養の { 1. 支出
2. 超過
3. 成立
4. 補給 } をはからねばなりません。

ん。

- (15) 人口問題に関しては、国民みんなが { 1. 勤労
2. 事業
3. 施設
4. 対策 } を考えるべきだ。

- (16) 委員会では計画について { 1. 検討
2. 支給
3. 注意
4. 改正 } を開始する。

- (17) 会長の責任をすどく { 1. 放棄
2. 追求
3. 主張
4. 否定 } する。

- (18) 組合は会社側に対して、いよいよストにはいると { 1. 契約
2. 宣言
3. 命令
4. 設定 } した。

- (19) 義務教育費は全部を { 1. 労組
2. 議会
3. 国務
4. 国庫 } から出せという意見がある。

- (20) あの男は会社の金を持逃げしたという { 1. 主旨
2. 観測
3. 容疑
4. 告発 } でとらえられた。

問 題 三

年	男	な
組	番	ま
	女	え

ジャンは、工作のじょうずな、やさしい少年でした。ジャンは、町の小さな家具屋さんの子でした。おかあさんは、もうずっと前になくなり、からだの弱い妹のマリーは、いなかのおじさんのところに行っていて、ジャンはおとうさんとふたりでくらししていました。そのマリーが近いうちに来るといいます。ジャンは、いま修学旅行がすんで、すいとうをボンボンたたきながら、お店へとびこんで来たところです。

「おとうさん、ただいま。マリーは？」

「マリーは、あしたつくそうだよ。ほら電報だ。」

ジャンは、ハアハア言いながら、電報を開きました。

「『アスエウガタツク、マリー。』よかった、ぼく気が気じゃなかったよ。るすちゅうに來ているかと思ってさ。」

ジャンは、階段をかけあがり、二階の自分のへやのとびらをボタンとあけました。るすにしていたせいか、いつも使っていた机もいすも、なつかしいくせに、ちょっとよそゆきの顔で、すましていました。ジャンは、出窓のところまで来て、はっと立ちどまりました。

「おやっ、そこに並べてあったいすがない。机もない。ああ、みんなない。」

ぐるぐる見まわしたが、どこにもありません。

いったいどうしたのでしょうか。

もっともそれは、おもちゃのいすなのです。机なのです。長いいすもありましたし布をはったのや、海辺で使うピンクと青に塗ったのや、そして机だって丸いのや、四角いのや、いっぱいありました。それが一つありません。

マリーを喜ばしてやろうとジャンは毎日マリーのお人形のために、その小さな机といすを作ったのです。机のひきだしをあけたり、本箱をひっくりかえしたり、そしてとうとう泣き声をだして、下へかけおりました。

「おとうさん、ぼくの机といす知らない？ ね、おとうさんてば……。」

おとうさんは、困ったようにジャンを見ました。

「おとうさん、いったいどうしたのさ。」

おとうさんは、なだめるように手をふりながら、ジャンに言うのでした。

「ジャンや、おどろいてはいけないよ。おまえの考えひとつで、わたしたちは大金持ちになれるんだよ。」

「じゃあ、おとうさんは知っているのね。どこへやったの、どうしたの。」

「ジャン、そこにある机といすを見てごらん。」

ジャンは、びっくりしました。

「あっ、ぼくのいす、ぼくの机だ。」

けれどもそれは、もうおもちゃではありません。

ちゃんとのた大きな机、おとなのすわるいすなのです。

「おとうさんは、魔法を見つけたんだよ。」

まあ、おきき。ジャン。おまえが来るすの日に、夕立があつたらう。雨があがつてからわたしは庭へ出たんだよ。そうしたら、びょこり、びょこり、きのこがはえてるんだ。あんまりおもしろいので、わたしはそばへ行ってみたんだよ。

そしたらジャン、そこに大きなありがいて、なにか木の枝のようなものを地面の上でふると、びょこんとききのこがはえてきたんだよ。そこで、わたしはきいてみた。『きのこは、そうしてはえるもんですかね。』するとありがいうのさ。『いいえ、みんなというわけにはまいりません。この木の枝は、ふしぎな枝でね。なんでも大きくしたり

小さくしたりできるんです。この先に、ちょっと水をつけて、大きくなれ、大きくなれってふると、種があるものなら、ほら、このとおり。』するとまた、びょこんときのかかはえたんだ。そこでわたしは、ちょいとありをつまんで、木の枝をとりあげてな、それでおまえの机をためしてみたんだよ。『大きくなれ、大きくなれ。』といってね。そうしたらこのとおり。』

おとうさんは、得意そうに机をさしました。

「それから、あとはどうしたの。」

「それがなあ、とぶように売れるんだよ。これひと組だけ残って、みんな売れてしまったんだよ。」

「じゃあ、マリーの机やいすがないじゃないか。あした来るんだから、返してよ。」とジャンは泣き出していきなり木の枝をとると、花びんにつまこんで水をつけ、叫びました。

「ぼくのいす、ぼくの机、みんなちいさくなれえ。」

ずしん。おばあさんがしりもちをつきました。ガッチャン、コーヒー茶わんがこわれました。おじいさんがとんで来ました。

「どうしたんだ。どうしたんだ。」

おばあさんは、しりもちをついて、うなっています。

「おじいさん、いすが、いすが——。」

やっと起きあがってみると、今まですわっていた、いすも机も消えてしまって、コーヒー茶わんがひっくりかえっているだけなのです。

「おじいさん、いまね、きのう買ってきた机にコーヒーをのせて、わたしはいすにこしかけていたんですよ。そうしたら、いきなりはねとばされてしまったんですよ。」

「だって、いすも机もないよ。」

「え、ほんとうですか。」

ふたりは、きょろきょろ見まわしました。

「わたしは、こわくなってきましたよ。」

おばあさんは、がたかたふるえました。

「あっ。」

おじいさんが叫びました。床の上に、かわいい、かわいい、小指ほどの机といすが、ちょこんとあるのです。

「こりゃ、いったい、どうしたことだ。」

びっくりしたのは、このおばあさんとおじいさんのふたりだけではありません。東の町でも、西の町でも、ジャンの机といすを買った家では大さわぎでした。そして、手に手におもちゃの小さな机といすを持って、ジャンのお店におしにかけて来ました。

「べんしょうだ。べんしょうだ。」とみんな叫びました。

「わたしは、やっとの思いで長年ためた貯金^{ちよきん}で買ったのだよ。せめて、年とってからゆっくりしたいすにすわりたいと思って、町じゅうさがして買ったんだよ。」

「海にはいって、あがってみたら、机^{つくえ}もいすもないので、びっくりしましたよ。子どもが砂の中から見つけて、どうもへんだと思って来てみたんですよ。」

おとうさんは、おろおろしています。

ジャンは、なみだをふいて、立って言いました。

「ごめんなさい。ぼく、みんなのこと忘れていました。」

そして、ひと組^{ひとぐみ}残った机^{のこ}といすに手をかけて言いました。

「これ一つ残して大きくなれえ。」

みんなが、大さわぎしてひきあげていったあとで、ジャンは、しょんぼり腰^{こし}をおろしているおとうさんに、だきついて言いました。

「おとうさん、ぼく、もうすぐ学校を出るでしょう。そしたら、こんどはほんもののいすや机^{つくえ}を作って、うんとお店を大きくしましょう。だから、この木の枝は、ありに返してやりましょうね。」

問題三の答^{こたえ}

年		男	な
組	番	女	ま
			え

1. 修学旅行^{しゅうがくりょこう}に行った人は、
 { ジャン（兄）です。
 マリー（妹）です。
2. 電報^{でんぽう}をよこした人は、
 { ジャン（兄）です。
 マリー（妹）です。
3. 二階^{にかい}のジャンのへやには、ジャンが毎日^{まいにち}使っていた机^{つくえ}やいすが、
 { もとのままあり
 なくなっていました。
4. 小さな机^{つくえ}といすは、
 { ジャンが、マリーのために作ってやったものです。
 おとうさんが、ジャンのために作ってやったものです。
5. おとうさんは、魔法^{まほう}のやり方を、
 { きのこに聞きました。
 ありに聞きました。
6. 魔法^{まほう}の力のあるものは、
 { 木の枝^{えだ}です。
 あります。
7. おとうさんがためしてみた魔法^{まほう}は、
 { とても、ききめがありました。
 少しも、ききめがありませんでした。
8. おばあさんがしりもちをついたのは、
 { コーヒー茶わん^{ちやわん}がこわれてびっくりしたか
 こしかけていたいすが急に小さくなったか

からです。

からです。

9. ジャンがためしてみた魔法は、^{まほう} } とも、ききめがありました。
 { 少しも、ききめがありませんでした。

10. みんなは、^かジャンの店で買った机やいすが急に小さくなって、使えなくなった
^{つくえ}ジャンの店で買った机やいすが、急になくなってしまったから、か
 ので怒って来ました。
^{つくえ}わりの机やいすをもらいにやって来ました。

11. ジャンは、おとうさんに、マリーが来たら、その木の枝を^{えだ}みせてやろうと、
 { い
 { い
 いました。
 いません。

12. この物語を読んで、ジャンはどういう気持の少年だと思えますか。

- イ、自分の思うようにならないと、おとうさんを困らせたり、みんなにめいわく
 をかけたりする、いけない少年です。
 ロ、妹思いのやさしい心をもっているし、みんなにめいわくをかけたら、すぐ悪
 いと思って改める、すなおな少年です。

(3) 生活環境調査

これは新聞閲読度合、新聞理解度と国語能力の基礎に横たわる諸要因を検討するためのものである。

生活調査表

年 組 番		男 女	な ま え	昭和 年 月 日生
1	あなたは、これまでほかの土地にすんでいたことがありますか。	イ、ある ロ、ない	(1) すんでいた場所() (2) すんでいた場所() (3) すんでいた場所()	いくつのとき() いくつのとき() いくつのとき()
2	あなたが、学校の遠足や修学旅行のほかに、行ったり見たりしたことのある土地について	イ、ときどき行く所 ロ、この1年間に行った所 ハ、生まれてから今までに行ったことのある中でいちばん遠い所 ニ、もし行けるとすれば、今いちばん行ってみたい所	(1) (2) (3) (1) (2) (3) () ()	() () () ()

3	あなたは手紙やはがきを1か月 にどのくらい書きますか	0回 0~1回 1回 2~4回 5回以上
読書	イ、この3か月 間によんだ 本の名	
	ロ、これまでよんだ本 の中で「おもしろ かった」「ために なった」と思う本 2さつずつ	(1) おもしろかった本 ()() (2) ためになった本 ()()
	ハ、あなたは1か月間 に何さつぐらい本 とざっしをよみますか	(1) 本 0さつ 0~1さつ 1さつ 2さつ 3さつ以上 (2) ざっし 0さつ 0~1さつ 1さつ 2さつ 3さつ以上
	ニ、あなたのうちには、 ぜんたいで本は何さ つぐらいありますか	0さつ 1~10さつ 11~20さつ 21~50さつ 51~100さつ 101~200さつ 201さつ以上
ラジオ	ホ、あなたのうちでは、 毎月ざっしをとって いますか	イ、とっている—— ざっしの名 ロ、とっていない
	イ、あなたのうちに、ラジオはありますか	(1) ある (2) ない
5分	ロ、あなたはラジオをどの くらいききますか	(1) 毎日きく (2) きいたりきか なかったり (3) きかない
	ハ、あなたは1日にどのくらいききますか	時 間 分
	ニ、あなたがきま ってきく番組 は何ですか	
	ホ、好きな番組を3 つあげて下さい	(1) (2) (3)
オ	ヘ、うちの人がかならずきく 番組は何ですか	
	ト、うちでおもにダイヤルをまわすのはだれですか	
	チ、うちでおもにきくのはだれですか	

6	イ、学校で見る以外に1か月にだいたい何回ぐらい映画を見ますか	0回 0~1回 1回 2回 3回以上
映	ロ、だれと見ますか	(1) 家の人 (2) 友だち (2) ひとりで
画	ハ、学校で見たものをいれて近ごろ見た映画でよかったものは何ですか	
7	あなたのうちでは、その日の新聞やラジオで伝えられたことを話題にして話し合いますか	(1) いつも話しあう (2) とくとき話しあう (3) 話しあわない
8	あなたの好きな ^{がっか} 学課は何ですか。いちばん好きなものを1つ書いて下さい	
9	あなたがふだん好きでやっていること(趣味)にはどんなことがありますか	
10 お い す か い	イ、おこずかいは1か月にどのくらいもらいますか	
	ロ、どんなふうにしてもらいますか	(1) 毎月きまってもら (2) 毎日もら (3) ほしいときにもら
11	あなたは学校から帰るとつぎのうち何にいちばん多く時間をつかいますか	(1) 家の手つだい (2) 遊び (3) 勉強 (4) わからない
12	あなたは、夜、たいてい何時ごろねますか	
13	あなたは大きくなったらどういう人になりたいと思いますか	
14	あなたが、今、いちばん気にかかることや心配なことは何でしょうか。たとえば「気になるなあ」とか「こまったなあ」とか「何とかならないかなあ」とか、今いちばん強く感じていることは何ですか	(1) (2)
15	つぎのうちで、あなたが今いちばん希望していることは何ですか。いちばん希	(1) すきなことを思うぞんぶんやってみたい (2) 人からほめられるような、ほんとうにえらい人になりたい (3) 家の人たちが、いつまでも仲よく幸福にくらせるとよい (4) 家のくらしが、もっとらくになるとよい (5) 学校の友だちは、いつまでも仲よく助け合って行きたい

国立国語研究所刊行書

国立国語研究所報告 1	八丈島の言語調査
国立国語研究所報告 2	言語生活の実態 (秀英出版刊) 辛 300.00 — 白河市および附近の農村における —
国立国語研究所報告 3	現代語の助詞・助動詞 — 用法と実例 —
国立国語研究所報告 4	現代語の語彙調査 婦人雑誌の用語
国立国語研究所報告 5	地域社会の言語生活 (秀英出版刊) 辛 600.00 — 鶴岡における実態調査 —
国立国語研究所報告 6	少年と新聞 — 小学生・中学生の新聞への接近と理解 —
国立国語研究所報告 7	入門期の言語能力
国立国語研究所資料集 1	国語関係刊行書目 (昭和17-24年)
国立国語研究所資料集 2	調 査 — 現代新聞用語の一例 —
国立国語研究所資料集 3	送り仮名法資料集
昭和 24 年 度	国立国語研究所年報 1
昭和 25 年 度	国立国語研究所年報 2
昭和 26 年 度	国立国語研究所年報 3
昭和 27 年 度	国立国語研究所年報 4

昭和 29 年 3 月

473

国立国語研究所

東京都新宿区四谷霞丘
聖徳記念絵画館内
電話 青山 (40) { 0992
 { 2874

SCHOOLCHILDREN AND NEWSPAPER

How do they do with newspaper
and understand it ?

CONTENTS

Foreword

I. How do the Schoolchildren do with Newspaper ?

- A. Their reading habits. B. Difference in attitude by reading material.

II. Influence of Environments.

- A. Measuring of their approach to newspaper. B. Factors determining the "distance" and interest.

III. Language Faculty.

- A. Individual records at school. B. *Kanji* and vocabulary.
C. Reading speed.

IV. Understanding of Articles.

- A. The Measuring method adopted. B. Improvement of understanding. C. Which reading material is better understood ?
D. Intelligence and personal environments. E. Intelligence and language faculty. F. Intelligence and the "distance" index.

V. The Life of Schoolchildren and Mass-communication.

- A. How do they know daily events ? B. Newspaper for school-children. C. School and class journals. D. The role played by radio. E. Movies and news-reels. F. Reading life.

Conclusions.

- A. Results attained. B. Future prospects. C. Reconsiderations on the survey.

References : Surveys prepared in the past.

Appendix : A. Locality; Children sampled; Dates. B. Field surveyer.
C. Inquiring-sheet.

THE NATIONAL LANGUAGE RESEARCH INSTITUTE
YOTUYA, SINZYUKU, TOKYO

1954